

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2016-515527

(P2016-515527A)

(43) 公表日 平成28年5月30日(2016.5.30)

(51) Int.Cl.

C07D 265/38 (2006.01)
 A61K 31/538 (2006.01)
 C07H 17/00 (2006.01)
 A61K 31/706 (2006.01)
 A61P 3/00 (2006.01)

F 1

C07D 265/38
 A61K 31/538
 C07H 17/00
 A61K 31/706
 A61P 3/00

C S P
 A 6 1 K
 A 6 1 P
 3/00

テーマコード(参考)

4C056
 4C057
 4C086

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 134 頁) 最終頁に続く

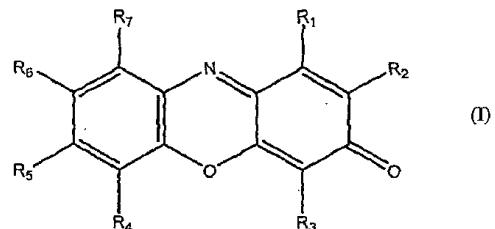
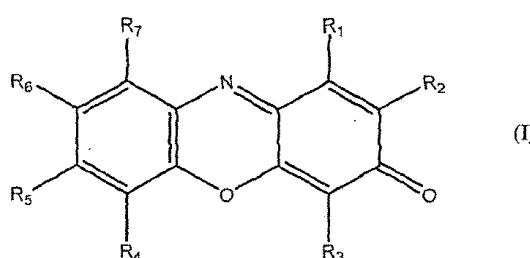
(21) 出願番号 特願2016-503225 (P2016-503225)
 (86) (22) 出願日 平成26年3月14日 (2014.3.14)
 (85) 翻訳文提出日 平成27年11月6日 (2015.11.6)
 (86) 國際出願番号 PCT/US2014/029809
 (87) 國際公開番号 WO2014/145118
 (87) 國際公開日 平成26年9月18日 (2014.9.18)
 (31) 優先権主張番号 13/837,872
 (32) 優先日 平成25年3月15日 (2013.3.15)
 (33) 優先権主張国 米国(US)

(71) 出願人 507393285
 エジソン ファーマシューティカルズ,
 インコーポレイテッド
 アメリカ合衆国 カリフォルニア 940
 43, マウンテン ビュー, ノース
 バーナード アベニュー 350
 (74) 代理人 100078282
 弁理士 山本 秀策
 (74) 代理人 100113413
 弁理士 森下 夏樹

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】酸化ストレス障害の処置のためのレゾルフィン誘導体

(57) 【要約】



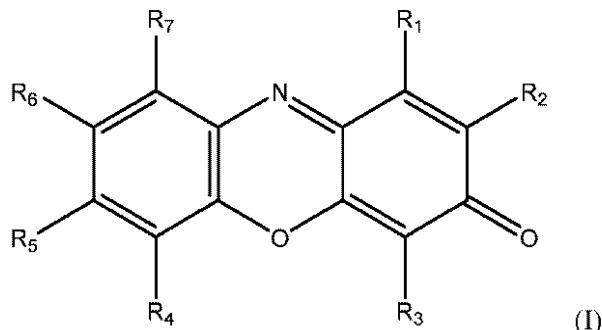
ミトコンドリア障害、エネルギー処理低下障害、神経変性疾患および老化による疾患を含めた酸化ストレス障害を処置または抑制するための、レゾルフィン誘導体化合物およびこのような化合物を使用する方法が本明細書で開示される。別の態様では、本発明は、酸化ストレス障害を処置または抑制するための、本明細書に記載されている化合物の使用である。別の態様では、本発明は、酸化ストレス障害の処置または抑制において使用するための薬品の製造における、本明細書に記載されている化合物の使用である。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式(I)の化合物：

【化 1 6 8】



10

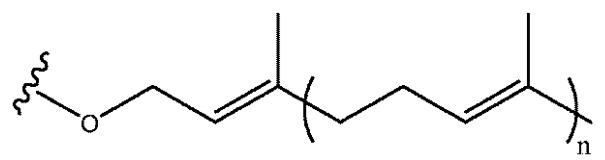
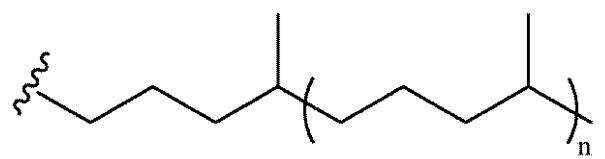
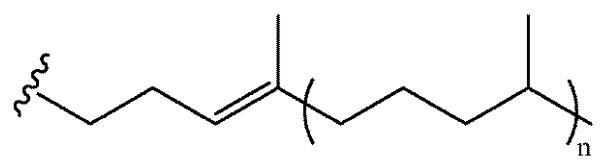
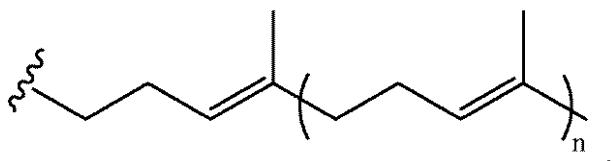
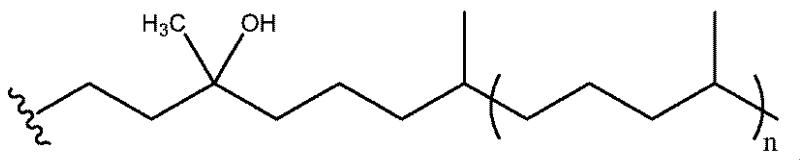
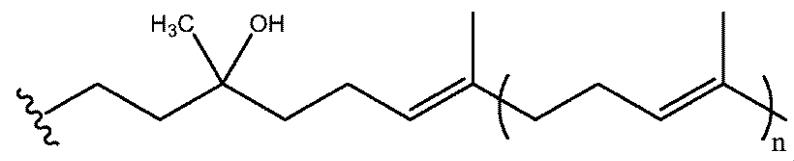
20

[式中、

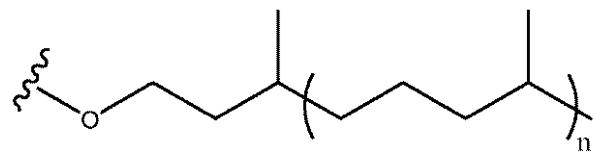
R₁およびR₂は、独立して、-C₁~C₄アルキル、-O-C₁~C₄アルキル、-H、および-C₁~C₄ハロアルキルからなる群から選択され、R₃は、-C₁~C_{1~2}アルキル、-H、-O-C₁~C_{1~2}アルキル、および-C₁~C_{1~2}ハロアルキルからなる群から選択されるか、または

R₁およびR₂は両方とも-CH₃であるか、もしくはR₁およびR₂は両方とも-OCH₃であり、R₃は、

【化169】



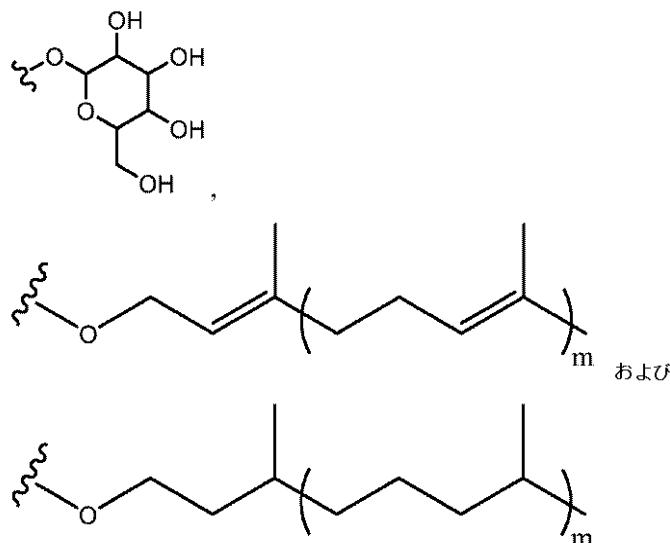
および



(nは0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、

R₄、R₅、R₆、およびR₇は、独立して、-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C₁~C₁₂アルキル、-H、-OH、-C₂~C₁₂アルケニル、-O-C₁~C₁₂アルキル、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C₆~C₁₀アリール、-O-C₆~C₁₀アリール、-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-O-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、

【化170】



10

20

30

からなる群から選択され、

ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-C_{H₃}からなる群から選択され、

R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、

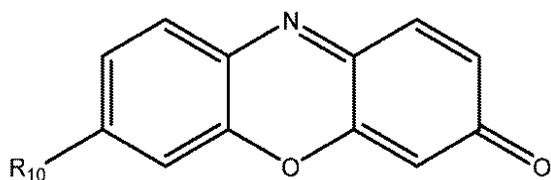
R₁₃は-Hまたは-C₁～C₄アルキルであり、

R₁₄は、ヒドロキシ、-O-C₁～C₄、ヘテロシクリル、アリール、もしくはヘテロアリールで任意選択で置換されている-C₁～C₁₂アルキルであるか、またはR₁₄は-C₁～C₁₅アルキルであり、該アルキル基中の炭素の2個もしくはそれ超は酸素で置き換えられており、

mは、0、1、2、または3である]、

またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩であって、ただし、

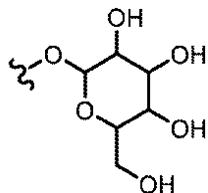
【化171】



(式中、R₁₀は、-H、-OH、-O-アルキル、-O-ベンジル、-O-C(O)-アルキル、-O-C(O)-アリール、または

【化172】

40



である)でも、その立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩でもない化合物。

【請求項2】

R₁、R₂、およびR₃が-C_{H₃}である、請求項1に記載の化合物。

50

【請求項3】

R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が-CH₃である、請求項1に記載の化合物。

【請求項4】

R₁およびR₃が-CH₃であり、R₂が-Hである、請求項1に記載の化合物。

【請求項5】

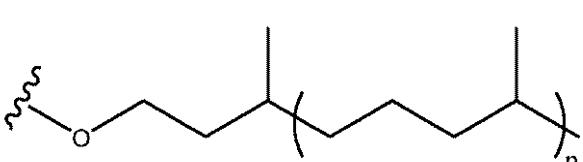
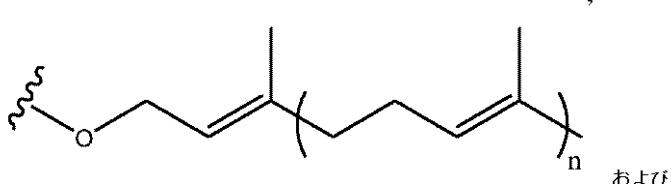
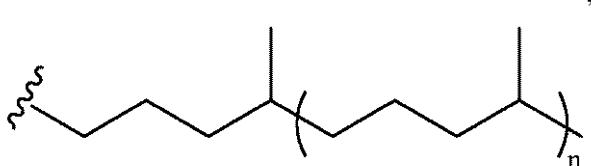
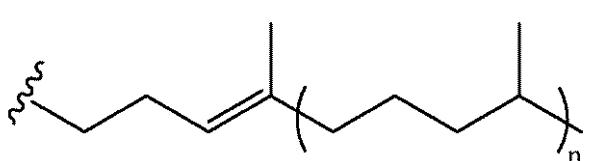
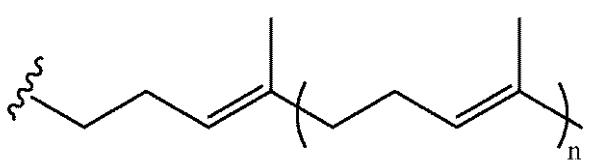
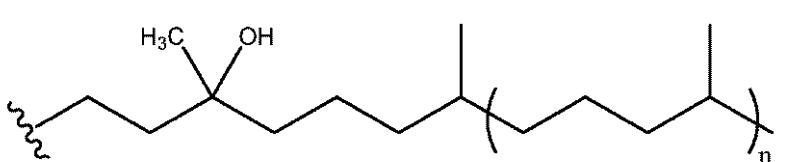
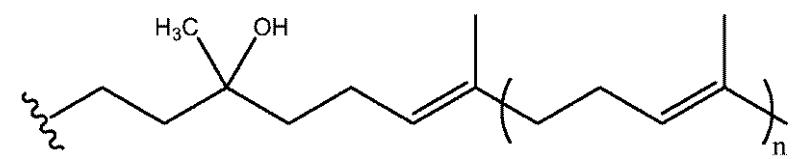
R₁およびR₂が-CH₃であり、R₃が-n-C₁~C₁₂アルキルである、請求項1に記載の化合物。

【請求項6】

R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が-n-C₁~C₁₂アルキルである、請求項1に記載の化合物。 10

【請求項7】

R₁およびR₂が-CH₃であり、R₃が、
【化173】



からなる群から選択される、請求項1に記載の化合物。

10

20

30

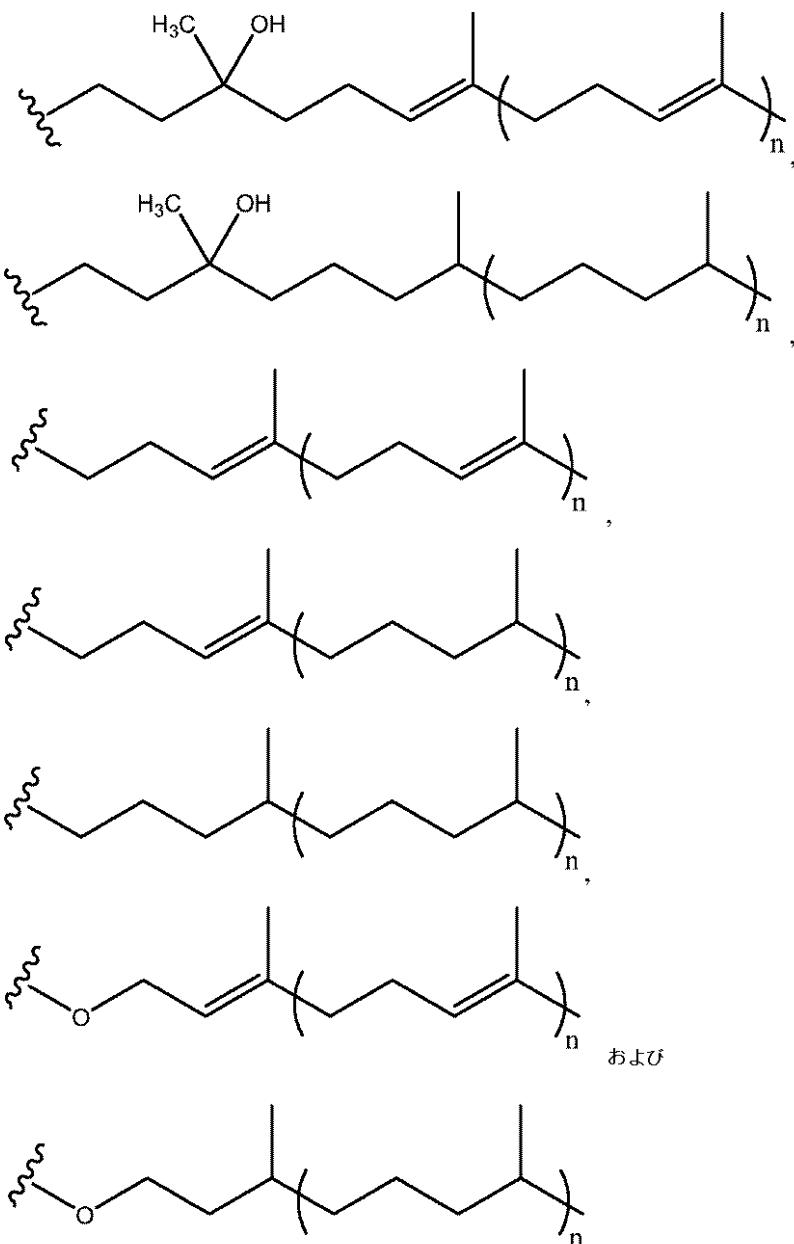
40

50

【請求項 8】

R₁ および R₂ が -OCH₃ であり、R₃ が、

【化 1 7 4】



からなる群から選択される、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 9】

R₁、R₂、および R₃ が -H である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 10】

R₄、R₅、R₆、および R₇ の 3 つが -H である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 11】

R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが -C_{1~2} ハロアルキルである、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 12】

R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが -C(O)-N(R_{1~4})(R_{1~4}) である、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 13】

R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが -C_{1~2} アルキルである、請

40

50

求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の化合物。

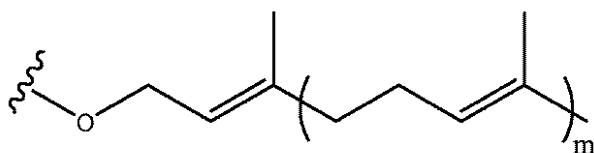
【請求項 1 4】

R₄、R₅、R₆、およびR₇が-Hである、請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 1 5】

R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも 1 つが、独立して、-C₁~C₆アルキル、-O-C₁~C₆アルキル、-N-(R₈)(R₉)（式中、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁~C₄アルキルである）、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化 175】



10

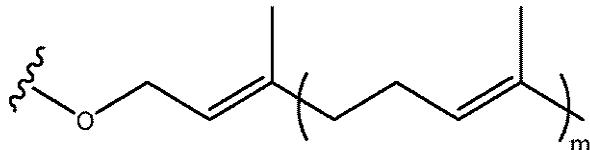
（式中、mは1または2である）からなる群から選択される、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 1 6】

R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が、-N(CH₃)₂、-O-ベンジル、-O-CH₃、-O-n-C₂~C₅アルキル、-CF₃、-CH₃、および

20

【化 176】

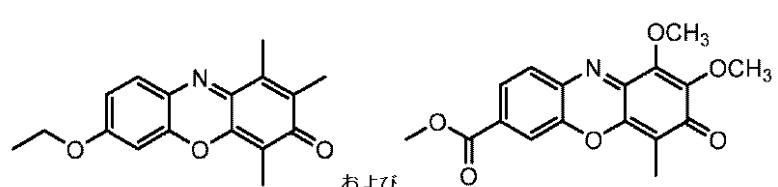
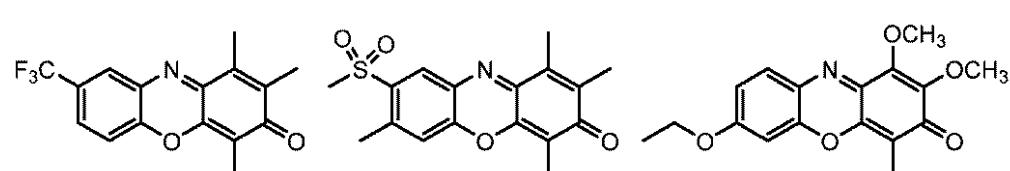
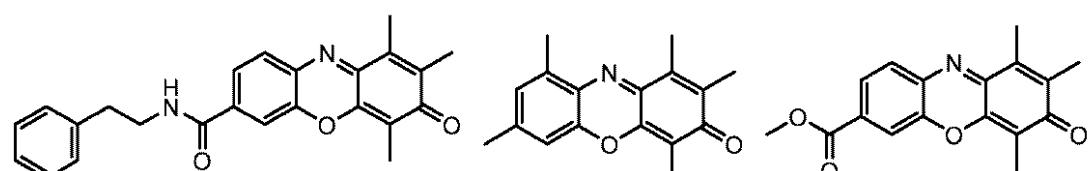
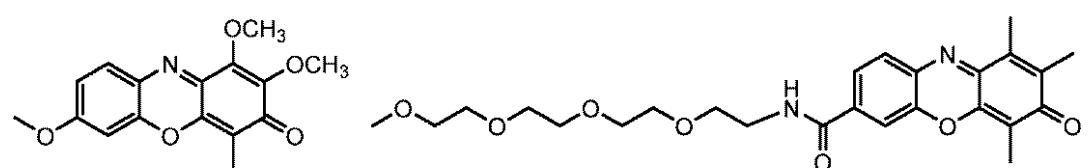
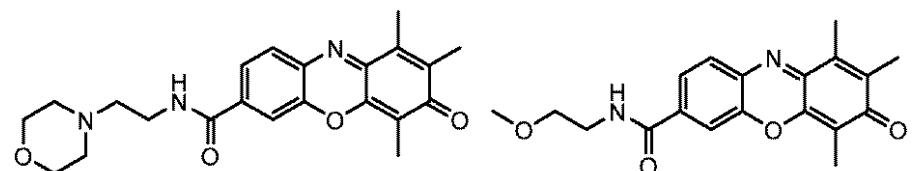
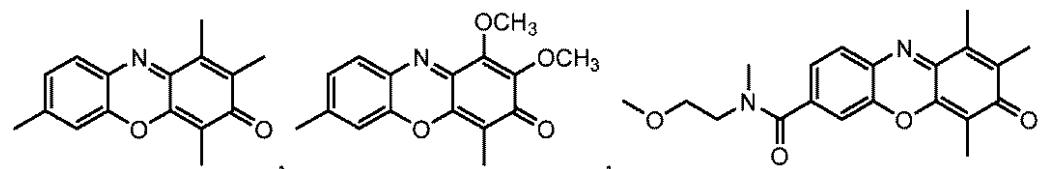
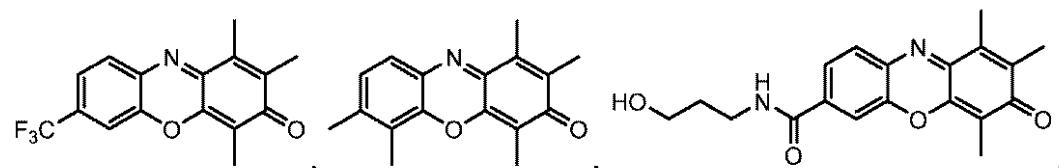


（式中、mは1または2である）からなる群から選択される、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の化合物。

30

【請求項 1 7】

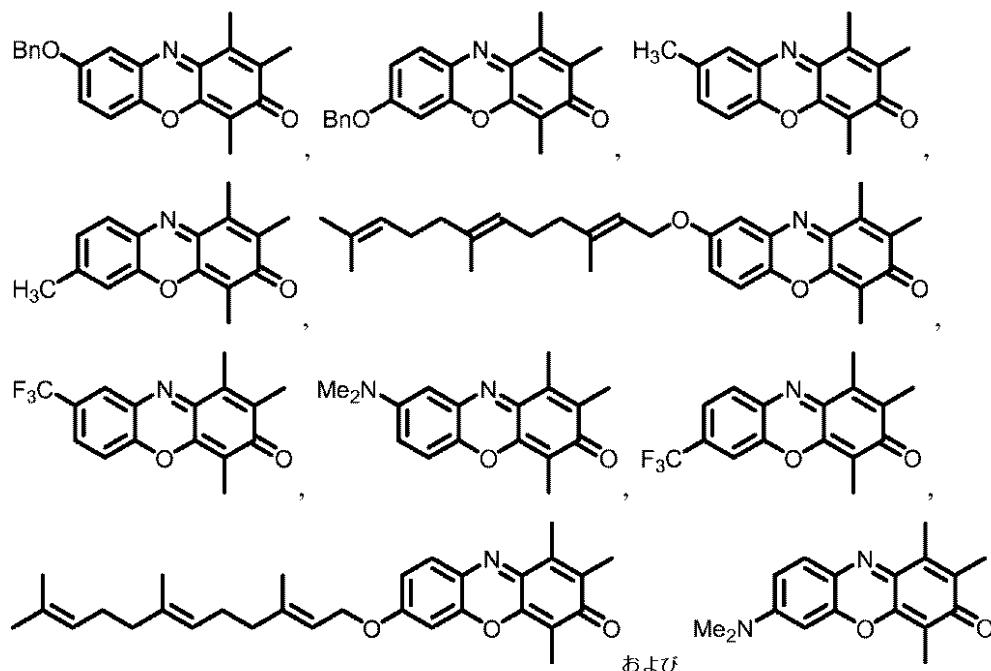
【化 1 7 7】



からなる群から選択される請求項 1 に記載の化合物またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩。

【請求項 18】

【化178】



10

20

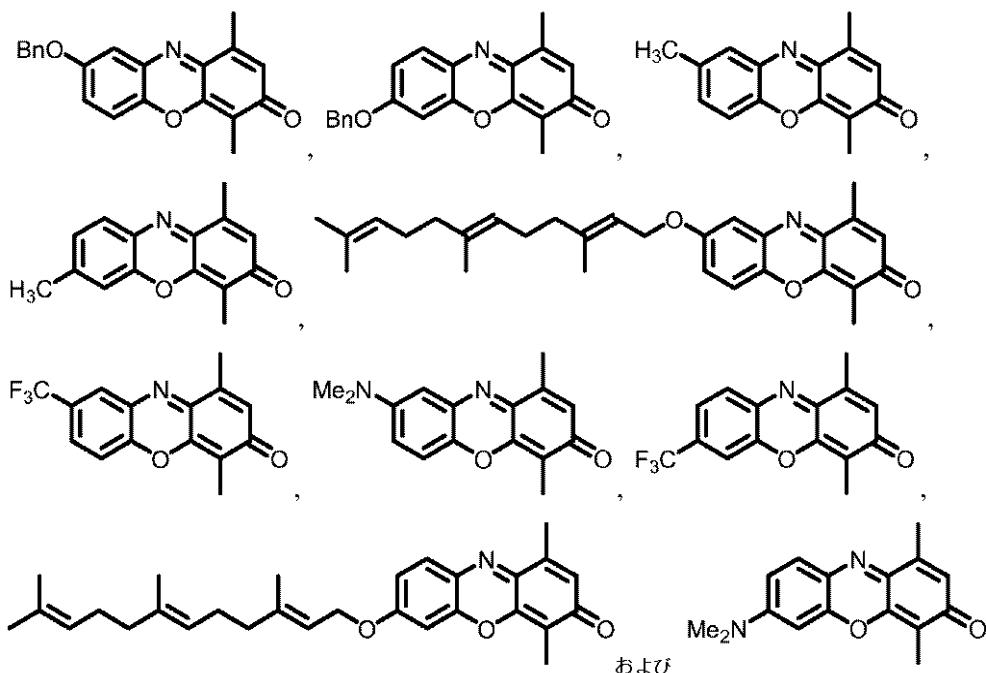
30

40

からなる群から選択される請求項1に記載の化合物またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩。

【請求項19】

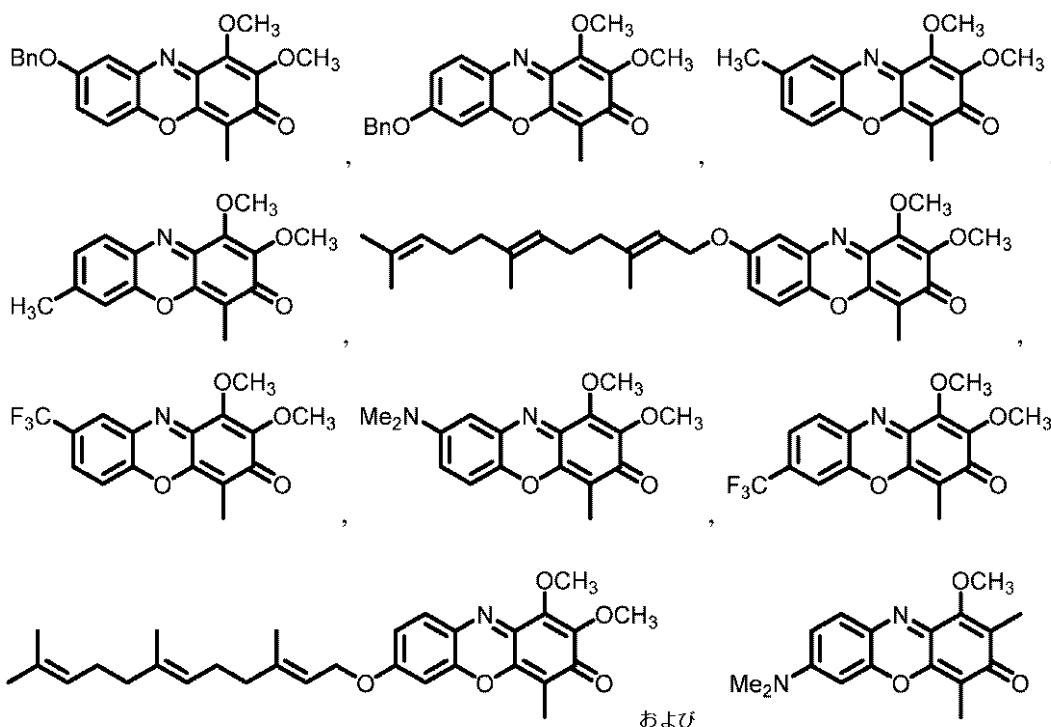
【化179】



からなる群から選択される請求項1に記載の化合物またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩。

【請求項20】

【化180】



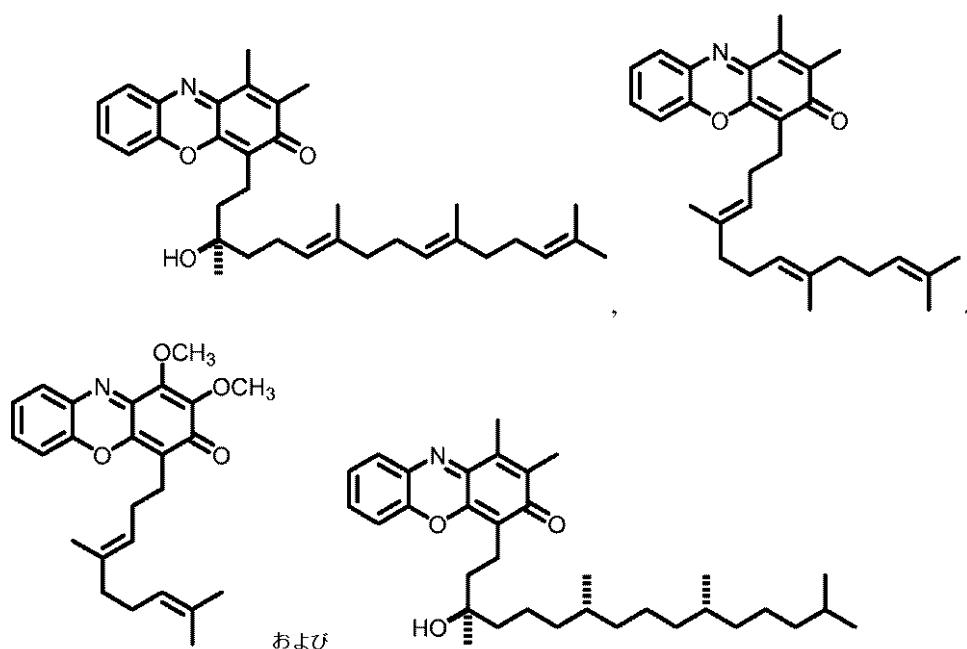
10

20

からなる群から選択される請求項1に記載の化合物またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩。

【請求項21】

【化181】



30

40

からなる群から選択される請求項1に記載の化合物またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩。

【請求項22】

請求項1から21のいずれか一項に記載の化合物と薬学的に許容される添加剤とを含む、医薬製剤。

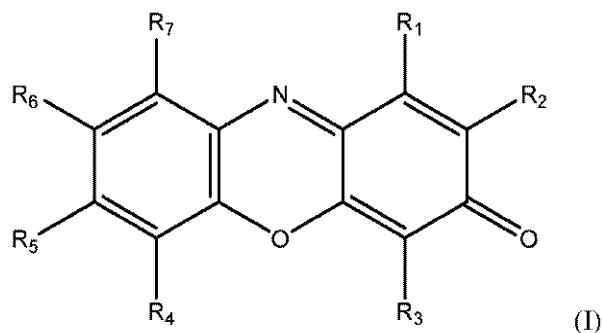
【請求項23】

酸化ストレス障害を処置もしくは抑制する方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオ

50

マークーをモジュレートする方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマークーを正常化する方法、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマークーを強化する方法であつて、治療有効量または有効量の式(I)の化合物：

【化182】



10

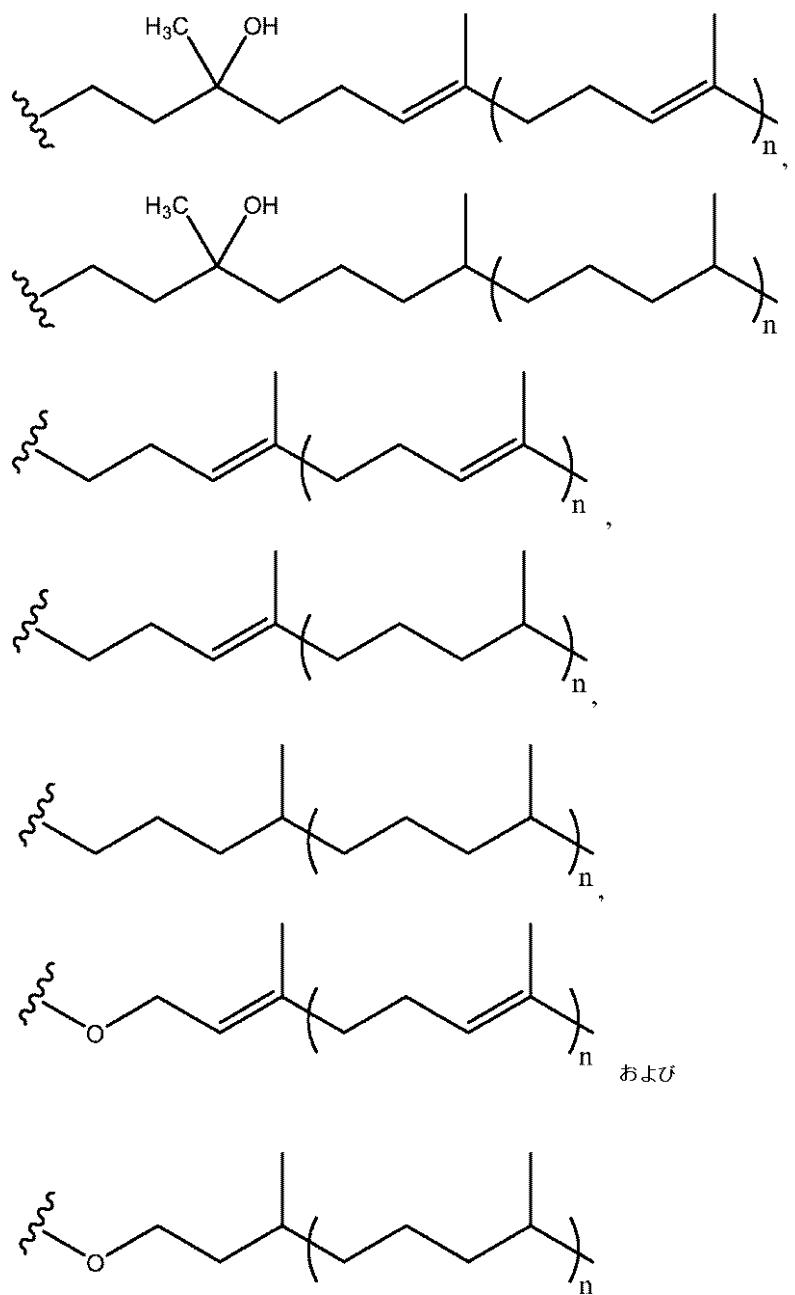
20

[式中、

R₁およびR₂は、独立して、-C₁~C₄アルキル、-O-C₁~C₄アルキル、-H、および-C₁~C₄ハロアルキルからなる群から選択され、R₃は、-C₁~C_{1~2}アルキル、-H、-O-C₁~C_{1~2}アルキル、および-C₁~C_{1~2}ハロアルキルからなる群から選択されるか、または

R₁およびR₂は両方とも-CH₃であるか、もしくはR₁およびR₂は両方とも-OCH₃であり、R₃は、

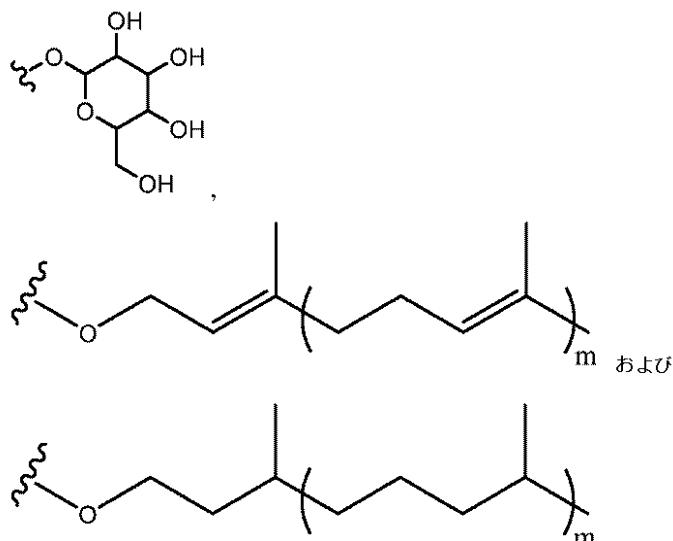
【化 1 8 3】



(nは0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、

R₄、R₅、R₆、およびR₇は、独立して、-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C₁~C₁₂アルキル、-H、-OH、-C₂~C₁₂アルケニル、-O-C₁~C₁₂アルキル、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C₆~C₁₀アリール、-O-C₆~C₁₀アリール、-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-O-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、

【化184】



10

20

30

40

50

からなる群から選択され、

ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-C_{H₃}からなる群から選択され、

R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、

R₁₃は-Hまたは-C₁～C₄アルキルであり、

R₁₄は、ヒドロキシ、-O-C₁～C₄、ヘテロシクリル、アリール、もしくはヘテロアリールで任意選択で置換されている-C₁～C₁₂アルキルであるか、またはR₁₄は-C₁～C₁₅アルキルであり、該アルキル基中の炭素の2個もしくはそれ超は酸素で置き換えられており、

mは0、1、2、または3である]

またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩を対象に投与するステップを含む、方法。

【請求項24】

ミトコンドリア障害；遺伝性ミトコンドリア病；アルパース病；バース症候群；酸化欠陥；カルニチン-アシル-カルニチン欠損症；カルニチン欠損症；クレアチン欠損症候群；コエンザイムQ10欠損症；複合体I欠損症；複合体II欠損症；複合体III欠損症；複合体IV欠損症；複合体V欠損症；COX欠損症；慢性進行性外眼筋麻痺(CPEO)；CPT-I欠損症；CPT-II欠損症；フリードライヒ運動失調症(FAH)；グルタル酸尿症II型；ケーンズセイヤー症候群(KSS)；乳酸アシドーシス；長鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(LCADD)；LCMAD；リー病；リー様症候群；レベル遺伝性視神経萎縮症(LHON)；致命的な乳児性心筋症(LIC)；ルフト病；多種アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(MADD)；中鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(MCADD)；ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、脳卒中症候群(MELAS)；赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌスてんかん(MERRF)；ミトコンドリア劣性運動失調症候群(MIRAS)；ミトコンドリア細胞症、ミトコンドリアDNA欠失；ミトコンドリア脳症；ミトコンドリアミオパシー；ミトコンドリア神経胃腸性障害および脳症(MNGIE)；ニューロパシー、運動失調、および網膜色素変性症(NARP)；ピアソン症候群；ビルビン酸カルボキシラーゼ欠損症；ビルビン酸デヒドロゲナーゼ欠損症；POLG突然変異体；呼吸鎖障害；短鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(SCADD)；SCHAD；超長鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(VLCADD)；ミオパシー；心筋症；脳筋症；神経変性疾患；パーキンソン病；アルツハイマー病；筋萎縮性側索硬化症(ALS)；運動ニューロン疾患；神経疾患；てんかん；老化に伴う疾患；黄斑変性；糖尿病；メタボリックシンドローム；がん；脳がん；遺伝性疾患；ハンチントン病；気分障害；統合失調症；双極性障害；広汎性発達障害；自閉症性障害；アス

ペルガー症候群；小児期崩壊性障害（CDD）；レット症候群；特定不能の広汎性発達障害（PDD-NOS）；脳血管発作；脳卒中；視力機能障害；視神経症；優性遺伝性若年性視神経萎縮症；有毒薬剤により引き起こされた視神経症；緑内障；シュタルガルト黄斑ジストロフィー；糖尿病性網膜症；糖尿病性黄斑症；未熟児網膜症；虚血再灌流関連の網膜損傷；酸素毒作用；ヘモグロビン異常症；サラセミア；鎌状赤血球性貧血；発作；虚血；尿細管性アシドーシス；注意欠陥／多動性障害（ADHD）；聴力または平衡機能障害をもたらす神経変性障害；優性視神経萎縮症（DOA）；母系遺伝性糖尿病および難聴（MIDD）；慢性疲労；造影剤誘発性腎障害；造影剤誘発性網膜症損傷；無リポタンパク質血症；網膜色素変性症；ウォフラム病；トウレット症候群；コバラミンC型欠陥；メチルマロン酸尿症；グリア芽細胞腫；ダウン症候群；急性尿細管壞死；筋ジストロフィー；白質ジストロフィー；進行性核上性麻痺；脊髄性筋萎縮症；聴覚損失；ノイズ誘発性聴覚損失；外傷性脳傷害、若年性ハンチントン病；多発性硬化症；NGLY1；多系統萎縮症；副腎白質ジストロフィー；および副腎脊髄神経障害からなる群から選択される酸化ストレス障害を処置する方法である、請求項23に記載の方法。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

関連出願との相互参照

本出願は、2013年3月15日に出願された米国特許出願第13/837,872号に対する優先権の利益を主張する。その出願の全体の内容が、本明細書によって参考として本明細書中に援用される。

20

【0002】

本出願は、酸化ストレス障害に関係した疾患、発育遅延および症状の処置または抑制に対して有用な組成物および方法を開示する。このような障害の例として、ミトコンドリア障害、エネルギー処理低下障害、神経変性疾患および老化による疾患が挙げられる。

【背景技術】

【0003】

酸化ストレスは、細胞内の正常なレドックス状態の妨害により引き起こされる。過酸化物およびフリーラジカルなどの反応性酸素種の通常の生成と解毒作用との間の不均衡は、細胞の構造および機構に酸化的損傷をもたらす可能性がある。好気性生物内の、正常な条件下での反応性酸素種の最も重要な供給源は、おそらく、正常な酸化的呼吸中のミトコンドリアからの活性酸素の漏出である。このプロセスに関する機能障害は、ミトコンドリア病、神経変性疾患、および老化による疾患の一因となることが疑われている。

30

【0004】

ミトコンドリアは、真核細胞内の細胞器官であり、細胞の「発電所」と広く呼ばれている。これらの主要機能の1つは、酸化的リン酸化である。分子アデノシン三リン酸（ATP）は、細胞内でエネルギー「通貨」またはエネルギー担体として機能し、真核細胞は、これらのATPの大部分をミトコンドリアにより行われる生化学的プロセスから導き出す。これらの生化学的プロセスとして、酸化型ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（NAD+）から還元型ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（NADH+H+）を生成するクエン酸回路（トリカルボン酸回路、またはクレブス回路）、およびNADH+H+が酸化されてNAD+に戻る酸化的リン酸化が挙げられる。（クエン酸回路はまた、フラビニアデニンジヌクレオチド、またはFADをFADH2に還元し、FADH2もまた酸化的リン酸化に関与している。）

40

【0005】

NADH+H+の酸化により放出された電子は、ミトコンドリアの呼吸鎖として公知の一連のタンパク質複合体（複合体I、複合体II、複合体III、および複合体IV）に運ばれて、ここを行き来する。これらの複合体は、ミトコンドリアの内膜に埋め込まれている。複合体IVは、鎖の終わりで電子を酸素に移動させ、これが還元されて水となる。これらの電子が複合体を横断する際に放出されたエネルギーが使用され、ミトコンドリア

50

の内膜の全域でプロトン勾配を生じ、これが、内膜の全域で電気化学的電位を作り出す。別のタンパク質複合体である、複合体V（これは、複合体I、II、IIIおよびIVと直接的に関連しない）は、電気化学的勾配によって貯蔵されたエネルギーを使用してADPをATPに変換する。

【0006】

生物中の細胞が一時的に酸素を奪われると、酸素が再度利用可能となるまで無気呼吸が利用されるか、さもなければ細胞は死滅する。解糖中に生成されたピルビン酸は、無気呼吸中に乳酸に変換される。乳酸の蓄積は、筋肉細胞に酸素を供給することができない激しい活動期間中の筋肉疲労の原因であると考えられている。酸素が再度利用可能となると、乳酸は、変換されてピルビン酸に戻り、酸化的リン酸化において使用される。

10

【0007】

酸素中毒または毒性は、身体にダメージを与え、フリーラジカルならびに一酸化窒素、過酸化亜硝酸、およびトリオキシダンなどの他の構造の形成を増加させ得る高濃度の酸素により引き起こされる。通常、身体はこのような損傷に対して多くの防御系を有するが、遊離酸素の濃度が高くなると、これらの系は時間の経過と共に最終的に圧倒され、細胞膜の損傷率は、系がそれを制御または修復する許容量を超える。こうして細胞損傷および細胞死が生じる。

【0008】

組織への酸素の輸送における定性的および／または定量的な破壊は、赤血球の機能におけるエネルギー破壊をもたらし、ヘモグロビン異常症 (*haemoglobinopathies*) など様々な疾患の原因となる。ヘモグロビン異常症は、ヘモグロビン分子のグロビン鎖の1つの異常な構造をもたらす遺伝的欠陥の1種である。一般的なヘモグロビン異常症として、サラセミアおよび鎌状赤血球病が挙げられる。サラセミアは、遺伝性常染色体劣性の血液疾患である。サラセミアにおいて、遺伝的欠陥は、ヘモグロビンを構成するグロビン鎖の1つの合成速度の低下をもたらす。サラセミアは、合成されるグロビンが少なすぎるという定量的問題であるのに対し、鎌状赤血球病は、正しく機能しないグロビンの合成という定性的問題である。鎌状赤血球病は、異常な、硬い、鎌状の形状をとる赤血球を特徴とする血液障害である。鎌状化は細胞の柔軟性を低減させ、血管を介した赤血球の移動の制限をもたらし、下流の組織から酸素を奪う。

20

【0009】

ミトコンドリアの機能不全は、様々な疾患状態の原因となる。いくつかのミトコンドリア病は、ミトコンドリアゲノムにおける突然変異または欠失による。細胞内の閾値割合のミトコンドリアが欠陥している場合、および組織内の閾値割合のこのような細胞が欠陥ミトコンドリアを有する場合、組織または臓器不全の症状が生じ得る。実際に、任意の組織に影響を与える可能性があり、異なる組織が関与する程度に応じて、多種多様の症状が存在し得る。ミトコンドリア病のいくつかの例は、フリードライヒ運動失調症 (FRDA) 、レーベル遺伝性視神経萎縮症 (LHON) 、ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、および脳卒中 (MELAS) 、赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌスてんかん (MERF) 症候群、リー病、および呼吸鎖障害である。大部分のミトコンドリア病は、神経変性疾患、脳卒中、失明、聴力機能障害、視力機能障害、糖尿病、および心不全を含む促進老化の兆しありおよび症状が現れている小児を含む。

30

【0010】

フリードライヒ運動失調症は、タンパク質フラタキシンのレベルが低減することによって引き起こされる常染色体劣性の神経変性および心臓変性障害である。この疾患は、随意運動協調性の進行性消失（運動失調）および心臓合併症を引き起こす。症状は通常、小児期に始まり、疾患は患者が年をとるにつれて次第に悪化し、患者は最終的には、運動障害により車椅子生活を強いられるようになる。

40

【0011】

レーベル遺伝性視神経萎縮症 (LHON) は、平均して間に27から34才の間で生じる失明を特徴とする疾患である。心臓の異常および神経系の合併症などの他の症状も生じ

50

得る。

【0012】

ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、および脳卒中（MELAS）は、それ自体乳児、小児、または若年成人において現れる可能性がある。嘔吐および発作を伴う脳卒中は、最も重篤な症状の1つである。虚血性脳卒中において生じるような血流の機能障害ではなく、脳の特定の範囲内のミトコンドリアの代謝性機能障害が細胞死および神経系の病変の原因であると推定されている。

【0013】

赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌスてんかん（MERRF）症候群は、ミトコンドリア脳筋症と呼ばれる稀な筋障害の群の1つである。ミトコンドリア脳筋症は、遺伝物質の欠陥が、エネルギーを放出する細胞構造の一部（ミトコンドリア）から生じる障害である。これは、脳および筋肉の機能不全を（脳筋症）を引き起こす可能性がある。ミトコンドリアの欠陥ならびに「赤色ぼろ線維」（顕微鏡下で見た場合の組織の異常）が常に存在する。MERRF症候群の最も特徴的な症状は、手足または全身に影響を及ぼし得る、通常突然的で、短い、けいれん性痙攣である、ミオクローヌス性発作であり、発語困難（構語障害）、視神経萎縮、小人症、聴覚損失、認知症、および眼の不随意のけいれん（眼振）もまた生じ得る。

10

【0014】

リー病は、中枢神経系の変性を特徴とする珍しい遺伝性の神経代謝障害であり、その症状は通常、3カ月から2才の間に始まり、急速に進行する。大部分の小児において、最初の兆しは、弱い吸引能力、ならびに首のすわりおよび運動技能の損失であってよい。これらの症状は、食欲不振、嘔吐、過敏性、連続的に泣くこと、および発作を伴うこともある。障害が進行するにつれて、症状はまた、全身性衰弱、筋緊張の欠如、および乳酸アシドーシスの発症（これは呼吸器および腎機能の機能障害につながる可能性がある）を含むこともある。心臓の問題が生じることもある。

20

【0015】

コエンザイムQ10欠損症は、運動失調、発作または精神遅滞として現れ、腎不全につながる運動耐容能低下および尿中の再発性ミオグロビンを伴うミオパシー（Di Mauroら、(2005年)、Neuromusc. Disord.、15巻：311～315頁）、小児期発生小脳運動失調および小脳萎縮（Masumeciら、(2001年)Neurology、56巻：849～855頁およびLamperтиら、(2003年)、60巻：1206号：1208頁）；ならびにネフローゼを伴う小児脳筋症などの症候群を伴う、呼吸鎖障害である。CoQ10欠損症を有する患者の筋肉ホモジネートの生化学的測定は、呼吸鎖複合体IおよびII+IIIの活性が激しく低減していることを示したが、複合体IV（COX）は緩やかに低減していた（Gempelら、(2007年)Brain、130巻(8号)：2037～2044頁）。

30

【0016】

複合体I欠損症またはNADHデヒドロゲナーゼNADH-CoQレダクターゼ欠損症は、以下の3つの主要な形態に分類される症状を伴う呼吸鎖障害である：(1)発育遅延、筋力低下、心疾患、先天性乳酸アシドーシス、および呼吸不全を特徴とする致命的な乳児性多系統障害、(2)運動耐容能低下または衰弱として現れる、小児期または成人期に開始するミオパシー、ならびに(3)ミトコンドリア脳筋症(MELASを含む)、これは、小児期にまたは成人期に始まる可能性があり、眼筋麻痺、発作、認知症、運動失調、聴覚損失、色素性網膜症、感覚性ニューロパシー、および制御できない運動を含めた、症状および兆しの可変的組合せからなる。

40

【0017】

複合体II欠損症またはコハク酸デヒドロゲナーゼ欠損症は、脳筋症を含む症状、ならびに成長不良、発育遅延、低血圧症、嗜眠、呼吸不全、運動失調、ミオクローヌスおよび乳酸アシドーシスを含めた様々な徵候を伴う呼吸鎖障害である。

50

【0018】

複合体 I II 欠損症またはユビキノン - シトクロム C オキシドレダクターゼ欠損症は、以下の 4 つの主要な形態に分類される症状を伴う呼吸鎖障害である：(1) 致命的な小児脳筋症、先天性乳酸アシドーシス、低血圧症、ジストロフィー性姿勢、発作、および昏睡、(2) 遅発型（小児期から成人期）脳筋症：衰弱、小人症、運動失調、認知症、聴覚損失、感覚性ニューロパシー、色素性網膜症、および錐体路兆候の様々な組合せ、(3) ミオパシー、固定した衰弱へと進行する運動耐容能低下を伴ったもの、ならびに(4) 乳児組織球様心筋症。

【0019】

複合体 I V 欠損症またはシトクロム C オキシダーゼ欠損症は、以下の 2 つの主要な形態に分類される症状を伴う呼吸鎖障害である：(1) 脳筋症、患者は通常、生後 6 ~ 12 ヶ月は正常であり、次いで発育退行、運動失調、乳酸アシドーシス、視神経萎縮、眼筋麻痺、眼振、ジストニー、錐体路兆候、呼吸器の問題および常習的な発作を示す、ならびに(2) 以下の 2 つの主要な変異形を有するミオパシー：(a) 生後間もなく始まる可能性があり、低血圧症、衰弱、乳酸アシドーシス、赤色ぼろ線維、呼吸不全、および腎臓問題を伴う致命的な乳児性ミオパシー、ならびに(b) 生後間もなく始まる可能性があり、低血圧症、衰弱、乳酸アシドーシス、赤色ぼろ線維、呼吸器の問題を伴うが、(小児が生存した場合) 後で自然に改善する良性の乳児性ミオパシー。

10

【0020】

複合体 V 欠損症または ATP シンターゼ欠損症は、緩徐進行性ミオパシーなどの症状を含む呼吸鎖障害である。

20

【0021】

CPEO または慢性進行性外眼筋麻痺症候群は、視覚ミオパシー、網膜色素変性症、または中枢神経系の機能不全などの症状を含めた呼吸鎖障害である。

30

【0022】

ケアーンズセイヤー症候群 (KSS) は、(1) 20 才よりも若い人間における典型的な発症；(2) 慢性進行性の、外眼筋麻痺；および(3) 網膜の色素変性を含めた 3 つの特色を特徴とするミトコンドリア病である。加えて、KSS は、心臓の伝導障害、小脳の運動失調、および脳脊髄液 (CSF) タンパク質レベルの上昇（例えば、 $> 100 \text{ mg/dL}$ ）を含み得る。KSS に伴う追加的特色として、ミオパシー、ジストニー、内分泌異常（例えば、糖尿病、成長遅延または小人症、および副甲状腺機能低下症）、両側性感音難聴、認知症、白内障、および近位尿細管性アシドーシスを挙げることができる。

【0023】

母系遺伝性糖尿病および難聴 (MIDD) は、母方から受け継いだ糖尿病および感覚神経的難聴を特徴とするミトコンドリア障害である。ほとんどの場合には、MIDD は、口イシンに対してミトコンドリアの tRNA をコードしているミトコンドリア遺伝子 MT-TL1 における点突然変異により引き起こされ、稀なケースとして、グルタミン酸、およびリシンに対してそれぞれミトコンドリアの tRNA をコードしている、MT-T E および MT-T K 遺伝子における点突然変異により引き起こされる。

30

【0024】

遺伝性欠陥があるミトコンドリアを伴う先天性障害に加えて、後天性ミトコンドリア機能不全は、パーキンソン病、アルツハイマー病、およびハンチントン病のような、老化に伴う疾患、特に神経変性障害の原因となる。ミトコンドリア DNA における体細胞変異の発生率は、年齢と共に急激に上昇する。呼吸鎖活動の減弱は、高齢の人々において広く見られる。ミトコンドリア機能不全はまた、興奮毒性の、ニューロン損傷、例えば、脳血管発作、発作および虚血などに伴うものなどにも関わっている。

40

【0025】

上記疾患のうちのいくつかは、呼吸鎖の複合体 I の欠陥により引き起こされていると考えられている。複合体 I から残りの呼吸鎖への電子の移動は、化合物補酵素 Q（ユビキノンとしても公知）により媒介される。酸化型補酵素 Q (CoQ₀x またはユビキノン) は、複合体 I により還元型補酵素 Q (CoQ_{red} またはユビキノール) に還元される。次

50

いで還元型補酵素Qは、その電子を呼吸鎖の複合体I I Iに移し、ここで、これはC o Q o x (ユビキノン)に再酸化される。次いで、C o Q o xは、電子移動のさらなる反復に参加することができる。

【0026】

これらのミトコンドリア病に罹患した患者に利用可能な処置は極めて少ない。最近、化合物イデベノンがフリードライヒ運動失調症の処置に対して提案されている。イデベノンの臨床効果は比較的緩やかであるが、ミトコンドリア病の合併症は非常に重い可能性があるので、有用性が少ない治療法であっても、疾患の未処理の経過よりは好ましい。ミトコンドリア障害を処置するために別の化合物、M i t o Qも提案されているが(米国特許第7,179,928号を参照されたい)；M i t o Qに対する臨床結果は、まだ報告されていない。補酵素Q10(C o Q10)およびビタミンサプリメントの投与は、K S Sの個々の症例において一時的に有益な作用しか示されていない。C o Q10の補給はまた、C o Q10欠損症の処置にも使用されているが、結果はまちまちである。

10

【0027】

酸化ストレスは、運動ニューロン疾患、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、クロイツフェルトヤコブ病、マシャドジョセフ病、スピノ-小脳運動失調、多発性硬化症(M S)、パーキンソン病、アルツハイマー病、およびハンチントン病などの神経変性疾患に重要であると推測される。酸化ストレスは、特定的心血管疾患と関連があると考えられ、低酸素後の酸素再灌流障害に起因する虚血性カスケードでも役割を果たす。このカスケードには、脳卒中と心発作の両方が含まれる。

20

【0028】

損傷蓄積論はまた、老化のフリーラジカル論としても公知であり、D N A、脂質およびタンパク質への損傷を引き起こし、長期にわたり蓄積する好気性代謝中に生成されるフリーラジカルのランダムな作用を誘い出す。フリーラジカルが老化プロセスにおいてある役割を果たすという概念は、H i m a n D、(1956年)、A g i n g - A t h e o r y b a s e d o n f r e e - r a d i c a l a n d r a d i a t i o n c h e m i s t r y J. Gerontol.、11巻、298~300頁によって最初に紹介された。

【0029】

老化のフリーラジカル論によると、老化プロセスは酸素代謝から開始する(V a l k oら、(2004年)、R o l e o f o x y g e n r a d i c a l s i n D N A d a m a g e a n d c a n c e r i n c i d e n c e、M o l . C e l l . B i o c h e m . 、266巻、37~56頁)。理想的条件下であってもいくつかの電子は電子伝達鎖から「漏出する」。これらの漏出した電子は、酸素と相互作用して、スーパーオキシドラジカルを生成し、これによって、生理的条件下で、ミトコンドリア中約1~3%の酸素分子がスーパーオキシドに変換される。スーパーオキシドラジカルによって損傷を受けるラジカル酸素の主要部位はミトコンドリアD N A(m t D N A)である(C a d e n a sら、(2000年)、M i t o c h o n d r i a l f r e e r a d i c a l g e n e r a t i o n , o x i d a t i v e s t r e s s a n d a g i n g 、F r e e R a d i c . R e s 、28巻、601~609頁)。細胞は、核D N A(n D N A)が受ける損傷の大半を修復するが、m t D N Aの修復はあまり効率的ではないと考えられる。したがって、広範なm t D N A損傷が長期にわたり蓄積され、ミトコンドリアを活動停止させて、細胞死を引き起こし、生物を老化させる。

30

加齢に伴ういくつかの疾患は、がん、真性糖尿病、高血圧、アテローム性動脈硬化症、虚血/再灌流障害、関節リウマチ、神経変性障害、例えば、認知症、アルツハイマー病およびパーキンソン病などである。生理学的低下としての老化プロセスから生じる疾患には、筋力、心肺機能、視力および聴力の低減、ならびに皮膚のしわおよび毛髪の白髪化が含まれる。

40

【先行技術文献】

【非特許文献】

50

【0030】

【非特許文献1】Di Mauroら、(2005年)、Neuromusc. Disord.、15巻：311～315頁

【非特許文献2】Masumeciら、(2001年)Neurology、56巻：849～855頁

【非特許文献3】Lamperтиら、(2003年)、60巻：1206号：1208頁

【非特許文献4】Gempelら、(2007年)Brain、130巻(8号)：2037～2044頁

【非特許文献5】Himan D、(1956年)、Aging - A theory based on free-radical and radiation chemistry J. Gerontology、11巻、298～300頁 10

【非特許文献6】Valkoら、(2004年)、Role of oxygen radicals in DNA damage and cancer incidence、Mol. Cell. Biochem.、266巻、37～56頁

【非特許文献7】Cadenasら、(2000年)、Mitochondrial free radical generation, oxidative stress and aging、Free Radic. Res.、28巻、601～609頁

【発明の概要】

【課題を解決するための手段】 20

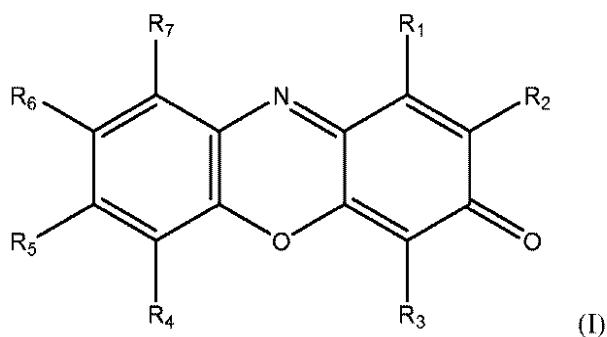
【0031】

エネルギーの生物学的な生成を調整する能力は、上に記載されている疾患の域を超えて適用される。様々な他の障害が、ATPレベルなどの、エネルギーバイオマーカー（時にはエネルギー機能の指標と呼ばれる）の最適以下のレベルをもたらす可能性がある。1種または複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートして、患者の健康を改善するために、これらの障害に対する処置もまた必要とされる。他の用途では、疾患に罹患していない個体において、これらの正常値から離れるよう特定のエネルギーバイオマーカーをモジュレートするのが望ましい可能性もある。例えば、個体が激しい活動を行っている場合、個体は、個体内のATPレベルを上昇させることが望ましい可能性もある。

【0032】 30

本発明の一態様は、式：

【化1】



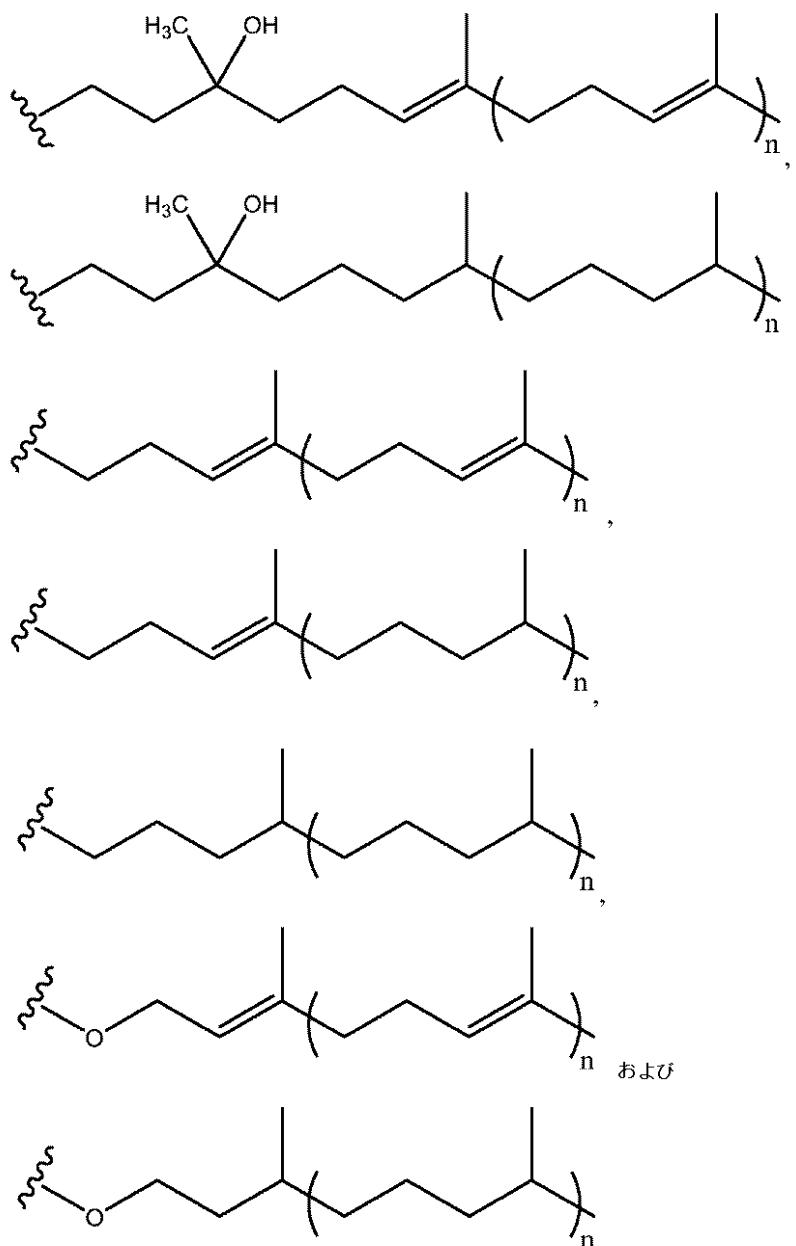
[式中、

R₁およびR₂は、独立して、-H、-C₁～C₄アルキル、-O-C₁～C₄アルキル、および-C₁～C₄ハロアルキルからなる群から選択され、R₃は、-H、-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、および-C₁～C₁₂ハロアルキルからなる群から選択されるか、またはR₁およびR₂は両方とも-CH₃であるか、もしくはR₁およびR₂は両方とも-OCH₃であり、R₃は、

30

40

【化2】

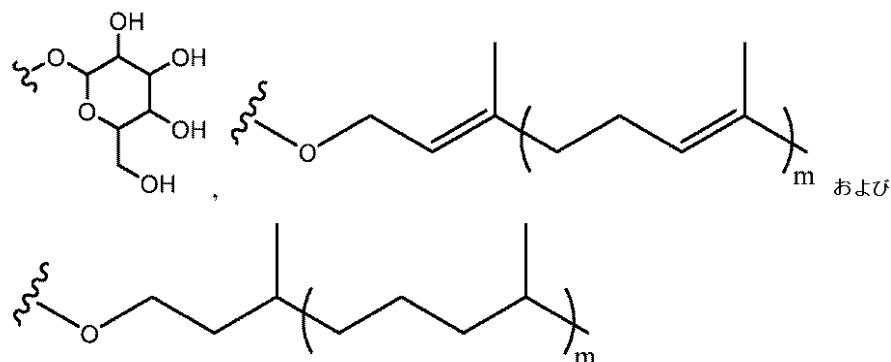


(n は0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、

R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 は、独立して、-H、-OH、-C₁~C₁₂アルキル、
 -C₂~C₁₂アルケニル、-C₁~C₁₂ハロアルキル、-O-C₁~C₁₂アルキル
 、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C₆~
 C₁₀アリール、-O-C₆~C₁₀アリール、-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀ア
 リール、-O-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、
 -C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、

40

【化3】



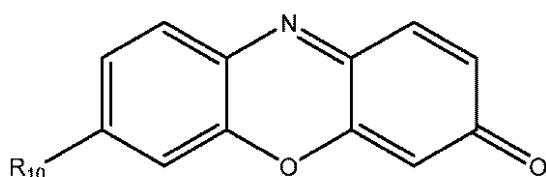
10

からなる群から選択され、ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択され、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、R₁₃は-Hまたは-C₁～C₄アルキルであり、R₁₄は、ヒドロキシ、-O-C₁～C₄、ヘテロシクリル、アリール、もしくはヘテロアリールで任意選択で置換されている-C₁～C₁₂アルキルであるか、またはR₁₄は-C₁～C₁₅アルキルであり、該アルキル基中の炭素の2個もしくはそれ超は酸素で置き換えられており、mは、0、1、2、または3である]

の化合物、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩であって、ただし、

20

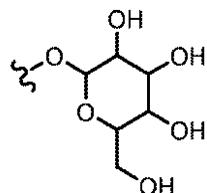
【化4】



(式中、R₁₀は、-H、-OH、-O-アルキル、-O-ベンジル、-O-C(O)-アルキル、-O-C(O)-アリール、または

30

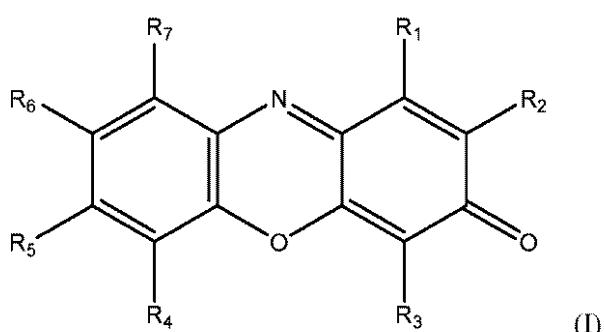
【化5】



である)でも、その立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩でもない化合物である。一部の実施形態では、化合物は、式：

【化6】

40

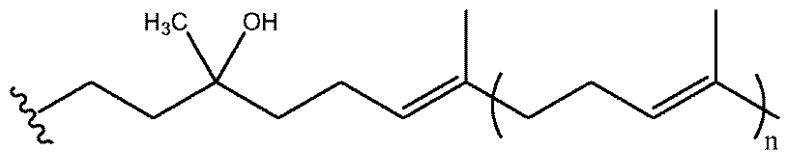


[式中、R₁およびR₂は、独立して、-H、-C₁～C₄アルキル、-O-C₁～C₄

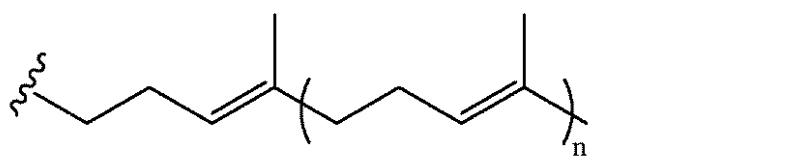
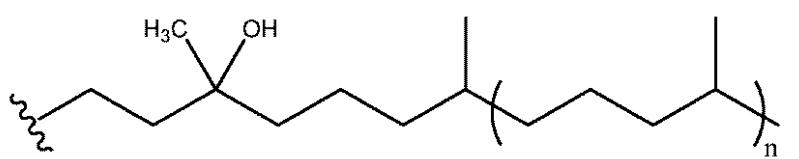
50

アルキル、および - C₁ ~ C₄ ハロアルキルからなる群から選択され、R₃ は、- H、- C₁ ~ C₁₂ アルキル、- O - C₁ ~ C₁₂ アルキル、および - C₁ ~ C₁₂ ハロアルキルからなる群から選択されるか、または R₁ および R₂ は両方とも - CH₃ であるか、もしくは R₁ および R₂ は両方とも - OCH₃ であり、R₃ は、

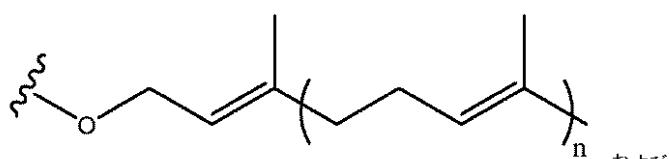
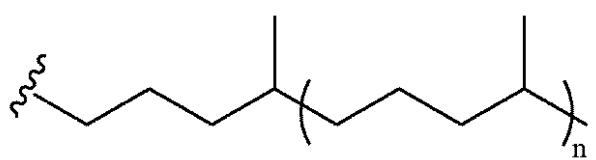
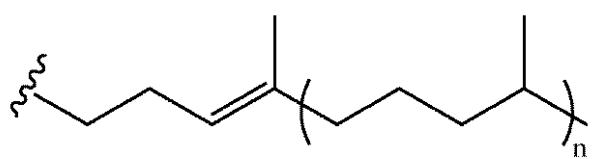
【化 7】



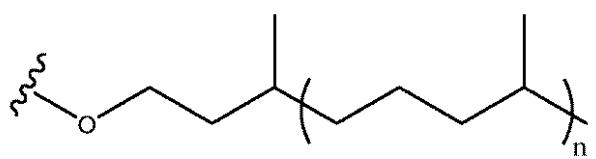
10



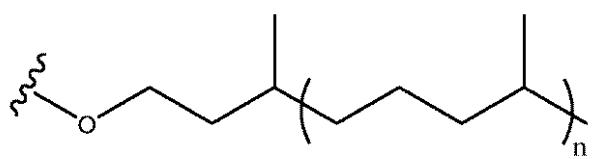
20



30



および

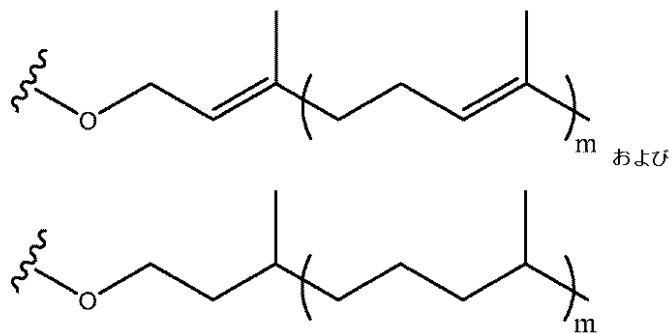


40

(n は、0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、

R₄、R₅、R₆、および R₇ は、独立して、- H、- C₁ ~ C₁₂ アルキル、- C₂ ~ C₁₂ アルケニル、- C₁ ~ C₁₂ ハロアルキル、- O - C₁ ~ C₁₂ アルキル、- O - C₁ ~ C₁₂ ハロアルキル、- C₆ ~ C₁₀ アリール、- O - C₆ ~ C₁₀ アリール、- C₁ ~ C₆ アルキル - C₆ ~ C₁₀ アリール、- O - C₁ ~ C₆ アルキル - C₆ ~ C₁₀ アリール、- N - (R₈) (R₉)、

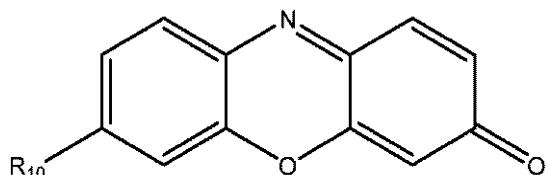
【化 8】



10

からなる群から選択され、ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択され、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、mは0、1、2、または3である]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩であり、ただし、この化合物は、

【化 9】



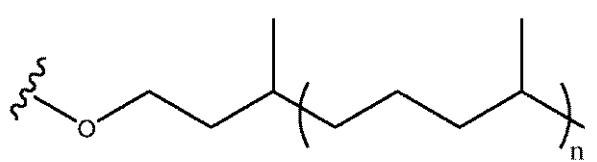
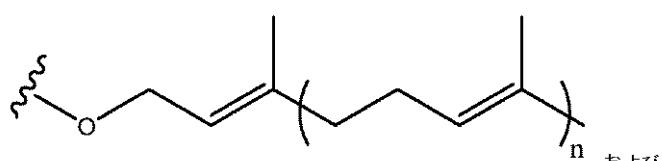
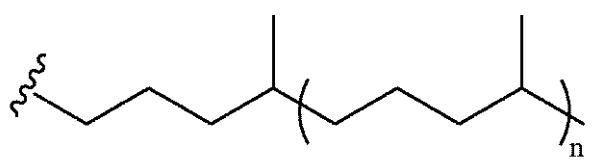
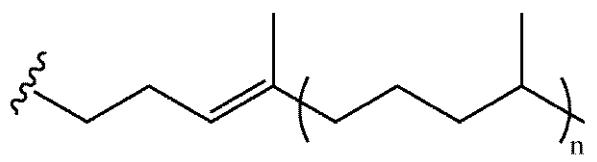
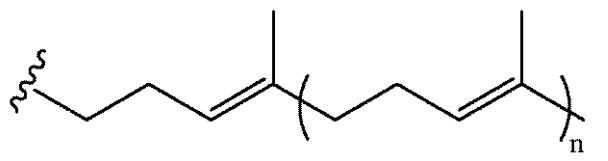
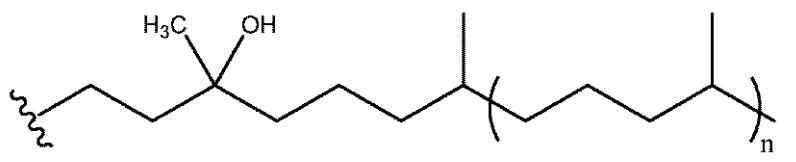
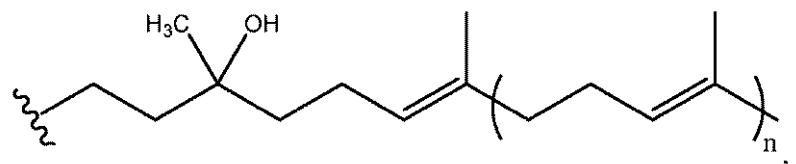
20

(式中、R₁~R₃は、-H、-OH、-O-アルキル、または-O-ベンジル)でも、その立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩でもない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の1つは-Hではない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の2つは-Hではない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃は-Hではない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の1つは-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の2つは-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃は-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の2つは-CH₃であり、R₁、R₂、およびR₃の1つは-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₃は-CH₃であり、R₂は-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OCH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OCH₃であり、R₃は-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-CH₃であり、R₃は-n-C₁~C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OCH₃であり、R₃は-n-C₁~C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-CH₃であり、R₃は-

30

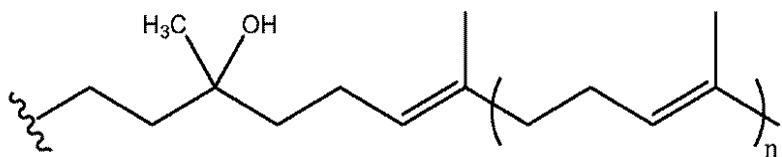
40

【化10】



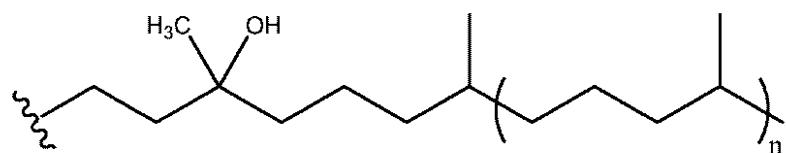
からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-CH_3$ であり、 R_3 は、

【化11】



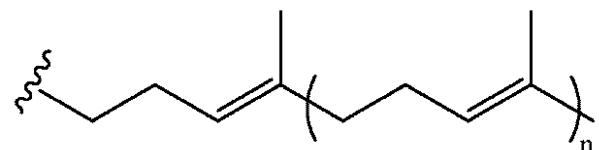
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-CH_3$ であり、 R_3 は、

【化12】



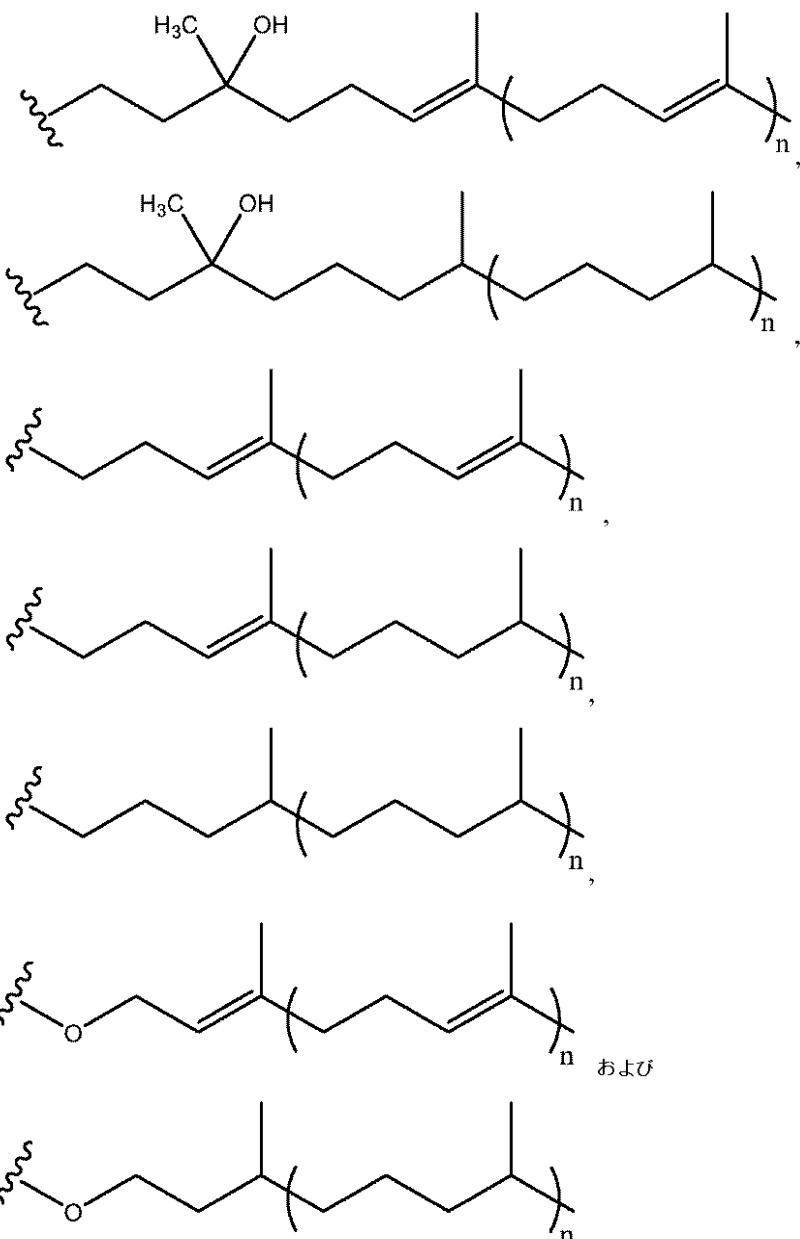
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は - CH_3 であり、 R_3 は、

【化13】



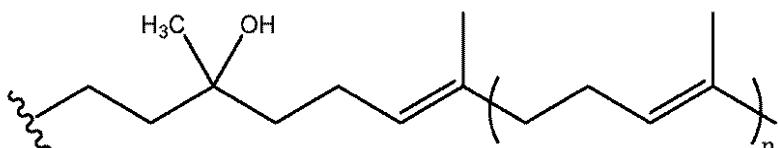
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は - OCH_3 であり、 R_3 は、

【化14】



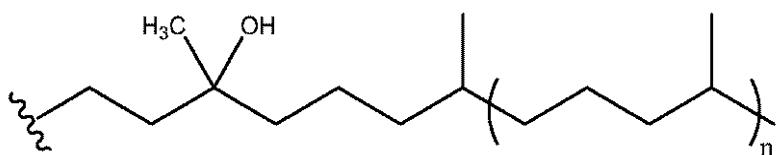
からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-OCH_3$ であり、 R_3 は、

【化15】



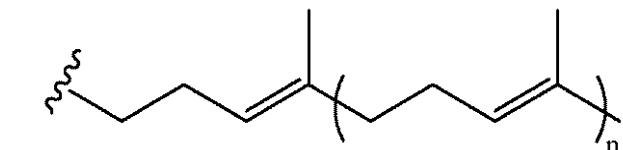
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-OCH_3$ であり、 R_3 は、

【化16】



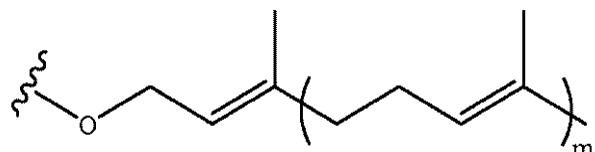
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OCH₃であり、R₃は、

【化17】



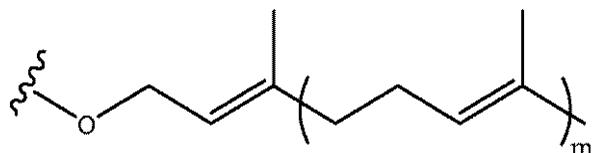
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は、独立して、-Hまたは-C₁～C₄アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃は-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、nは0である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、nは1である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、nは2である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、nは3である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、nは4である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の2つは-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇は-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは、独立して、-C₁～C₁₂アルキル、-C₁～C₁₂ハロアルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、および

【化18】



からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは、独立して、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N-(R₈)(R₉)（式中、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₄アルキル、-CF₃、-O-ベンジルである）、および

【化19】



（式中、mは1または2である）からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は-N(CH₃)₂である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は-O-ベンジルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の

10

20

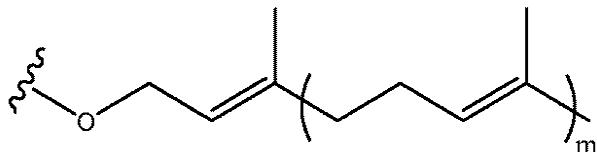
30

40

50

3つは - H であり、その他は - O - C H₃ である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の3つは - H であり、その他は - O - n - C₂ ~ C₅ アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の3つは - H であり、その他は - C F₃ である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の3つは - H であり、その他は

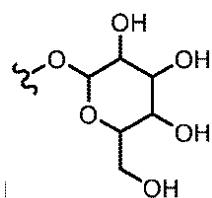
【化 2 0】



10

(式中、mは1または2である)である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の3つは - H であり、その他は - C H₃ である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の少なくとも1つは、- O H、- O - C (O) - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、- C (O) - N (R_{1~3}) (R_{1~4})、- C (O) - O - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、- S (O)₂ - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、および

【化 2 1】

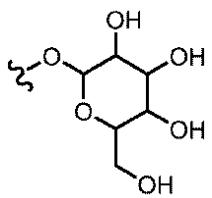


20

からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の少なくとも1つは - O H である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の1つは - O - C (O) - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、- C (O) - O - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、または - S (O)₂ - C₁ ~ C_{1~2} アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の1つは - C (O) - N (R_{1~3}) (R_{1~4}) である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の少なくとも1つは - C₁ ~ C_{1~2} ハロアルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の少なくとも1つは - C₁ ~ C_{1~2} アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の1つは

30

【化 2 2】

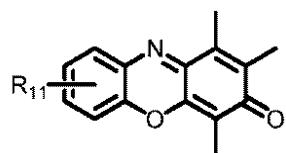


40

である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇ の少なくとも1つは - O - C₁ ~ C_{1~2} アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは0である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは1である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは2である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは3である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

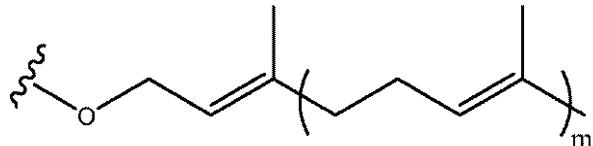
50

【化23】



[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

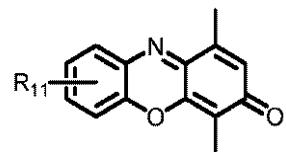
【化24】



10

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

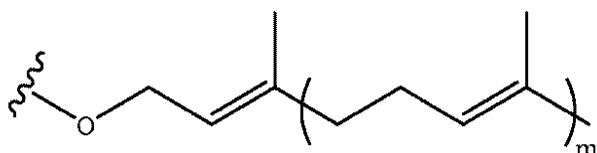
【化25】



20

[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

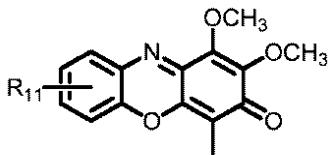
【化26】



30

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

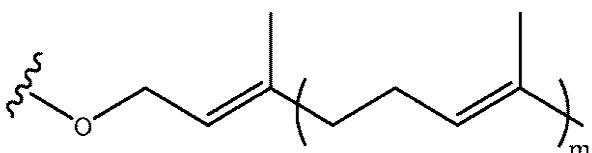
【化27】



40

[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化28】

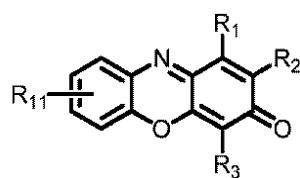


50

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩であ

る。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

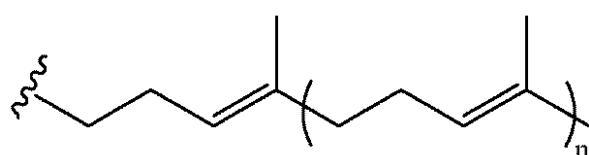
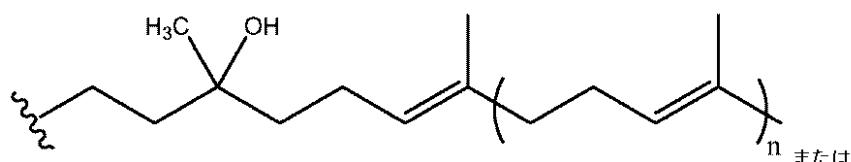
【化 29】



[式中、R₁およびR₂は-C₂H₅であるか、またはR₁およびR₂は-OCH₃であり、R₃は、

【化 30】

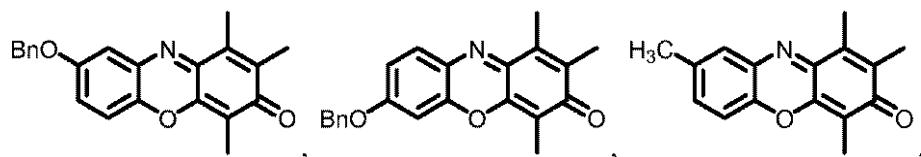
10



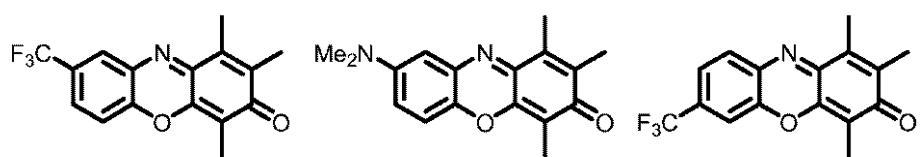
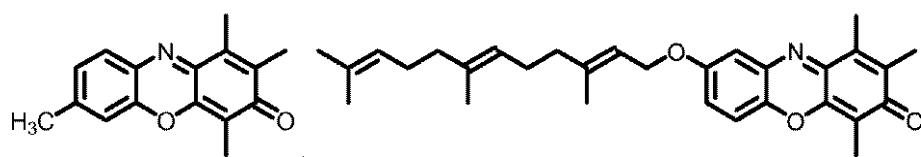
20

(式中、nは1または2である)であり、R₁₋₁は、R₄、R₅、R₆、またはR₇に対して定義された通りの基である]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

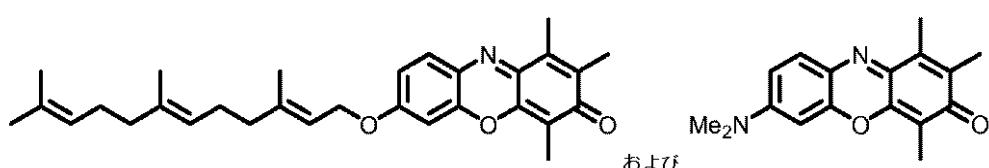
【化 31】



30

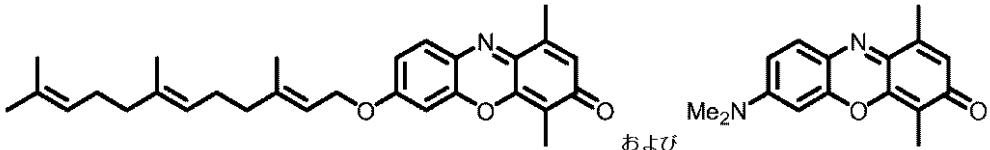
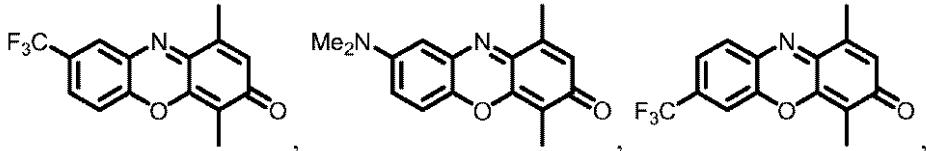
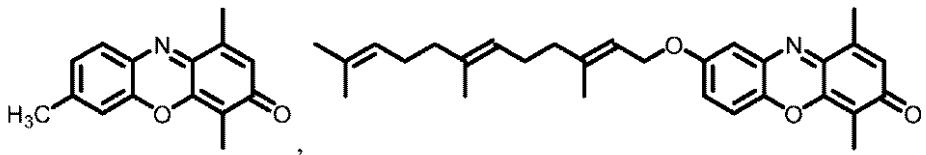
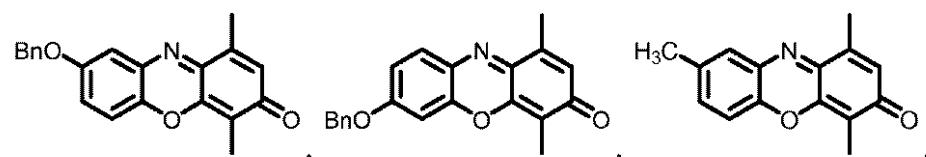


40



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化 3 2】



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

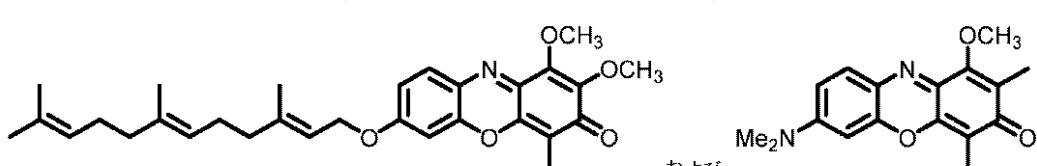
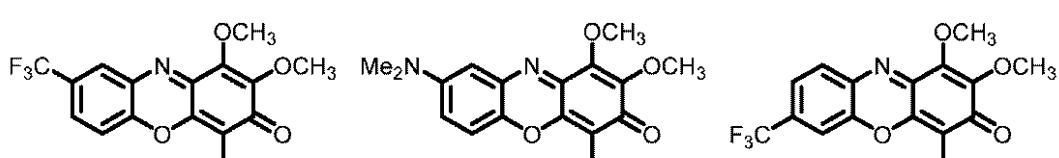
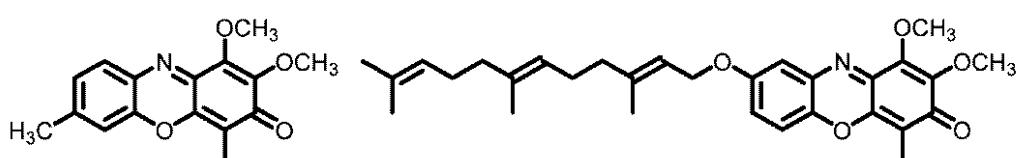
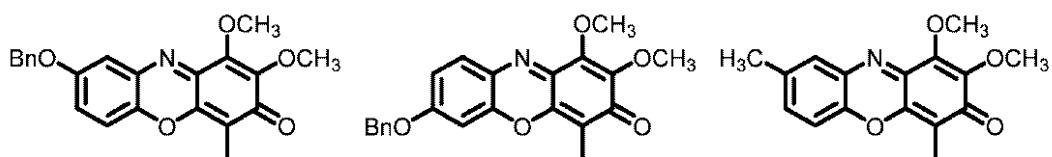
10

20

30

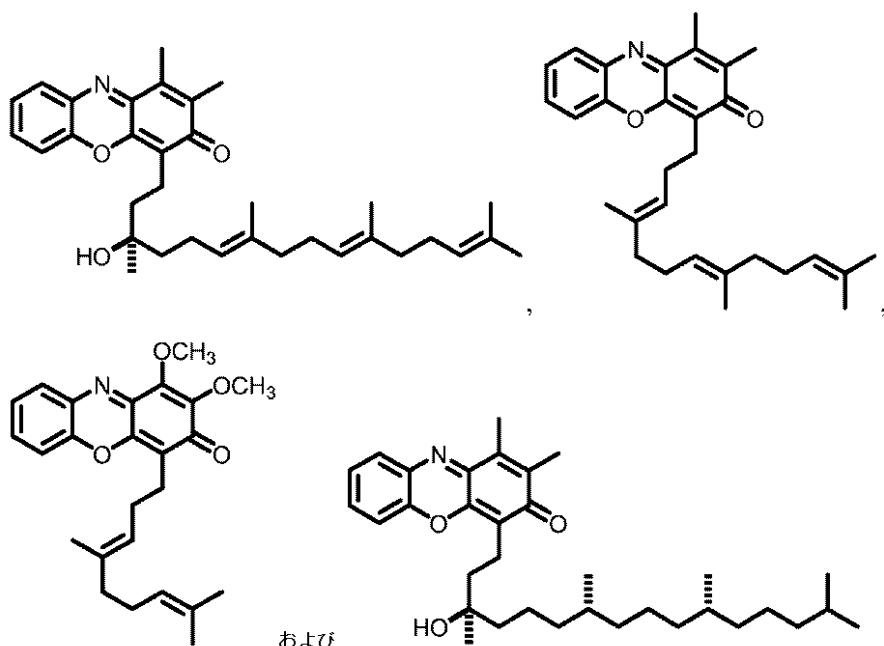
40

【化 3 3】



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は

【化 3 4】



10

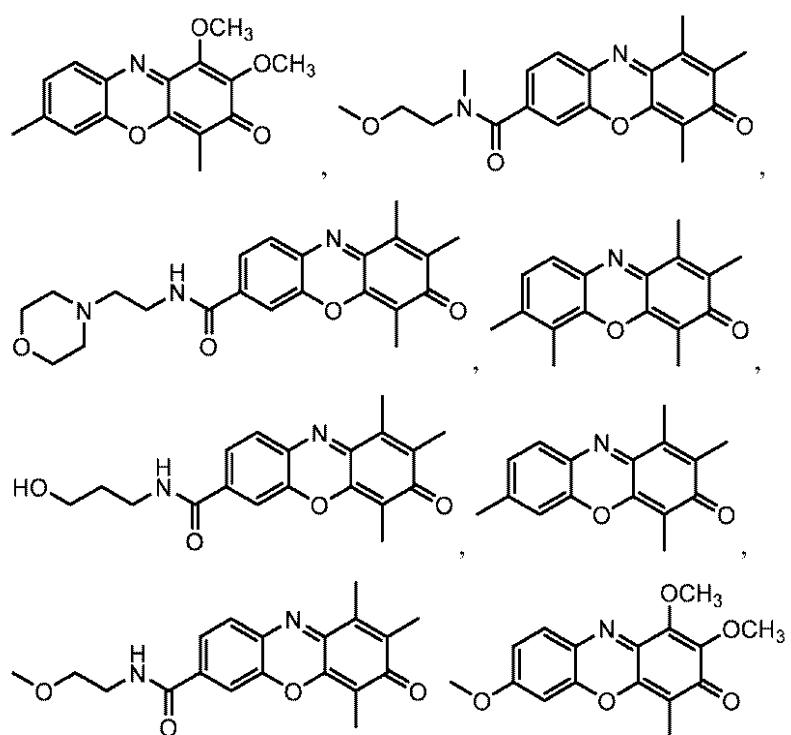
20

30

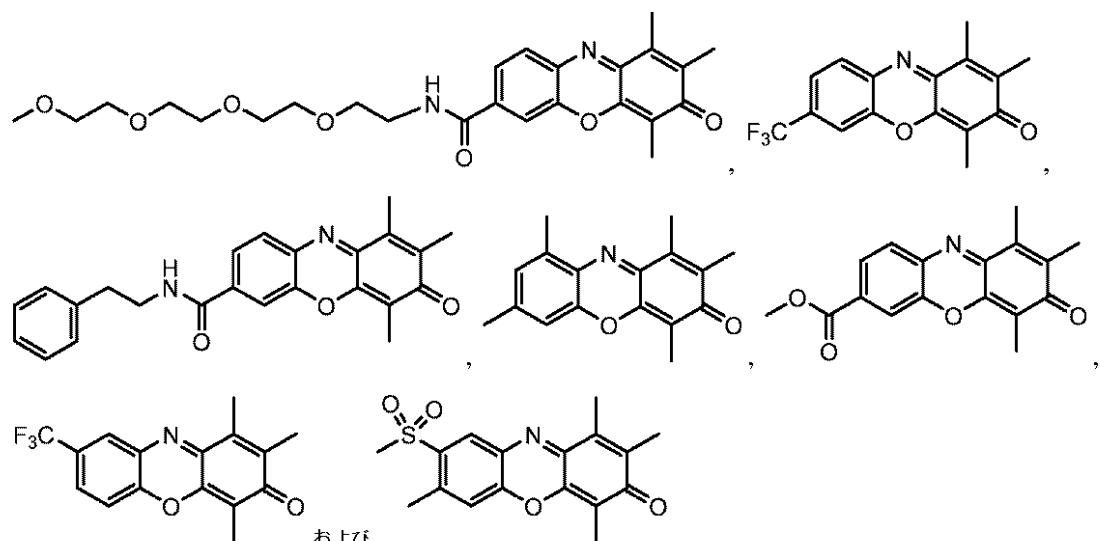
40

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化 3 5 - 1】

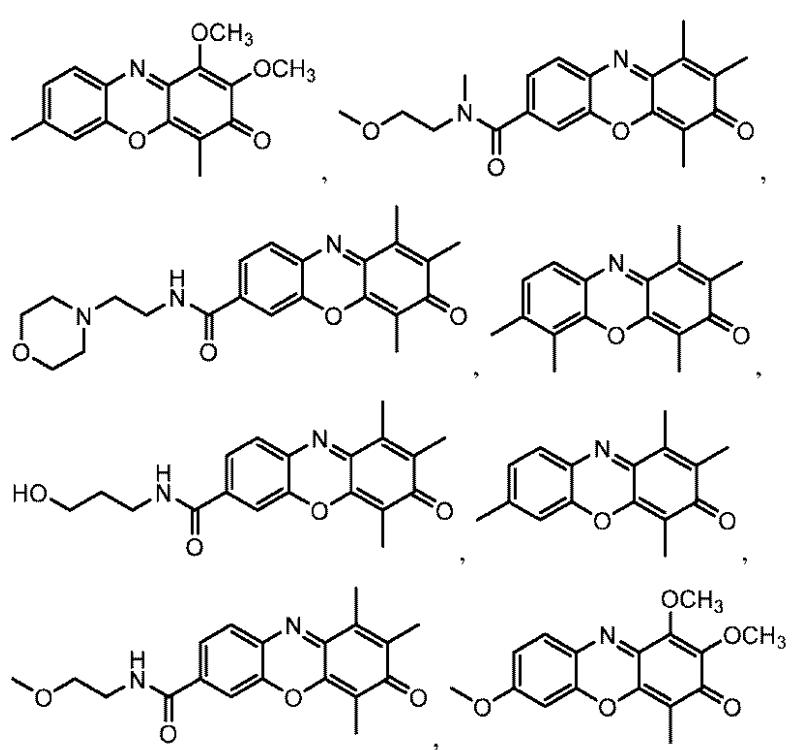


【化 3 5 - 2】

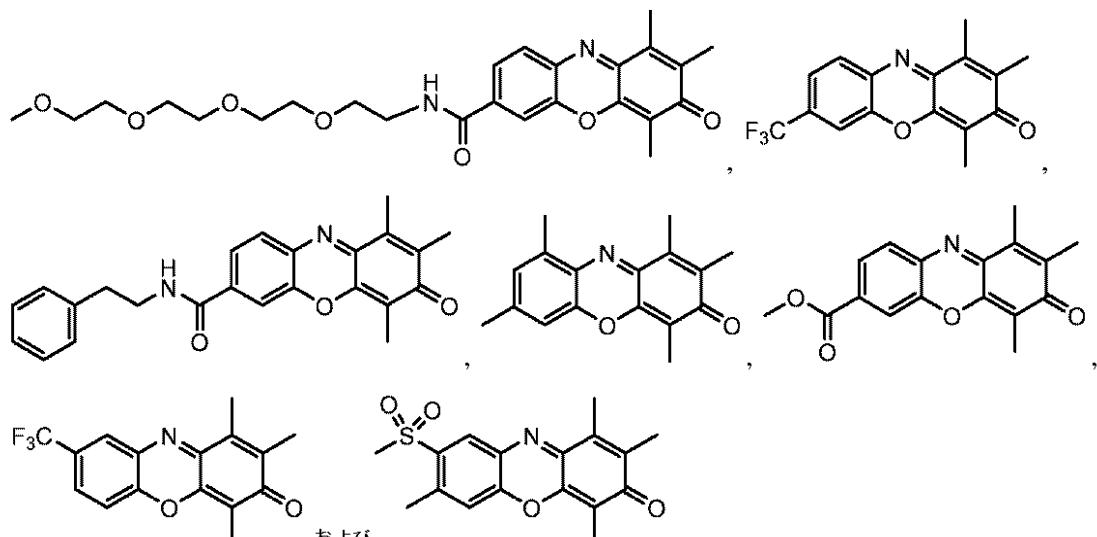


からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化 3 6 - 1】

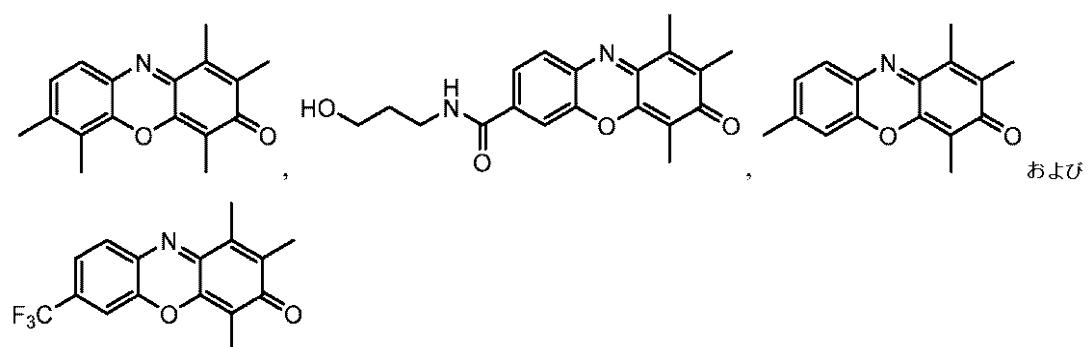


【化 3 6 - 2】



からなる群またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩から選択される。一部の実施形態では、化合物は、

【化 3 7】



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、またはその立体異性体もしくは立体異性体の混合物である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、または薬学的に許容されるその塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約1マイクロモル未満のEC₅₀を有する。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約500nM未満のEC₅₀を有する。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約250nM未満のEC₅₀を有する。本発明の化合物は、式Iの任意の個別の化合物、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩であってよい。本発明の化合物の組合せを含む組成物もまた想定される。

【0033】

本発明の別の態様は、前述またはこれより後の実施形態のいずれかを含めて、本明細書に記載されている化合物と、薬学的に許容される添加剤とを含む医薬製剤である。

10

20

30

40

50

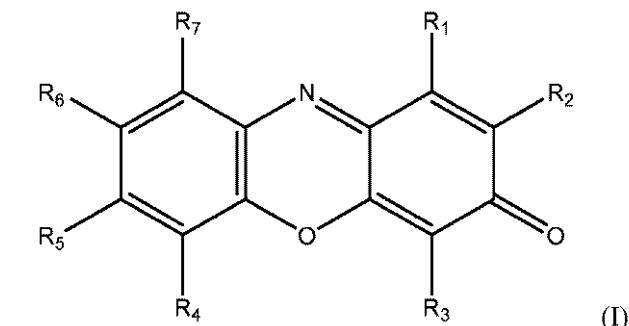
【0034】

本発明の別の態様は、活性剤と、薬学的に許容される添加剤とを含む医薬製剤であって、この活性剤が、本明細書に記載されている化合物からなる、または本明細書に記載されている化合物から本質的になる医薬製剤である。

【0035】

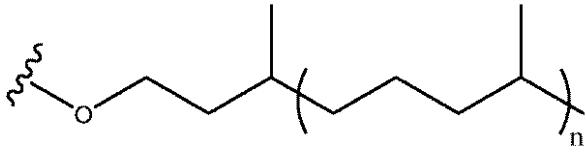
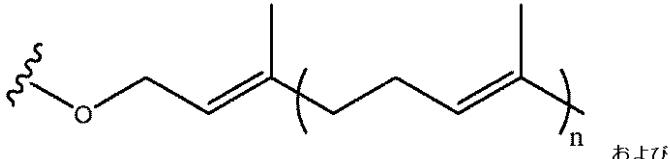
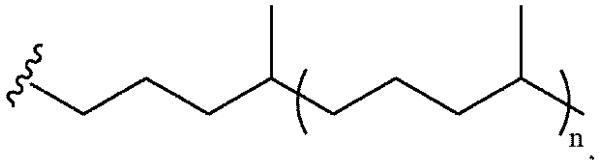
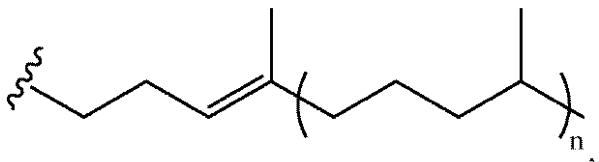
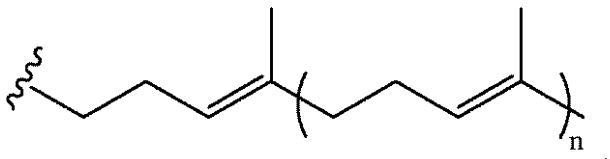
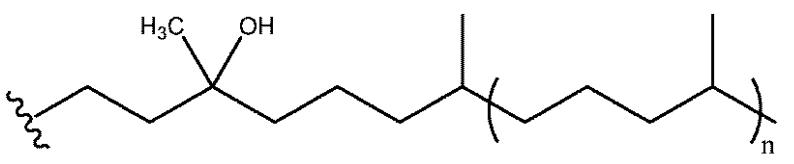
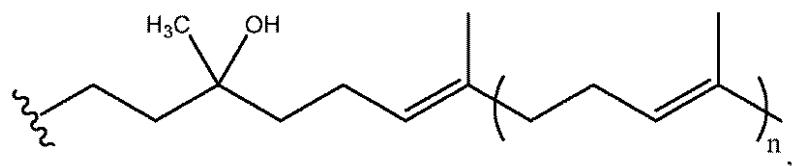
本発明の別の態様は、酸化ストレス障害を処置もしくは抑制する方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを正常化する方法、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを強化する方法であって、治療有効量または有効量の式(I)の化合物：

【化38】



[式中、R₁およびR₂は、独立して、-H、-C₁~C₄アルキル、-O-C₁~C₄アルキル、および-C₁~C₄ハロアルキルからなる群から選択され、R₃は、-H、-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂アルキル、および-C₁~C₁₂ハロアルキルからなる群から選択されるか、またはR₁およびR₂は両方とも-C₁H₃であるか、もしくはR₁およびR₂は両方とも-OCH₃であり、R₃は、

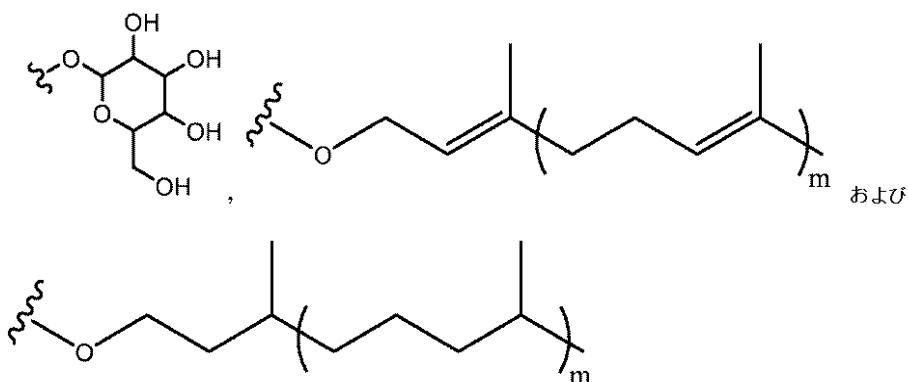
【化39】



(nは0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、R₄、R₅、R₆、およびR₇は、独立して、-H、-OH、-C₁～C₁₂アルキル、-C₂～C₁₂アルケニル、-C₁～C₁₂ハロアルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、-O-C(O)-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₁₂ハロアルキル、-C₆～C₁₀アリール、-O-C₆～C₁₀アリール、-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-O-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、-C(O)-N(R₁～R₃)(R₁～R₄)、-C(O)-O-C₁～C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁～C₁₂アルキル、

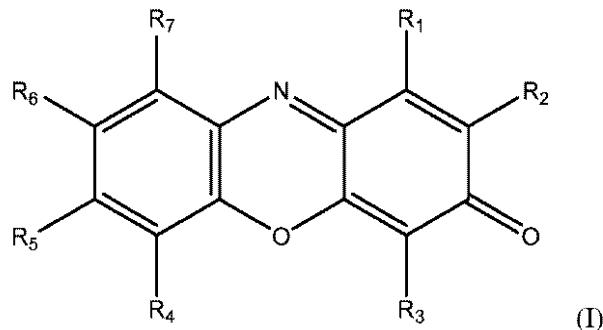
40

【化40】



からなる群から選択され、ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-C₁H₃からなる群から選択され、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、R₁₃は-Hまたは-C₁～C₄アルキルであり、R₁₄は、ヒドロキシ、-O-C₁～C₄、ヘテロシクリル、アリール、もしくはヘテロアリールで任意選択で置換されている-C₁～C₁₂アルキルであるか、またはR₁₄は-C₁～C₁₅アルキルであり、このアルキル基中の炭素の2個もしくはそれ超は酸素で置き換えられており、mは0、1、2、または3である]またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩を対象に投与するステップを含む。一部の実施形態では、本方法は、酸化ストレス障害を処置もしくは抑制する方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを正常化する方法、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを強化する方法であって、治療有効量または有効量の式(I)の化合物：

【化41】



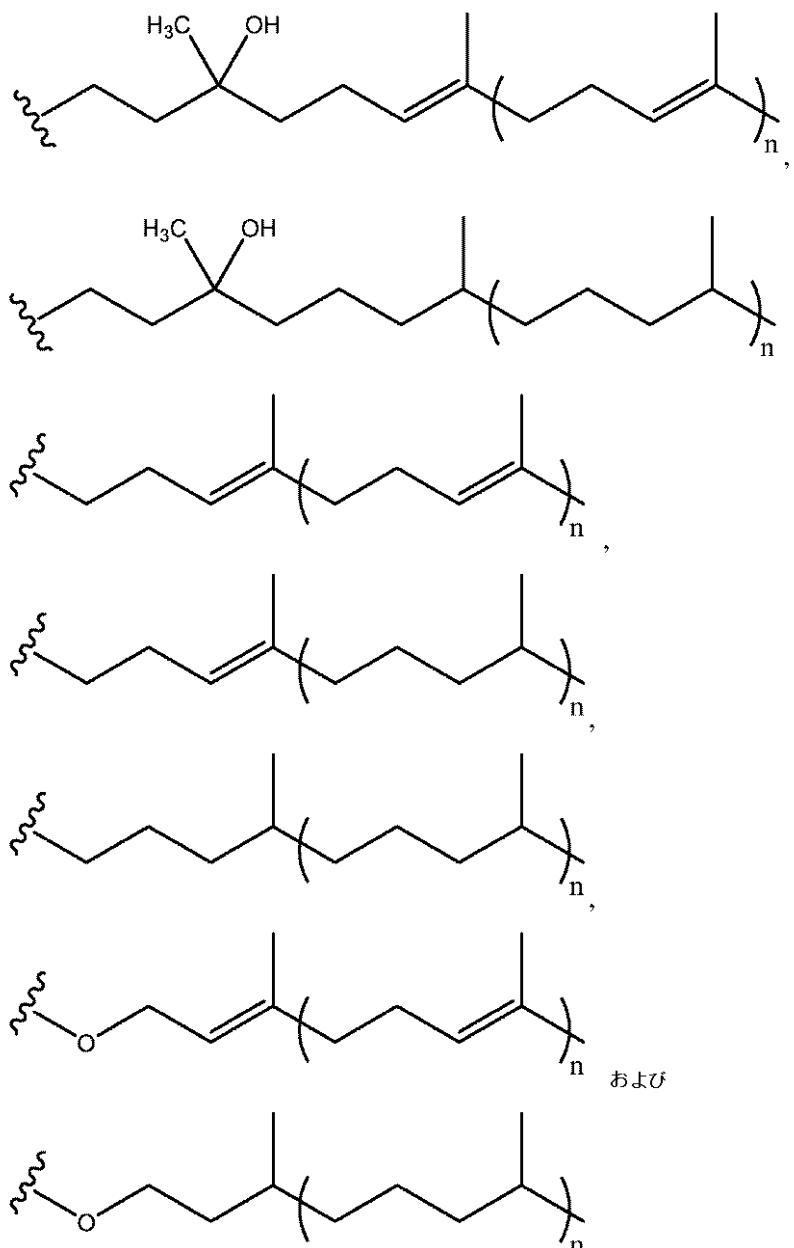
[式中、R₁およびR₂は、独立して、-H、-C₁～C₄アルキル、-O-C₁～C₄アルキル、および-C₁～C₄ハロアルキルからなる群から選択され、R₃は、-H、-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、および-C₁～C₁₂ハロアルキルからなる群から選択され、またはR₁およびR₂は両方とも-C₁H₃であるか、もしくはR₁およびR₂は両方とも-OCH₃であり、R₃は、

20

30

40

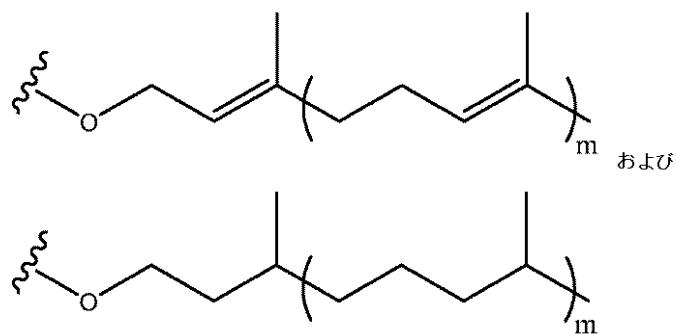
【化42】



(n は0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、 R_4 、 R_5 、 R_6 、
および R_7 は、独立して、-H、-C₁~C_{1~2}アルキル、-C₂~C_{1~2}アルケニル、
-C_{1~2}ハロアルキル、-O-C_{1~2}アルキル、-O-C_{1~2}ハロアルキル、-C₆~C_{1~0}アリール、-O-C₆~C_{1~0}アリール、-C_{1~2}アルキル
-C₆~C_{1~0}アリール、-O-C_{1~2}アルキル-C₆~C_{1~0}アリール、-N-(
R₈)(R₉)、

40

【化43】



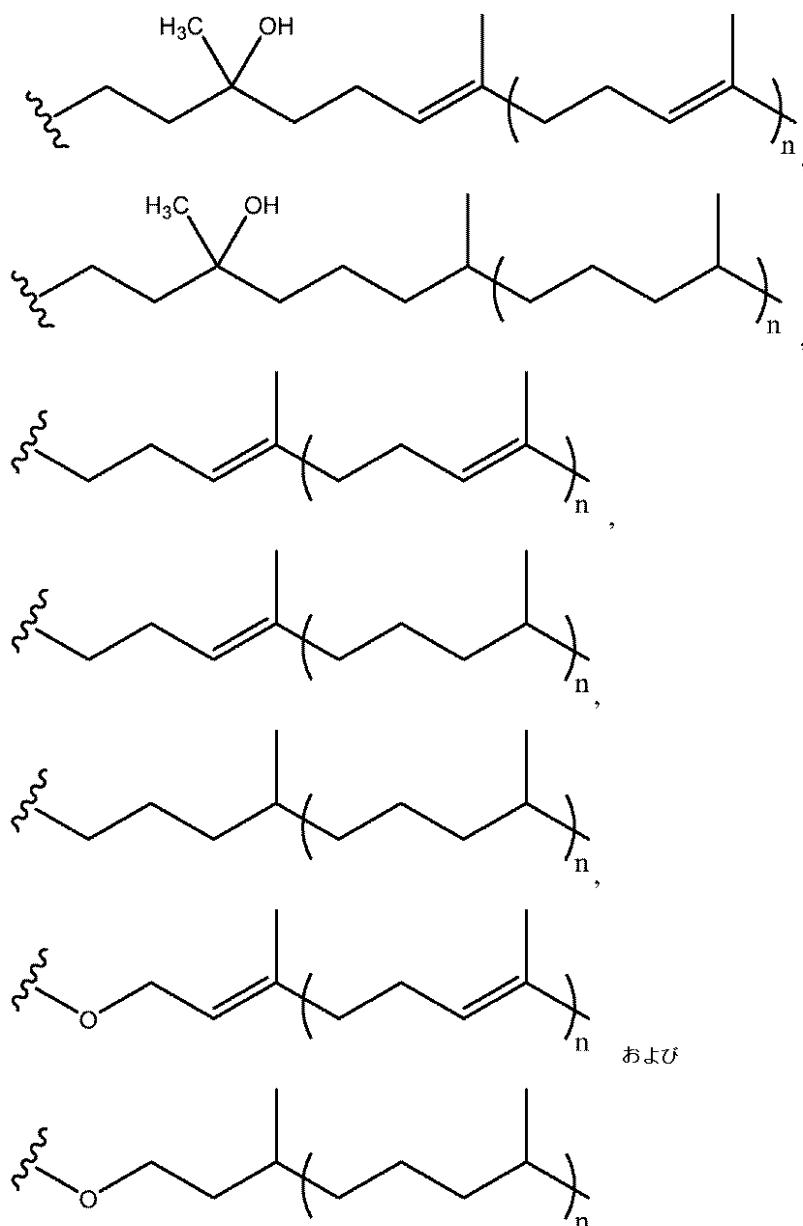
10

20

30

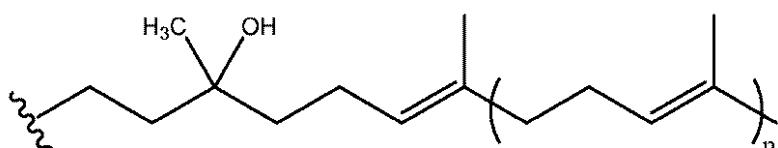
からなる群から選択され、ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択され、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、mは0、1、2、または3である]またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩を対象に投与するステップを含む。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の1つは-Hではない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の2つは-Hではない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃は-Hではない。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の1つは-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の2つは-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃は-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁、R₂、およびR₃の2つは-CH₃であり、R₁、R₂、およびR₃の1つは-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₃は-CH₃であり、R₂は-Hである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OCH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OC₁～C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-OC₁～C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₁およびR₂は-CH₃であり、R₃は-n-C₁～C₁₂アルキルである。

【化44】



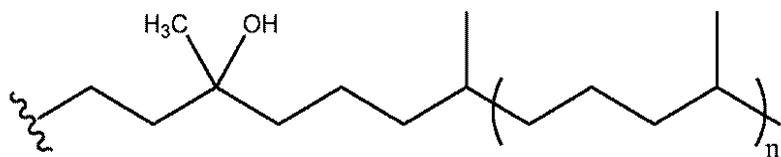
からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-CH_3$ であり、 R_3 は、

【化45】



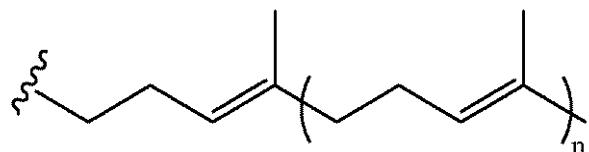
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-CH_3$ であり、 R_3 は、

【化 4 6】



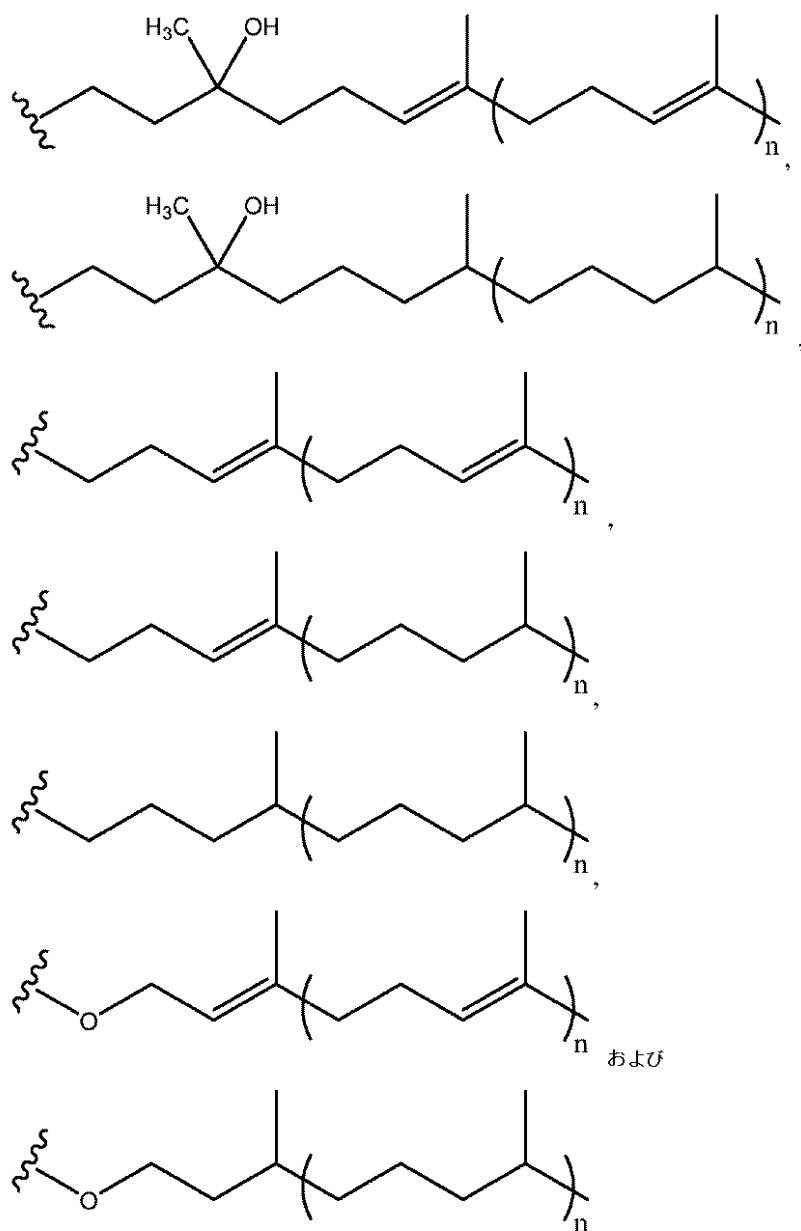
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は - C H₃ であり、 R_3 は、

【化 4 7】



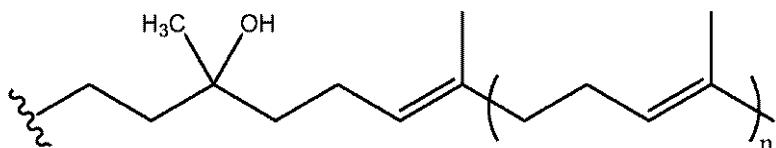
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は - O C H₃ であり、 R_3 は、

【化48】



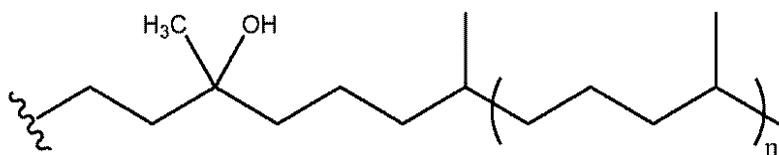
からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-OCH_3$ であり、 R_3 は、

【化49】



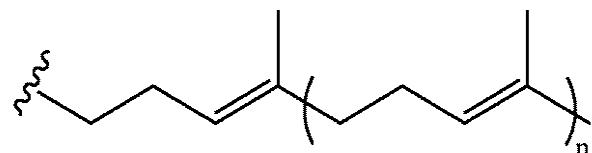
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は $-OCH_3$ であり、 R_3 は、

【化 5 0】



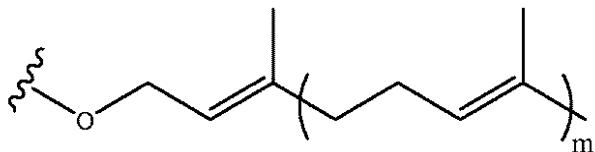
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は -OCH₃ であり、 R_3 は、

【化 5 1】



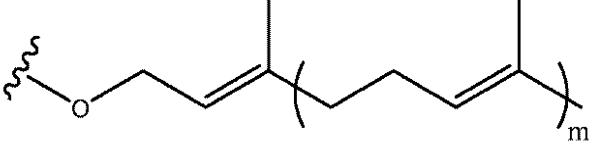
である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 および R_2 は、独立して、-H または -C₁ ~ C₄ アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_1 、 R_2 、および R_3 は -H である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 n は 0 である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 n は 1 である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 n は 2 である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 n は 3 である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 n は 4 である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の 2 つは -H である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の 3 つは -H である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 は -H である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の少なくとも 1 つは、独立して、-C₁ ~ C₁₂ アルキル、-C₁ ~ C₁₂ ハロアルキル、-O-C₁ ~ C₁₂ アルキル、-O-C₁ ~ C₁₂ アルキル -C₆ ~ C₁₀ アリール、-N-(R₈)(R₉)、および

【化 5 2】



からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の少なくとも 1 つは、独立して、-C₁ ~ C₆ アルキル、-O-C₁ ~ C₆ アルキル、-N-(R₈)(R₉)（式中、 R_8 および R_9 は、独立して、-H または -C₁ ~ C₄ アルキルである）、-CF₃、-O-ベンジル、および

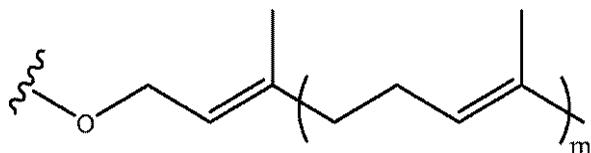
【化 5 3】



（式中、 m は 1 または 2 である）からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の 3 つは -H であり、その他は -N(CH₃)₂ である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の 3 つは -H であり、その他は -O-ベンジルである。前

述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は-O-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は-O-n-C₂～C₅アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は-CF₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は

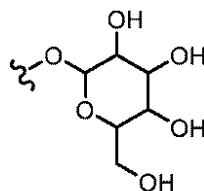
【化54】



10

(式中、mは1または2である)である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは、-OH、-O-C(=O)-C₁～C₁₂アルキル、-C(=O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C(=O)-O-C₁～C₁₂アルキル、-S(=O)₂-C₁～C₁₂アルキル、および

【化55】

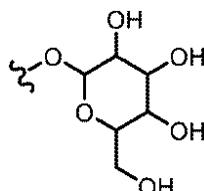


20

からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは-OHである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の1つは-O-C(=O)-C₁～C₁₂アルキル、-C(=O)-O-C₁～C₁₂アルキル、または-S(=O)₂-C₁～C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の1つは-C(=O)-N(R₁₃)(R₁₄)である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは-C₁～C₁₂ハロアルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは-C₁～C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の1つは

30

【化56】

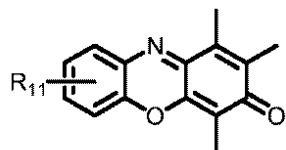


40

である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つは-O-C₁～C₁₂アルキルである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは0である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは1である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは2である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、mは3である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つは-Hであり、その他は-CH₃である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

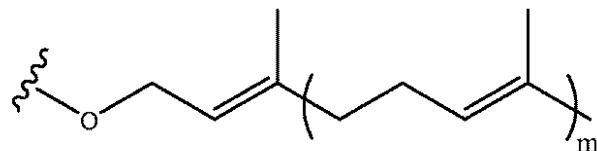
50

【化 5 7】



[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

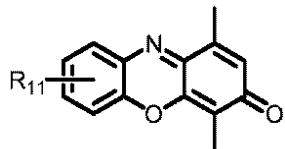
【化 5 8】



10

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

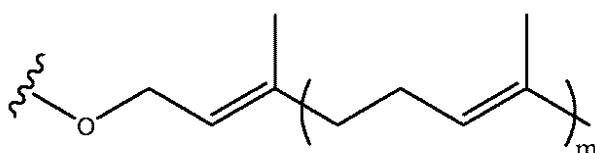
【化 5 9】



20

[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

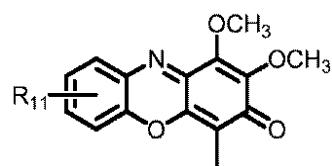
【化 6 0】



30

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

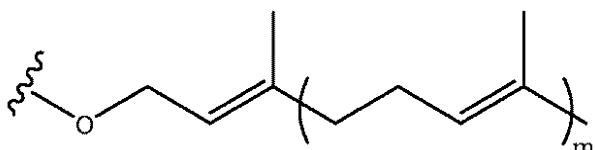
【化 6 1】



40

[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化 6 2】

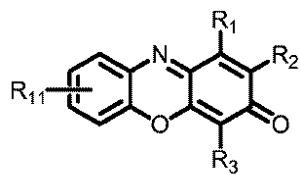


50

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立

体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、式：

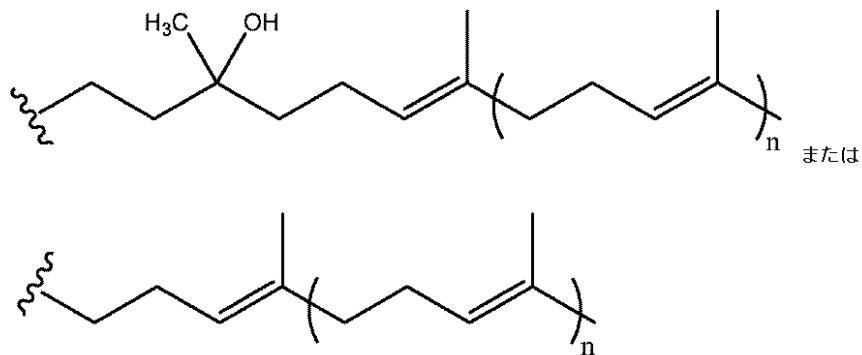
【化 6 3】



[式中、R₁およびR₂は-C₆H₅であるか、またはR₁およびR₂は-OCH₃であり、R₃は、

10

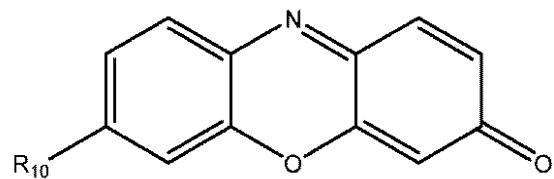
【化 6 4】



20

(式中、nは1または2である)であり、R₁₁は、R₄、R₅、R₆、またはR₇に対して定義された通りの基である]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、

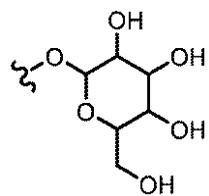
【化 6 5】



30

(式中、R₁₀は、-H、-OH、-O-アルキル、-O-ベンジル、-O-C(O)-アルキル、-O-C(O)-アリール、または

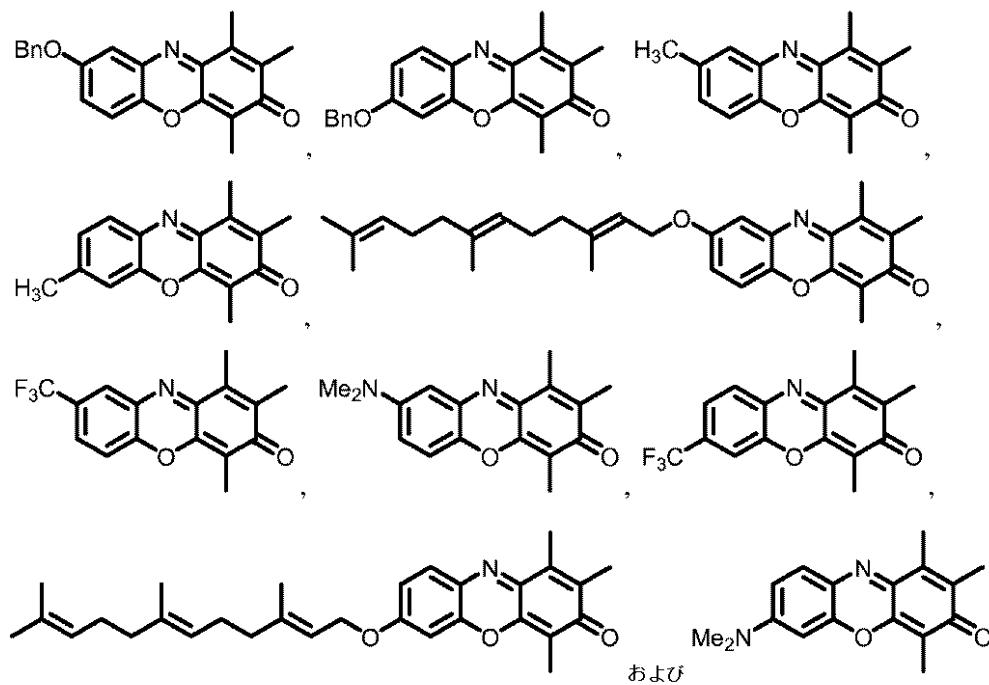
【化 6 6】



40

である)でも、その立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩でもない。一部の実施形態では、化合物は、

【化67】



10

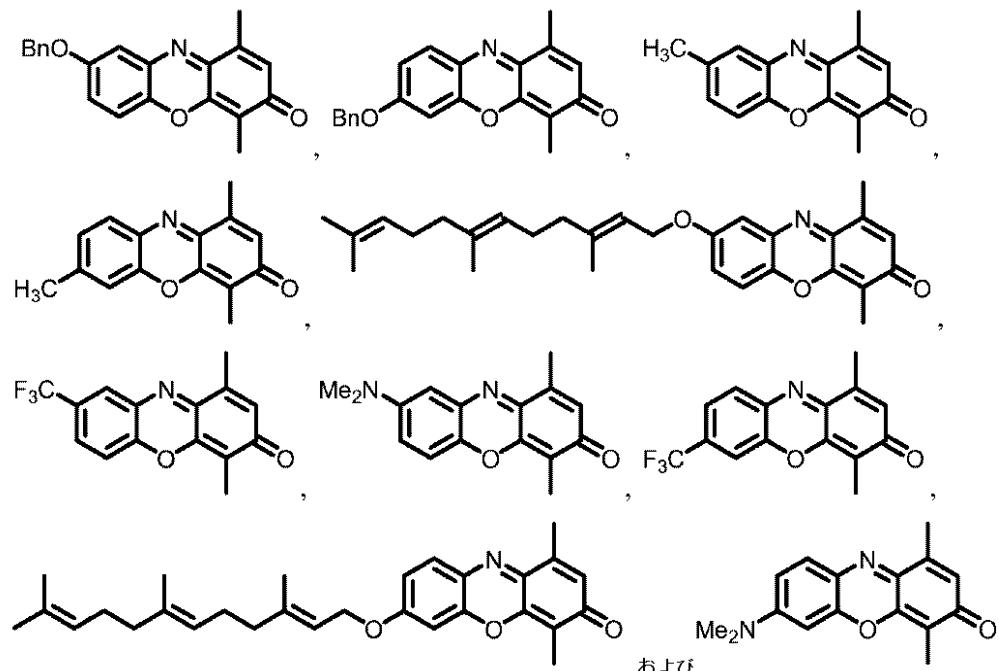
20

30

40

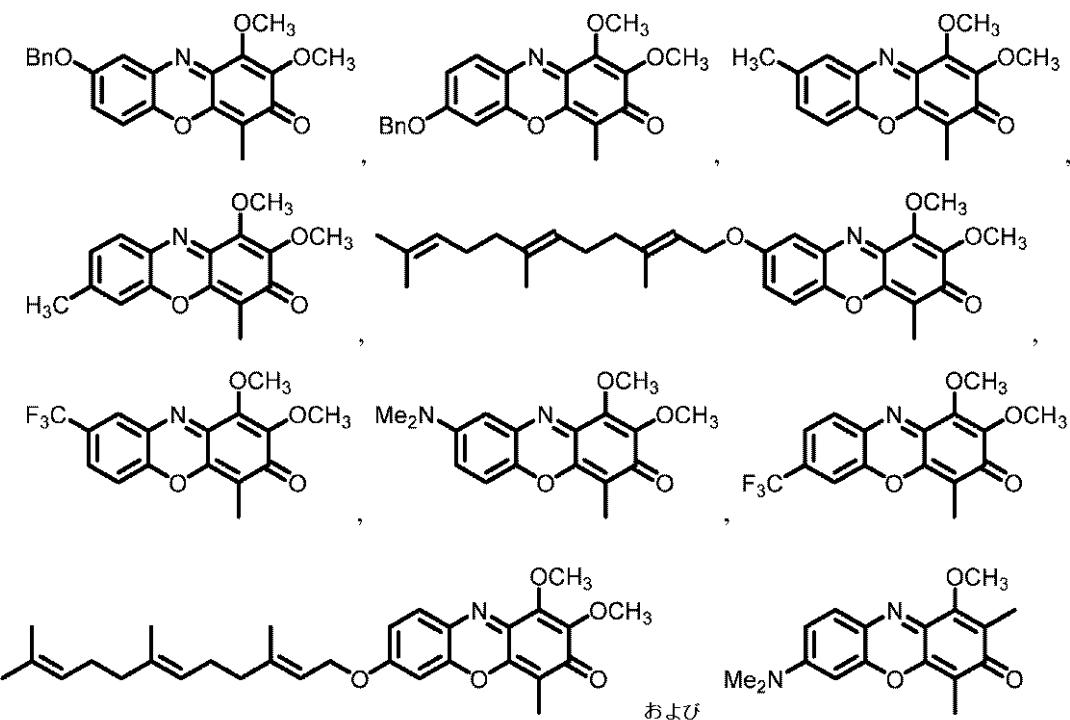
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化68】



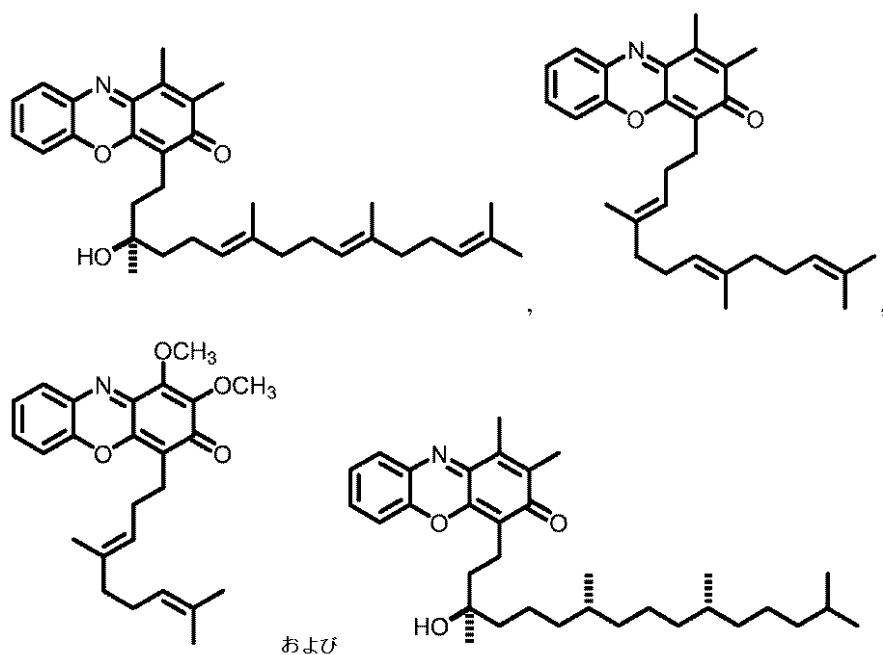
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化 6 9】



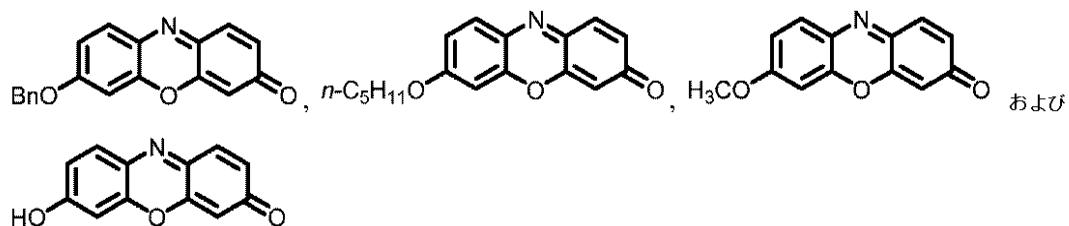
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化 7 0】



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

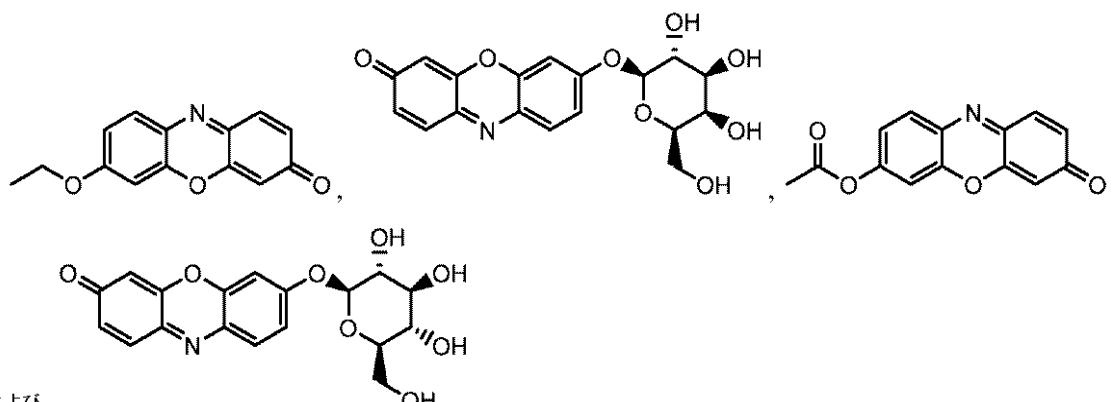
【化71】



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

10

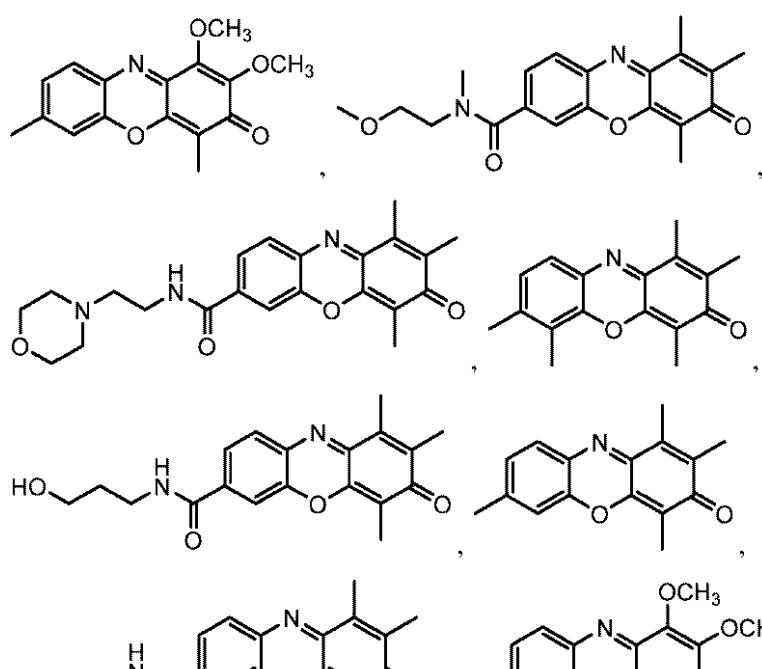
【化72】



20

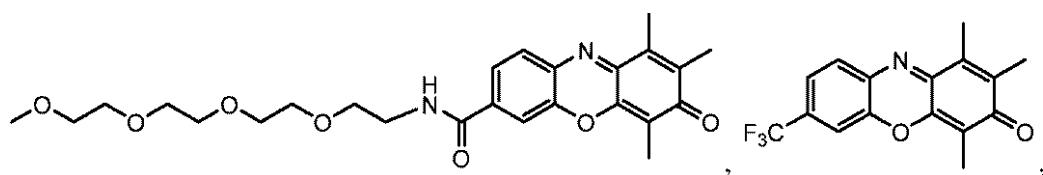
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化73-1】



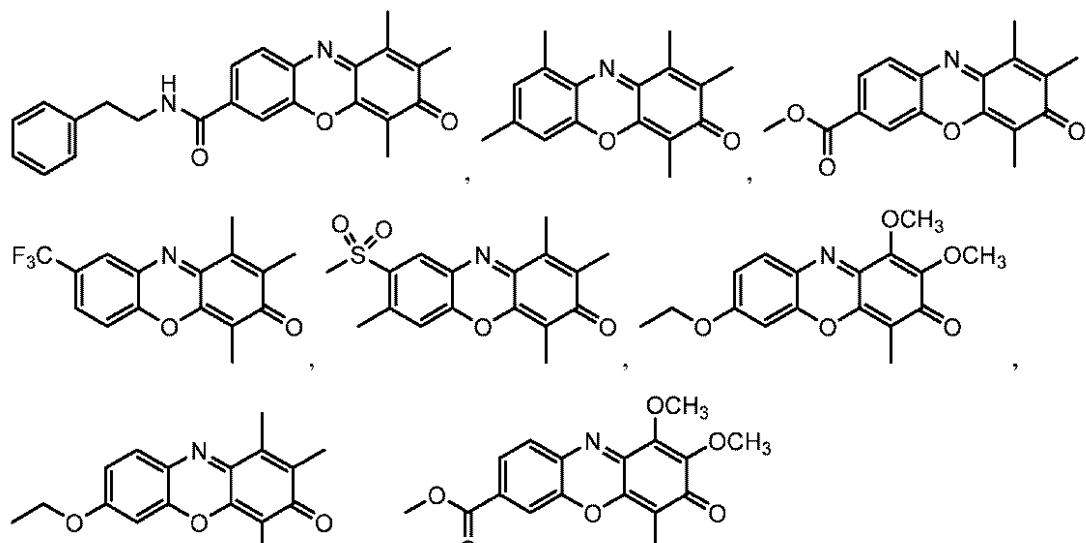
30

40



50

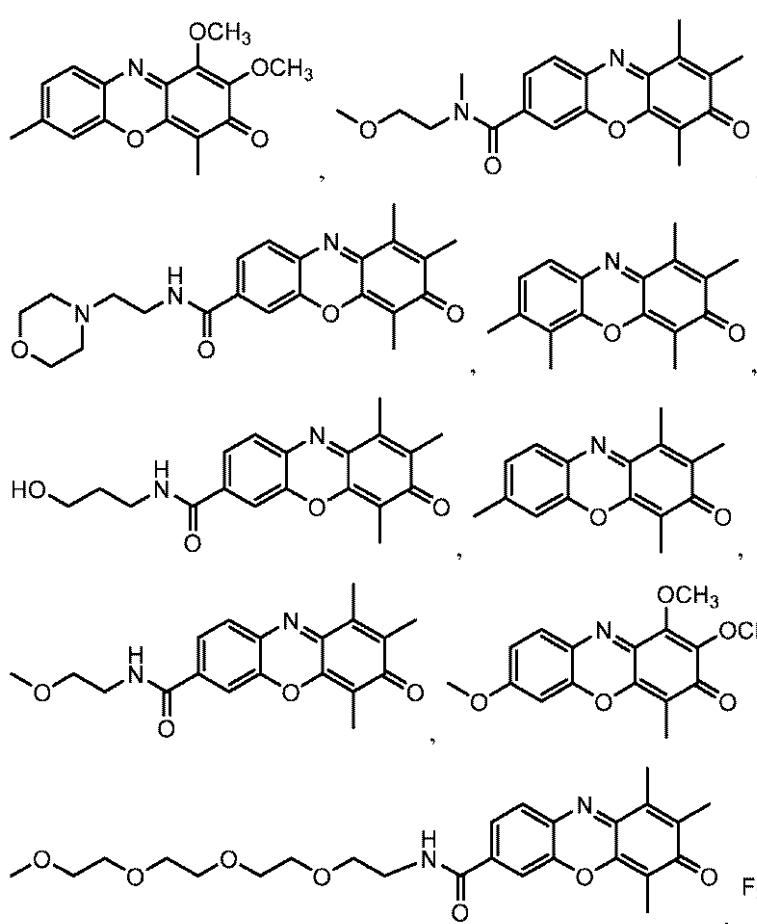
【化 7 3 - 2】



10

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化 7 4 - 1】

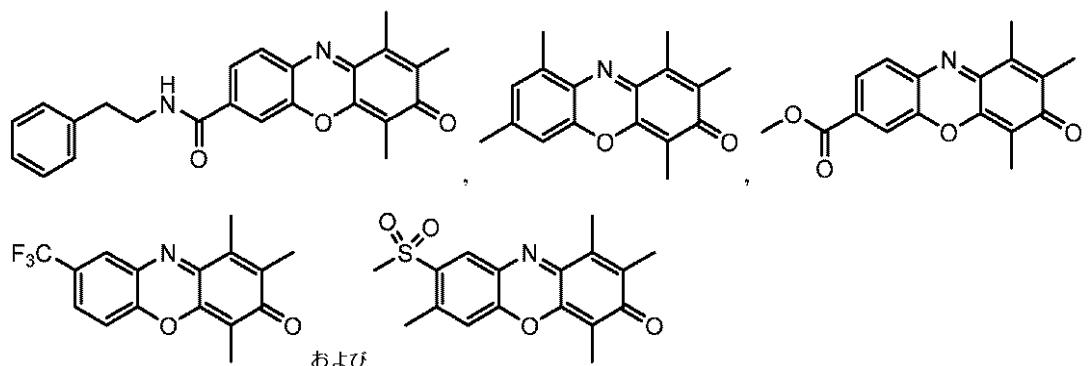


20

30

40

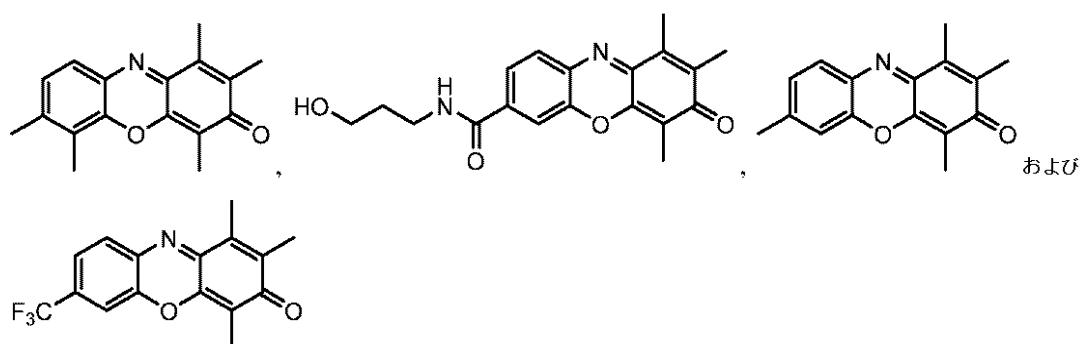
【化74-2】



10

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。一部の実施形態では、化合物は、

【化75】



20

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、もしくは薬学的に許容される塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、またはその立体異性体もしくは立体異性体の混合物である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は式Iの化合物、または薬学的に許容されるその塩である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約1マイクロモル未満のEC₅₀を有する。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約500nM未満のEC₅₀を有する。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、化合物は、実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約250nM未満のEC₅₀を有する。本方法は、本明細書に記載されている本発明の任意の個々の化合物、または化合物の組合せを使用することができる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、本化合物は、本化合物と薬学的に許容される添加剤とを含む医薬製剤として投与される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、本医薬製剤は、本化合物から本質的になる活性剤を含む。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、本方法は、酸化ストレス障害を処置または抑制する方法である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、本方法は酸化ストレス障害を処置する方法である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、本方法は、酸化ストレス障害を抑制する方法である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は、ミトコンドリア障害；遺伝性ミトコンドリア病；アルパース病；バース症候群；酸化欠陥；カルニチン-アシル-カルニチン欠損症；カルニチン欠損症；クレアチン欠損症症候群；コエンザイム

30

40

50

Q 1 0 欠損症；複合体 I 欠損症；複合体 I I 欠損症；複合体 I I I 欠損症；複合体 I V 欠損症；複合体 V 欠損症；C O X 欠損症；慢性進行性外眼筋麻痺（C P E O）；C P T I 欠損症；C P T I I 欠損症；フリードライヒ運動失調症（F A）；グルタル酸尿症 I 型；ケアーンズセイヤー症候群（K S S）；乳酸アシドーシス；長鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（L C A D）；L C H A D；リー病；リー様症候群；レベル遺伝性視神經萎縮症（L H O N）；致命的な乳児性心筋症（L I C）；ルフト病；多種アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（M A D）；中鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（M C A D）；ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、脳卒中症候群（M E L A S）；赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌステンkan（M E R R F）；ミトコンドリア劣性運動失調症候群（M I R A S）；ミトコンドリア細胞症、ミトコンドリアD N A 欠失；ミトコンドリア脳症；ミトコンドリアミオパシー；ミトコンドリア神経胃腸性障害および脳症（M N G I E）；ニューロパシー、運動失調、および網膜色素変性症（N A R P）；ピアソン症候群；ピルビン酸カルボキシラーゼ欠損症；ピルビン酸デヒドロゲナーゼ欠損症；P O L G 突然変異体；呼吸鎖障害；短鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（S C A D）；S C H A D；超長鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（V L C A D）；ミオパシー；心筋症；脳筋症；神経変性疾患；パーキンソン病；アルツハイマー病；筋萎縮性側索硬化症（A L S）；運動ニューロン疾患；神経疾患；てんかん；老化に伴う疾患；黄斑変性；糖尿病；メタボリックシンドローム；がん；脳がん；遺伝性疾患；ハンチントン病；気分障害；統合失調症；双極性障害；広汎性発達障害；自閉症性障害；アスペルガー症候群；小児期崩壊性障害（C D D）；レット症候群；特定不能の広汎性発達障害（P D D - N O S）；脳血管発作；脳卒中；視力機能障害；視神経症；優性遺伝性若年性視神經萎縮症；有毒薬剤により引き起こされた視神経症；緑内障；シュタルガルト黄斑ジストロフィー；糖尿病性網膜症；糖尿病性黄斑症；未熟児網膜症；虚血再灌流関連の網膜損傷；酸素毒作用；ヘモグロビン異常症；サラセミア；鎌状赤血球性貧血；発作；虚血；尿細管性アシドーシス；注意欠陥／多動性障害（A D H D）；聴力または平衡機能障害をもたらす神経変性障害；優性視神經萎縮症（D O A）；母系遺伝性糖尿病および難聴（M I D D）；慢性疲労；造影剤誘発性腎障害；造影剤誘発性網膜症損傷；無リポタンパク質血症；網膜色素変性症；ウォフラム病；トゥレット症候群；コバラミンC型欠陥；メチルマロン酸尿症；グリア芽細胞腫；ダウン症候群；急性尿細管壞死；筋ジストロフィー；白質ジストロフィー；進行性核上性麻痺；脊髄性筋萎縮症；聽覚損失；ノイズ誘発性聽覚損失；および外傷性脳傷害；若年性ハンチントン病；多発性硬化症；N G L Y 1；多系統萎縮症；副腎白質ジストロフィー；および副腎脊髄神経障害からなる群から選択される。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はミトコンドリア障害である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は遺伝性ミトコンドリア病である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はフリードライヒ運動失調症（F A）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はケアーンズセイヤー症候群（K S S）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はリー病またはリー様症候群である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はレーベル遺伝性視神經萎縮症（L H O N）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、脳卒中症候群（M E L A S）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌステンkan（M E R R F）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はパーキンソン病である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はアルツハイマー病である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は筋萎縮性側索硬化症（A L S）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はてんかんである。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は黄斑変性である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は脳がんで

10

20

30

40

50

ある。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はハンチントン病である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は自閉症性障害である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はレット症候群である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は脳卒中である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は母系遺伝性糖尿病および難聴（MIDD）である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は慢性疲労である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は造影剤誘発性腎障害である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害は造影剤誘発性網膜症損傷である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害はコバラミンC型欠陥である。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、本方法は、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを正常化する、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを強化するための方法であって、1種または複数のエネルギーバイオマーカーが、全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の乳酸（ラクテート）レベル；全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中のピルビン酸（ピルベート）レベル；全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の乳酸／ピルビン酸比；全血、血漿、リンパ球、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の総、還元型もしくは酸化型グルタチオンレベル、または還元型／酸化型グルタチオン比；全血、血漿、リンパ球、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の総、還元型もしくは酸化型システインレベル、または還元型／酸化型システイン比；クレアチニン酸レベル、NADH（NADH + H⁺）レベル；NADPH（NADPH + H⁺）レベル；NADレベル；NADPレベル；ATPレベル；還元型補酵素Q（CoQ_{red}）レベル；酸化型補酵素Q（CoQ_x）レベル；総補酵素Q（CoQ_{tot}）レベル；酸化型シトクロムCレベル；還元型シトクロムCレベル；酸化型シトクロムC／還元型シトクロムC比；アセトアセテートレベル、リドロキシブチレートレベル、アセトアセテート／リドロキシブチレート比、8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン（8-OHdG）レベル；反応性酸素種のレベル；酸素消費量（VO₂）レベル；二酸化炭素排出量（VCO₂）レベル；呼吸商（VCO₂ / VO₂）；運動耐容能；および嫌気性閾値からなる群から選択される。エネルギーバイオマーカーは、全血、血漿、脳脊髄液、脳室流体、動脈血、静脈血、またはこのような測定に対して有用な他の任意の体液、体内ガス、もしくは他の生体試料中で測定することができる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、健常な対象内での値の約2の標準偏差内の値にモジュレートする。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、健常な対象内での値の約1の標準偏差内の値にモジュレートする。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、対象内のレベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラスマイナス約10%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラスマイナス約20%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラスマイナス約30%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラスマイナス約40%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラスマイナス約50%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラスマイナス約75%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、レベルは、モジュレーション前の対象内のレベルから少なくともプラス約100%、または少なくともマイナス約90%変化させる。前述の実施形態のいずれかを含めた一部の実施形態では、酸化ストレス障害を処置もしくは抑制する方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオ

10

20

30

40

50

マークーを正常化する方法、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマークーを強化する方法が実施される対象（複数可）は、以下からな

る群から選択される：激しいもしくは長期の肉体的活動を受けている対象；慢性的なエネルギー問題を有する対象；慢性的な呼吸器の問題を有する対象；妊婦；分娩時の妊婦；新生児；早産児；極限環境に曝露される対象；高温環境に曝露される対象；低温環境に曝露される対象；酸素含有量が平均より低い環境に曝露される対象；二酸化炭素含有量が平均より高い環境に曝露される対象；大気汚染のレベルが平均より高い環境に曝露される対象；航空機旅行客；客室乗務員；高い高度にいる対象；大気質が平均より低い都市で生活する対象；大気質が低下した密閉環境で働く対象；肺疾患を有する対象；肺気量が平均より低い対象；結核患者；肺がん患者；肺気腫患者；囊胞性線維症患者；手術から回復しつつある対象；病気から回復しつつある対象；高齢者の対象；エネルギー低下を経験しつつある高齢者の対象；慢性疲労に罹患している対象；慢性疲労症候群に罹患している対象；急性外傷を受けた対象；ショック状態の対象；急性の酸素投与を必要とする対象；慢性の酸素投与を必要とする対象；造影溶液を介した器官可視化を必要とする対象；またはエネルギーバイオマークーの強化が有利となり得る、急性的、慢性的、もしくは現時点でエネルギーを必要とする他の対象。

【0036】

別の態様では、本発明は、酸化ストレス障害を処置または抑制するための、前述の実施形態のいずれかを含めた、本明細書に記載されている化合物の使用である。別の態様では、本発明は、酸化ストレス障害の処置または抑制において使用するための薬品の製造における、前述の実施形態のいずれかを含めた、本明細書に記載されている化合物の使用である。

【0037】

本明細書に記載されているすべての組成物、および本明細書に記載されている組成物を使用するすべての方法に対して、組成物は、列挙された構成要素もしくはステップを含むことができるか、または列挙された構成要素もしくはステップ「から本質的になる」ことができる。組成物が列挙された構成要素「から本質的になる」と記載されている場合、この組成物は、列挙された構成要素を含有し、処置されている状態に実質的に影響を及ぼさない他の構成要素を含有してもよいが、明示的に列挙されたこれらの構成要素を除いて、処置されている状態に実質的に影響を及ぼす任意の他の構成要素を含有しない；または、組成物が処置されている状態に実質的に影響を及ぼす列挙されているもの以外の追加の構成要素を含有する場合、この組成物は、処置されている状態に実質的に影響を及ぼす追加の構成要素の十分な濃度または量を含有しない。方法が列挙されたステップ「から本質的になる」と記載されている場合、この方法は列挙されたステップを含有し、処置されている状態に実質的に影響を及ぼさない他のステップを含有してもよいが、この方法は、明示的に列挙されたステップを除いて、処置されている状態に実質的に影響を及ぼす任意の他のステップを含有しない。非限定的な具体例として、組成物が構成要素「から本質的になる」と記載されている場合、この組成物は、任意の量の薬学的に許容される担体、ビヒケル、または賦形剤、および処置されている状態に実質的に影響を及ぼさない他のこのような構成要素をさらに含有していてもよい。

【発明を実施するための形態】

【0038】

本発明は、酸化ストレスに関係した疾患、発育遅延および症状、例えば、ミトコンドリア障害、エネルギー処理低下障害、神経変性疾患および老化による疾患を処置または抑制するのに有用な化合物、ならびに酸化ストレス障害を処置もしくは抑制するために、または1種もしくは複数の（例えば1種、2種、3種またはそれ超の）エネルギーバイオマークーをモジュレート、正常化、または強化するために、このような化合物を使用する方法

10

20

30

40

50

を包含する。

【0039】

本明細書で使用されている略語は、特に明記しない限り、化学的および生物学的な技術の範囲内でのこれらの従来の意味を有する。

【0040】

値またはパラメーターに付く「約」への言及は、本明細書では、値またはパラメーターそれ自体を対象とする変化形を含む（および記載している）。例えば、「約X」に言及している記載は、「X」の記載を含む。

【0041】

「a」または「an」という用語は、本明細書で使用される場合、他に文脈により明らかに指示されていない限り、1つまたは複数を意味する。

【0042】

「対象」、「個体」、または「患者」とは、個々の生物、好ましくは脊椎動物、より好ましくは哺乳動物、最も好ましくはヒトを意味する。

【0043】

本明細書で考察された化合物および方法を用いて障害を「処置する」とは、障害または障害の1種もしくは複数の症状のいずれかを減少させるまたは排除するために、あるいは障害または障害の1種もしくは複数の症状の進行を遅らせるために、または障害または障害の1種もしくは複数の症状の重症度を減少させるために、本明細書で考察された化合物の1種または複数を、追加の治療剤と共にまたは追加の治療剤なしで投与することと定義される。本明細書で考察された化合物および方法を用いた障害の「抑制」とは、障害の臨床徴候を抑制するために、または障害の有害症状である徴候を抑制するために、本明細書で考察された化合物の1種または複数を、追加の治療剤と共にまたは追加の治療剤なしで投与することと定義される。処置と抑制との区別は、処置は、障害の有害症状が対象に現れた後に起こるのに対し、抑制は、障害の有害症状が対象に現れる前に起こることにある。抑制は、部分的、実質的に全部、または全部であってよい。障害のいくつかは遺伝性であるため、遺伝子スクリーニングは、障害のリスクが高い患者を特定するために使用することができる。よって、本発明の化合物および方法は、任意の有害症状の出現を抑制するために、障害の臨床症状を発症するリスクが高い無症候性の患者に投与することができる。

【0044】

本明細書で考察された化合物の「治療的使用」とは、上で定義されたように、障害を処置または抑制するために、本明細書で考察された化合物の1種または複数を使用することと定義される。化合物の「有効量」とは、1種または複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレート、正常化、または強化する（モジュレーション、正常化、および強化は以下に定義される）のに十分な化合物の量である。化合物の「治療有効量」とは、対象に投与した場合、障害または障害の1種もしくは複数の症状のいずれかを減少させるまたは排除する、あるいは障害または障害の1種もしくは複数の症状の進行を遅らせる、あるいは障害または障害の1種もしくは複数の症状の重症度を減少させる、あるいは障害の臨床徴候を抑制する、あるいは障害の有害症状である徴候を抑制するのに十分である化合物の量である。治療有効量は、1回または複数回の投与で付与することができる。化合物の「有効量」は、治療有効量、および対象における1種または複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレート、正常化、または強化するのに有効な量の両方を包含する。

【0045】

エネルギーバイオマーカーの「モジュレーション」、またはエネルギーバイオマーカーを「モジュレートする」とは、エネルギーバイオマーカーのレベルを所望の値に向けて変化させる、またはエネルギーバイオマーカーのレベルを所望の方向（例えば、増加または低減）に変化させることを意味する。モジュレーションは、これらに限定されないが、以下に定義されている正常化および強化することを含むことができる。

【0046】

10

20

30

40

50

エネルギーバイオマーカーの「正常化」、またはエネルギーバイオマーカーを「正常化する」とは、エネルギーバイオマーカーのレベルを、病的値から正常値に変化させることと定義され、この場合、エネルギーバイオマーカーの正常値は、1) 健常な人間または対象におけるエネルギーバイオマーカーのレベル、または2) 人間または対象において1種または複数の望ましくない症状を軽減するエネルギーバイオマーカーのレベルとすることができます。すなわち、疾患状態において抑制されているエネルギーバイオマーカーを正常化することは、正常(健常)値に向けて、または望ましくない症状を軽減する値に向けてエネルギーバイオマーカーのレベルを増加させることを意味し、疾患状態において上昇しているエネルギーバイオマーカーを正常化することは、正常(健常)値に向けてまたは望ましくない症状を軽減する値に向けて、エネルギーバイオマーカーのレベルを低減することを意味する。

10

【0047】

エネルギーバイオマーカーの「強化」、またはエネルギーバイオマーカーを「強化する」とは、有利なまたは所望の作用を達成するために、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルを、正常値、または強化前の値のいずれかの値から意図的に変化させることを意味する。例えば、有意なエネルギー需要が対象に課された状況では、その対象におけるATPのレベルを、その対象におけるATPの正常なレベルより上のレベルに増加させることができることもある。エネルギーバイオマーカーを正常化しても、対象にとって最適な転帰を達成できないこともあるという意味で、疾患または病態、例えば、ミトコンドリア障害に罹患した対象において強化が有利な作用となることもでき、このような場合には、1種または複数のエネルギーバイオマーカーの強化が有利となり得る。例えば、ATPの正常レベルより高いレベル、または乳酸(ラクテート)の正常レベルより低いレベルがこのような対象にとって有利となる可能性がある。

20

【0048】

エネルギーバイオマーカー補酵素Qをモジュレート、正常化、または強化するとは、対象となる種において優勢である補酵素Qの変異体(複数可)をモジュレート、正常化、または強化することを意味する。例えば、ヒトにおいて優勢である補酵素Qの変異体は補酵素Q10である。種または対象が、有意な量で存在する(すなわち、モジュレート、正常化、または強化した場合、種または対象に対して有利な作用を生じることができる量で存在する)補酵素Qの複数の変異体を持つ場合、補酵素Qをモジュレート、正常化、または強化することは、種または対象内に存在する補酵素Qの任意のまたはすべての変異体をモジュレート、正常化または強化することを指すことができる。

30

【0049】

本明細書に記載されている化合物は、中性(非塩)化合物として生じるおよび使用することができる一方で、本記載は、本明細書に記載されている化合物のすべての塩、および化合物のこのような塩を使用する方法を包含することを意図する。一実施形態では、化合物の塩は、薬学的に許容される塩を含む。薬学的に許容される塩とは、ヒトおよび/または動物に薬物または調合薬として投与することができ、投与された時点で、遊離化合物(中性化合物または非塩化合物)の生物活性の少なくともいくらかを保持するような塩である。塩基性化合物の所望の塩は、当業者に公知の方法により、化合物を酸で処理することによって調製することができる。無機酸の例として、これらに限定されないが、塩酸、臭化水素酸、硫酸、硝酸、およびリン酸が挙げられる。有機酸の例として、これらに限定されないが、ギ酸、酢酸、プロピオン酸、グリコール酸、ピルビン酸、シュウ酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、酒石酸、クエン酸、安息香酸、ケイヒ酸、マンデル酸、スルホン酸、およびサリチル酸が挙げられる。アミノ酸との塩基性化合物の塩、例えば、アスパラギン酸塩およびグルタミン酸塩などもまた、調製することができる。酸性化合物の所望の塩は、当業者に公知の方法により、化合物を塩基で処理することによって調製することができる。酸性化合物の無機塩の例として、これらに限定されないが、アルカリ金属およびアルカリ土類塩、例えば、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、およびカルシウム塩；アンモニウム塩；ならびにアルミニウム塩が挙げられる。酸性化合物

40

50

の有機酸塩の例として、これらに限定されないが、プロカイン、ジベンジルアミン、N-エチルピペリジン、N,N-ジベンジルエチレンジアミン、およびトリエチルアミン塩が挙げられる。リシン塩などのアミノ酸との酸性化合物の塩もまた調製することができる。

【0050】

本発明はまた、化学的に可能である場合、ジアステレオマーおよびエナンチオマーを含めた化合物のすべての立体異性体を含む。本発明はまた、任意の比での可能な立体異性体の混合物も含み、これらには、これに限定されないが、ラセミ混合物が含まれる。立体配置が構造の中に明示的に示されていない限り、この構造は、図示されている化合物のすべての可能な立体異性体を包含することを意図する。分子の部分（複数可）に対しては立体配置が明示的に示されているが、分子の別の部分（複数可）に対しては示されていない場合、この構造は、立体配置が明示的に示されていない部分（複数可）に対するすべての可能な立体異性体を包含することを意図する。

【0051】

化合物は、プロドラッグ形態で投与することができる。プロドラッグとは、化合物の誘導体であり、それ自体は比較的に不活性であるが、これらが使用される対象内に導入された時点で、酵素的変換などの、インビボにおける化学的または生物学的過程により活性化合物に変換する。適切なプロドラッグ製剤として、これらに限定されないが、本発明の化合物のペプチドコンジュゲートおよび本発明の化合物のエステルが挙げられる。適切なプロドラッグについてのさらなる考察は、H. Bundgaard, Design of Prodrugs, New York: Elsevier, 1985年; R. Silverman, The Organic Chemistry of Drug Design and Drug Action, Boston: Elsevier, 2004年; R.L. Juliano(編), Biological Approaches to the Controlled Delivery of Drugs (Annals of the New York Academy of Sciences, v. 507), New York: New York Academy of Sciences, 1987; およびE.B. Roche(編), Design of Biopharmaceutical Properties Through Prodrugs and Analogs (Symposium sponsored by Medicinal Chemistry Section, APhA Academy of Pharmaceutical Sciences, November 1976 national meeting, Orlando, Florida), Washington: The Academy, 1977年において提供されている。

【0052】

本明細書中の化合物の記載はまた、本明細書中のすべての化合物のすべてのアイソトポローグ、例えば、部分的に重水素化したまたは過重水素化した類似体も含む。

【0053】

化合物の代謝物もまた本発明により包含される。

【0054】

「(C₁ ~ C₄)アルキル」は、1~4個の炭素原子の飽和した、直鎖状の、分枝の、または環式の炭化水素、またはこれらの任意の組合せを包含することを意図する。「(C₁ ~ C₄)アルキル」の非限定的例として、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、シクロプロピル、n-ブチル、イソブチル、sec-ブチル、t-ブチル、シクロブチル、シクロプロピル-メチル、およびメチル-シクロプロピルが挙げられる。(C₁ ~ C₄)アルキル基における分子の残りの部分との結合点は、(C₁ ~ C₄)アルキル基上の任意の化学的に可能な場所であることができる。

【0055】

「(C₁ ~ C₁₂)アルキル」は、1~12個の炭素原子の飽和した、直鎖状の、分枝の、または環式の炭化水素、またはこれらの任意の組合せを包含することを意図する。「(C₁ ~ C₁₂)アルキル」の非限定的例として、メチル、エチル、n-プロピル、イソ

10

20

30

40

50

プロピル、シクロプロピル、n-ブチル、イソブチル、sec-ブチル、t-ブチル、シクロブチル、シクロプロピル-メチル、メチル-シクロプロピル、ペンチル、シクロ pentyl、ヘキシル、シクロヘキシル、ヘプチル、オクチル、ノニル、デシル、ウンデシル、およびドデシルが挙げられる。(C₁ ~ C₁₂)アルキル基における分子の残りの部分との結合点は、(C₁ ~ C₁₂)アルキル基上の任意の化学的に可能な場所であることができる。

【0056】

「(C₂ ~ C₁₂) - アルケニル」は、2 ~ 12 個の炭素原子を有する、不飽和の直鎖状の、分枝の、もしくは環式基、またはこれらの任意の組合せを包含することを意図する。すべての二重結合は、独立して、(E)または(Z)のいずれかの配置、およびこれらの任意の混合物であってよい。アルケニル基の例として、これらに限定されないが、-CH₂-CH=CH-CH₃; および-CH₂-CH₂-シクロヘキセニルが挙げられ、エチル基は、任意の利用可能な炭素原子価でシクロヘキセニル部分に結合することができる。

10

【0057】

「(C₂ ~ C₁₂) - アルキニル」は、少なくとも1つの三重結合を含有する、2 ~ 12 個の炭素原子を有する、不飽和の直鎖状の、分枝の、もしくは環式基、またはこれらの任意の組合せを包含することを意図する。

【0058】

「ハロゲン」または「ハロ」は、フルオロ、クロロ、ブロモ、およびヨードを意味する。

20

【0059】

「(C₁ ~ C₄)ハロアルキル」は、少なくとも1つのハロゲン置換基を有する任意のC₁ ~ C₄アルキル置換基を包含することを意図する。ハロゲンは、C₁ ~ C₄アルキル基上の任意の原子価を介して結合することができる。C₁ ~ C₄ハロアルキルのいくつかの例は、-CF₃、-CCl₃、-CHF₂、-CHCl₂、-CHBr₂、-CH₂F、-CH₂Cl、または-CF₂CF₃である。

【0060】

「(C₁ ~ C₁₂)ハロアルキル」は、少なくとも1つのハロゲン置換基を有する任意のC₁ ~ C₁₂アルキル置換基を包含することを意図し、ハロゲンは、C₁ ~ C₁₂アルキル基上の任意の原子価を介して結合することができる。C₁ ~ C₁₂ハロアルキルの一部の例は、-CF₃、-CCl₃、-CHF₂、-CHCl₂、-CHBr₂、-CH₂F、-CH₂Cl、または-CF₂CF₃である。

30

【0061】

「アリール」という用語は、単環(例えば、フェニル)または複数の縮合した(融合した)環(例えば、ナフチル)を有する、6 ~ 10 個の炭素原子の芳香族環式炭化水素基を包含することを意図する。

【0062】

「呼吸鎖障害」とは、ミトコンドリアの呼吸鎖に含有されるタンパク質または他の構成要素の欠陥または障害に起因する、ミトコンドリア、細胞、組織、または個体による酸素の利用の低減をもたらす障害を意味する。「ミトコンドリアの呼吸鎖に含有されているタンパク質または他の構成要素」とは、ミトコンドリアの複合体I、II、III、IV、およびVまたはVを含む(これらに限定されないが、タンパク質、テトラピロール、およびシトクロムを含む)構成要素を意味する。「呼吸鎖タンパク質」とは、これらの複合体のタンパク質構成要素を指し、「呼吸鎖タンパク質障害」とは、ミトコンドリアの呼吸鎖に含有されるタンパク質の欠陥または障害に起因する、ミトコンドリア、細胞、組織、または個体による酸素の利用の低減をもたらす障害を意味する。

40

【0063】

「パーキンソン病」、「パーキンソニズム」および「パーキンソン病症候群」とも呼ばれている)(「PD」)という用語は、パーキンソン病ばかりでなく、薬物誘発性パー

50

キンソニズムおよび脳炎後パーキンソニズムも含むことを意図する。パーキンソン病は振戦麻痺または振盪麻痺としても公知である。パーキンソン病は、振戦、筋硬直および姿勢反射の損失を特徴とする。疾患は通常、10～20年が経過する間にゆっくりと進行し、その後症状が不能状態を引き起こす。パーキンソン病の作用を模倣することから、動物のメタンフェタミンまたはMPTPでの処置を使用して、パーキンソン病のためのモデルを作り出している。これらの動物モデルを使用して、パーキンソン病のための様々な治療法の有効性を評価してきた。

【0064】

「フリードライヒ運動失調症」という用語は、他の関連する運動失調を包含することを意図し、また時には、遺伝性運動失調、家族性運動失調、またはフリードライヒ消耗とも呼ばれる。

10

【0065】

「運動失調」という用語は、小脳などの、運動を協調させる神経系の部分の機能不全を意味する非特異的臨床徵候である。運動失調を有する人々は、運動および平衡を制御する神経系の部分が影響を受けるので、協調運動に問題がある。運動失調は、指、手、腕、脚、胴、話し方、および眼球運動に影響を及ぼし得る。運動失調という単語は、多くの場合、中枢神経系における感染症、傷害、他の疾患、または変性的变化を伴う可能性がある協調運動の失調の症状について記載するために使用することができる。運動失調はまた、遺伝性運動失調および散発性運動失調と呼ばれる神経系の特定の変性疾患の群を意味するよう

20

【0066】

3種類の運動失調、すなわち、小脳性運動失調（前庭・小脳の機能不全、脊髄・小脳の機能不全、および大脳・小脳の機能不全を含む）；感覚性運動失調；および前庭性運動失調が存在する。脊髄・小脳の運動失調または多系統萎縮症として分類できる疾患の例として、遺伝性オリーブ橋小脳萎縮症、遺伝性小脳皮質萎縮症、フリードライヒ運動失調症、マシャドジョセフ病、ラムゼーハント症候群、遺伝性歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症、遺伝性痙性対麻痺、シャイ・ドレーガー症候群、皮質性小脳萎縮症、線条体黒質変性症、マリネスコ・シェーグレン症候群、アルコール性皮質性小脳萎縮症、悪性腫瘍に伴う腫瘍隨伴性小脳萎縮症、有毒物質により引き起こされる有毒性小脳萎縮症、トコフェロール輸送タンパク質（αTTP）の突然変異に起因するビタミンE欠損症または脂質吸収障害、例えば、無リポタンパク質血症、内分泌性妨害を伴う小脳萎縮症などがある。

30

【0067】

運動失調症状の例として、運動性運動失調、躯幹運動失調、四肢運動失調など、自律神経障害、例えば、起立性低血圧、排尿障害、発汗低下、睡眠時無呼吸、起立性失神など、下肢の硬直、眼性眼振、動眼神経障害、錐体路機能不全、錐体外路症状（姿勢調整機能不全、筋硬直、アキネジア、振戦）、嚥下障害、舌萎縮、脊髄後索症状、筋萎縮、筋力低下、深部反射亢進、感覚障害、脊柱側弯症、後側弯症、足変形、構語障害、認知症、躁状態、リハビリテーションに対するモチベーションの低減などがある。

本発明の化合物および方法を用いた処置または抑制に適している疾患

40

【0068】

様々な障害／疾患、例えば、ミトコンドリア障害、エネルギー処理低下障害、神経変性疾患および老化による疾患などは細胞内の正常な電子流に影響を及ぼす酸化ストレスにより引き起こされるまたは悪化すると考えられており、本発明の化合物および方法を使用して処置または抑制することができる。

【0069】

酸化ストレス障害の非限定的例として、例えば、ミトコンドリア障害（遺伝性ミトコンドリア病を含む）、例えば、アルパース病、バース症候群、酸化欠陥、カルニチン・アシル・カルニチン欠損症、カルニチン欠損症、クレアチン欠損症候群、コエンザイムQ10欠損症、複合体I欠損症、複合体II欠損症、複合体III欠損症、複合体IV欠損症、複合体V欠損症、COX欠損症、慢性進行性外眼筋麻痺（CPEO）、CPT-I欠

50

損症、C P T I I 欠損症、フリードライヒ運動失調症（F A）、グルタル酸尿症 I I 型、ケアーンズセイヤー症候群（K S S）、乳酸アシドーシス、長鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（L C A D）、L C H A D、リー病またはリー症候群、リー様症候群、レーベル遺伝性視神経萎縮症（L H O N、レーベル疾患、レーベル視神経萎縮（L O A）、またはレーベル視神経症（L O N）とも呼ばれる）、致命的な乳児性心筋症（L I C）、ルフト病、多種アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（M A D）、中鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（M C A D）、ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、脳卒中症候群（M E L A S）、赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌステンkan（M E R R F）、ミトコンドリア劣性運動失調症候群（M I R A S）、ミトコンドリア細胞症、ミトコンドリアD N A 欠失、ミトコンドリア脳症、ミトコンドリアミオパシー、ミトコンドリア神経胃腸性障害および脳症（M N G I E）、ニューロパシー、運動失調、および網膜色素変性症（N A R P）、ピアソン症候群、ピルビン酸カルボキシラーゼ欠損症、ピルビン酸デヒドロゲナーゼ欠損症、P O L G 突然変異、呼吸鎖障害、短鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（S C A D）、S C H A D、超長鎖アシルC o A デヒドロゲナーゼ欠損症（V L C A D）；ミオパシー、例えば、心筋症および脳筋症など；神経変性疾患、例えば、パークソン病、アルツハイマー病、および筋萎縮性側索硬化症（A L S、ルーゲーリック病としても公知）など；運動ニューロン疾患；神經疾患、例えば、てんかんなど；老化に伴う疾患、特にC o Q 1 0 が処置のために提案されている疾患、例えば、黄斑変性、糖尿病、メタボリックシンドローム、およびがん（例えば脳がん）など；遺伝性疾患、例えば、ハンチントン病（これは神經疾患でもある）；気分障害、例えば、統合失調症および双極性障害など；広汎性発達障害、例えば、自閉症性障害、アスペルガー症候群、小児期崩壊性障害（C D D）、レット症候群、および特定不能の広汎性発達障害（P D D - N O S）；脳血管発作、例えば、脳卒中など；視力機能障害、例えば、眼の神經変性疾患により引き起こされるもの、例えば、視神経症、レーバー遺伝性視神経萎縮症、優性遺伝性若年性視神経萎縮症、有毒薬剤により引き起こされる視神経症、緑内障、加齢黄斑変性（「乾燥型」または非浸出性の黄斑変性と「湿潤型」または浸出性の黄斑変性の両方）、シュタルガルト黄斑ジストロフィー、糖尿病性網膜症、糖尿病性黄斑症、未熟児網膜症、または虚血再灌流関連の網膜損傷；エネルギー機能障害により引き起こされる障害（酸素の剥脱、毒作用または毒性、および酸素輸送における定性的または定量的破壊に起因する疾患を含む）；例えば、ヘモグロビン異常症（h a e m o g l o b i o n o p a t h i e s）、例えばサラセミアまたは鎌状赤血球性貧血など；ミトコンドリア機能不全が関与している他の疾患、例えば、興奮毒性、ニューロン損傷、例えば、発作、脳卒中および虚血に関連するものなど；ならびに尿細管性アシドーシスを含めた他の障害；注意欠陥／多動性障害（A D H D）；聴力または平衡機能障害をもたらす神經変性障害；優性視神経萎縮症（D O A）；母系遺伝性糖尿病および難聴（M I D D）；慢性疲労；造影剤誘発性腎障害；造影剤誘発性網膜症損傷；無リポタンパク質血症；網膜色素変性症；ウォフラム病；トウレット症候群；コバラミンC型欠陥；メチルマロン酸尿症；グリア芽細胞腫；ダウン症候群；急性尿細管壞死；筋ジストロフィー；白質ジストロフィー；進行性核上性麻痺；脊髄性筋萎縮症；聴覚損失（例えばノイズ誘発性聴覚損失）；外傷性脳傷害；若年性ハンチントン病；多発性硬化症；N G L Y 1；多系統萎縮症；副腎白質ジストロフィー；および副腎脊髄神經障害。が挙げられる。ある特定の特異的な疾患または障害は、2種以上のカテゴリーに入り得ることを理解されたい；例えば、ハンチントン病は遺伝性疾患および神經疾患である。さらに、ある特定の酸化ストレス疾患および障害もミトコンドリア異常とみなすことができる。

【0070】

本発明の化合物および方法を用いた処置に適しているいくつかの障害に関しては、障害の主要な原因是、呼吸鎖の欠陥あるいはミトコンドリア、細胞、または組織（複数可）内のエネルギーの正常な利用を妨げる別の欠陥によるものである。このカテゴリーに入る障害の非限定的例として、遺伝性ミトコンドリア病、例えば、赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌステンkan（M E R R F）、ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、および

10

20

30

40

50

脳卒中（MELAS）、レーベル遺伝性視神経萎縮症（LHON、レーベル疾患、レーベル視神経萎縮（LOA）、またはレーベル視神経症（LON）ともと呼ばれる）、リー病またはリー症候群、ケアーンズセイヤー症候群（KSS）、およびフリードライヒ運動失調症（FA）が挙げられる。本発明の化合物および方法を用いた処置に適しているいくつかの障害に関して、障害の主要な原因は、呼吸鎖欠陥あるいはミトコンドリア、細胞、または組織（複数可）内でのエネルギーの正常な利用を妨げる他の欠陥によるものではない；このカテゴリーに入る障害の非限定的例として、脳卒中、がん、および糖尿病が挙げられる。しかし、これら後者の障害は、特にエネルギー機能障害により悪化し、この状態を回復させるために、本発明の化合物を用いた処置が特に適している。このような障害に関連のある例として、障害の主要な原因が、脳への血液供給の障害によるものである、虚血性脳卒中および出血性の脳卒中が挙げられる。血栓症または塞栓症により引き起こされる虚血性状態の発症、または血管の断裂により引き起こされる出血性状態の発症は、呼吸鎖の欠陥またはエネルギーの正常な利用を妨げる別の代謝性欠陥によって主に引き起こされるわけではないが、酸化ストレスは、低酸素後の酸素再灌流障害に起因する虚血性カスケードにある役割を果たしている（このカスケードは心発作および脳卒中において生じる）。したがって、本発明の化合物および方法を用いた処置は、疾患、障害または状態の作用を緩和することになる。1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを正常化する、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを強化することは、治療手段および予防手段の両方としてこのような障害に有利となることができる。例えば、動脈瘤の非緊急修復を受ける予定である患者に対して、修復が成功する前に動脈瘤が断裂してしまうことがないように、術前期間の前および術前期間中にエネルギーバイオマーカーを強化することで、この患者の予後を改善することができる。

10

20

30

【0071】

「酸化ストレス障害」または「酸化ストレス疾患」という用語は、酸化ストレスにより引き起こされる疾患と、酸化ストレスによる悪化する疾患の両方を包含する。「酸化ストレス障害」または「酸化ストレス疾患」という用語は、疾患の主要な原因が、呼吸鎖の欠陥あるいはミトコンドリア、細胞、または組織（複数可）内でのエネルギーの正常な利用を妨げる別の欠陥によるものである疾患および障害と、また、疾患の主要な原因が、呼吸鎖の欠陥あるいはミトコンドリア、細胞、または組織（複数可）内でのエネルギーの正常な利用を妨げる別の欠陥によるものではない疾患および障害の両方を包含する。前者の一連の疾患は、「1次的酸化ストレス障害」と呼ぶことができ、後者は「2次的酸化ストレス障害」と呼ぶことができる「酸化ストレスにより引き起こされる疾患」と「酸化ストレスにより悪化する疾患」の区別は絶対的ではなく、疾患は、酸化ストレスにより引き起こされる疾患と酸化ストレスにより悪化する疾患の両方であってよいことに注目するべきである。「1次的酸化ストレス障害」と「2次的酸化ストレス障害」との間の境界はさらに明確であるが、ただし、疾患または障害の1次的原因は1つしかなく、1次的原因は公知であるものとする。

30

【0072】

酸化ストレスにより引き起こされる疾患と酸化ストレスにより悪化する疾患の間のいくぶん流動的な境界を踏まえれば、ミトコンドリア病または障害およびエネルギー処理低下疾患および障害は、酸化ストレスにより引き起こされる疾患のカテゴリーに入る傾向にあるのに対して、神経変性障害および老化による疾患は、酸化ストレスにより悪化する疾患のカテゴリーに入る傾向にある。ミトコンドリア病または障害およびエネルギー処理低下疾患および障害は、一般的に1次的酸化ストレス障害であるのに対して、神経変性障害および老化による疾患は1次的または2次的酸化ストレス障害となり得る。

40

酸化ストレスおよび治療の有効性の臨床的評価

50

【0073】

いくつかの容易に測定可能な臨床的マーカーを使用して、酸化ストレス障害を有する患者の代謝性状態を査定する。これらのマーカーは、マーカーのレベルが病的な値から健常

値に移動するので、付与された治療の有効性の指標としても使用することができる。これらの臨床的マーカーとして、これらに限定されないが、エネルギーバイオマーカー、例えば、全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の乳酸（ラクテート）レベルなど；全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中のピルビン酸（ピルベート）レベル；全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の乳酸／ピルビン酸比；全血、血漿、リンパ球、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の総、還元型もしくは酸化型グルタチオンレベル、または還元型／酸化型グルタチオン比；全血、血漿、リンパ球、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の総、還元型もしくは酸化型システィンレベル、または還元型／酸化型システィン比；クレアチンリン酸レベル、NADH (NADH + H⁺) または NADPH (NADPH + H⁺) レベル；NAD または NADP レベル；ATP レベル；嫌気性閾値；還元型補酵素 Q (CoQ red) レベル；酸化型補酵素 Q (CoQ o x) レベル；総補酵素 Q (CoQ tot) レベル；酸化型シトクロム C レベル；還元型シトクロム C レベル；酸化型シトクロム C / 還元型シトクロム C 比；アセトアセテートレベル、リドロキシブチレートレベル、アセトアセテート / リドロキシブチレート比、8 - ヒドロキシ - 2' - デオキシグアノシン (8 - OH dG) レベル；反応性酸素種のレベル；および酸素消費 (VO₂) レベル、二酸化炭素排出量 (VCO₂) レベル、および呼吸器の指数 (VCO₂ / VO₂) が挙げられる。これらの臨床的マーカーのいくつかは、運動生理機能学の実験室で規定通りに測定され、対象の代謝状態の評価が得られるのが便利である。本発明の一実施形態では、酸化ストレス障害、例えば、フリードライヒ運動失調症、レベル遺伝性視神経萎縮症、MELAS、KSS または CoQ10 欠損症などに罹患した患者における 1 種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルは、健常な対象の平均レベルの 2 の標準偏差内で改善される。本発明の別の実施形態では、酸化ストレス障害、例えば、フリードライヒ運動失調症、レベル遺伝性視神経萎縮症、MELAS、KSS または CoQ10 欠損症などに罹患した患者のこれらのエネルギーバイオマーカーの 1 種または複数のレベルは、健常な対象の平均レベルの 1 の標準偏差内で改善される。運動耐容能低下もまた付与される治療の有効性の指標として使用することができ、この場合、運動耐容能の改善（すなわち、運動耐容能低下の低減）は、付与される治療の有効性を示す。

【0074】

いくつかの代謝バイオマーカーが CoQ10 の有効性を評価するためにすでに使用されており、これらの代謝バイオマーカーを、本発明の方法における使用のためのエネルギーバイオマーカーとしてモニターすることができる。グルコースの嫌気性代謝産物である乳酸は、好気性環境においてピルビン酸への還元により、または酸化的代謝により除去されるが、これは、機能性ミトコンドリアの呼吸鎖に依存する。呼吸鎖の機能不全は、循環からの、乳酸およびピルビン酸の不十分な排除をもたらす可能性があり、乳酸／ピルビン酸比の上昇がミトコンドリア細胞症において観察される (Scriven CR, The metabolic and molecular bases of inherited disease, 第 7 版、New York : McGraw-Hill, Health Professions Division, 1995 年; および Munnich ら、J. Inherit. Metab. Dis., 15 卷(4 号) : 448 ~ 55 頁 (1992 年) を参照されたい)。したがって、血液の乳酸／ピルビン酸比 (Chariots ら、Arch. Pathol. Lab. Med., 118 卷(7 号) : 695 ~ 7 頁 (1994 年)) は、ミトコンドリア細胞症 (Scriven CR, The metabolic and molecular bases of inherited disease, 第 7 版、New York : McGraw-Hill, Health Professions Division, 1995 年; および Munnich ら、J. Inherit. Metab. Dis., 15 卷(4 号) : 448 ~ 55 頁 (1992 年) を再度参照されたい) および有毒性ミトコンドリアミオパシー (Chariots ら、Arthritis Rheum., 37 卷(4 号) : 583 ~ 6 頁 (1994 年)) の検出のための非侵襲性試験として広く使用されている。肝臓ミトコンドリア

のレドックス状態の変化は、動脈のケトン体の比（アセトアセテート / 3 - リドロキシブチレート塩 : A K B R) を測定することによって調査することができる (U e d a ら、 J . C a r d i o l . 、 2 9 卷 (2 号) : 9 5 ~ 1 0 2 頁 (1 9 9 7 年)) 。 8 - ヒドロキシ - 2 ' - デオキシグアノシン (8 - O H d G) の尿中排出は、多くの場合、臨床的環境と職場環境の両方における R O S 誘発性 D N A 損傷の修復程度を査定するためのバイオマーカーとして使用されてきた (E r h o l a ら、 F E B S L e t t . 4 0 9 卷 (2 号) : 2 8 7 ~ 9 1 頁 (1 9 9 7 年) ; H o n d a ら、 L e u k . R e s . 、 2 4 卷 (6 号) : 4 6 1 ~ 8 頁 (2 0 0 0 年) ; P i l g e r ら、 F r e e R a d i c . R e s . 、 3 5 卷 (3 号) : 2 7 3 ~ 8 0 頁 (2 0 0 1 年) ; K i m ら、 E n v i r o n H e a l t h P e r s p e c t . 1 1 2 卷 (6 号) : 6 6 6 ~ 7 1 頁 (2 0 0 4 年)) 。 10

【 0 0 7 5 】

磁気共鳴分光法 (M R S) は、プロトン M R S (1 H - M R S) を使用して脳脊髄液 (C S F) および皮質白色物質乳酸の上昇を実証することにより、ミトコンドリア細胞症の診断において有用である (K a u f m a n n ら、 N e u r o l o g y 、 6 2 卷 (8 号) : 1 2 9 7 ~ 3 0 2 頁 (2 0 0 4 年)) 、リン M R S (3 1 P - M R S) は、低レベルの皮質性クレアチニンリン酸 (P C r) (M a t t h e w s ら、 A n n . N e u r o l . 、 2 9 卷 (4 号) : 4 3 5 ~ 8 頁 (1 9 9 1 年)) 、および骨格筋における運動後の P C r 回復速度の遅延 (M a t t h e w s ら、 A n n . N e u r o l . 、 2 9 卷 (4 号) : 4 3 5 ~ 8 頁 (1 9 9 1 年) ; B a r b i r o l i ら、 J . N e u r o l . 、 2 4 2 卷 (7 号) : 4 7 2 ~ 7 頁 (1 9 9 5 年) ; F a b r i z i ら、 J . N e u r o l . S c i . 、 1 3 7 卷 (1 号) : 2 0 ~ 7 頁 (1 9 9 6 年)) を実証するために使用されてきた。直接的生化学的測定によって、ミトコンドリア細胞症の患者において、低い骨格筋 P C r もまた確認されている。 20

【 0 0 7 6 】

運動負荷試験は、ミトコンドリアミオパシーにおける評価およびスクリーニングツールとして特に有益である。ミトコンドリアミオパシーの顕著な特徴の 1 つは、最大全身酸素消費量 (V O 2 最大量) の減少である (T a i v a s s a l o ら、 B r a i n 、 1 2 6 卷 (P t 2) : 4 1 3 ~ 2 3 頁 (2 0 0 3 年)) 。 V O 2 最大量が心拍出量 (Q c) と末梢の酸素抽出量 (動脈 - 静脈の総酸素含有量) の差によって求められると仮定すると、いくつかのミトコンドリア細胞症は、送達が変わる可能性のある心機能に影響を及ぼす。しかし、大部分のミトコンドリアミオパシーは、末梢の酸素抽出量 (A - V O 2 差) の特徴的欠乏および酸素送達の増強 (過剰循環) を示す (T a i v a s s a l o ら、 B r a i n 、 1 2 6 卷 (P t 2) : 4 1 3 ~ 2 3 頁 (2 0 0 3 年)) 。これは、直接的な A V バランスの測定を用いて (T a i v a s s a l o ら、 A n n . N e u r o l . 、 5 1 卷 (1 号) : 3 8 ~ 4 4 頁 (2 0 0 2 年)) および近赤外分光法により非侵襲的に (L y n c h ら、 M u s c l e N e r v e 、 2 5 卷 (5 号) : 6 6 4 ~ 7 3 頁 (2 0 0 2 年) ; v a n B e e k v e l t ら、 A n n . N e u r o l . 、 4 6 卷 (4 号) : 6 6 7 ~ 7 0 頁 (1 9 9 9 年)) 、静脈血の運動誘発性脱酸素化の欠如により実証することができる。 30

【 0 0 7 7 】

これらのエネルギーバイオマーカーのいくつかは、以下の通りさらに詳細に考察される。特定のエネルギーバイオマーカーが本明細書で考察され、列挙されているが、本発明は、これらの列挙されたエネルギーバイオマーカーのみのモジュレーション、正常化または強化に限定されないことを強調したい。 40

【 0 0 7 8 】

乳酸 (ラクテート) レベル：ミトコンドリア機能不全では通常、ピルビン酸レベルが増加し、解糖のための能力を維持するためにピルビン酸が乳酸に変換されるため、異常なレベルの乳酸が生じる。還元されたニコチンアミドアデニンジヌクレオチドが呼吸鎖により効率的に処理されないことから、ミトコンドリア機能不全によって異常なレベルの N A D H + H + 、 N A D P H + H + 、 N A D 、または N A D P も生じ得る。乳酸レベルは、適切な体液、例えば、全血、血漿、または脳脊髄液などの試料を採取することによって測定す 50

ことができる。乳酸レベルは、磁気共鳴を使用して、実質的にあらゆる容量の所望の実体、例えば、脳などにおいて測定することができる。

【0079】

MELAS患者における、磁気共鳴を使用した脳の乳酸アシドーシスの測定は、Kaufmannら、Neurology、62巻(8号)：1297頁(2004年)において記載されている。脳の側脳室内の乳酸レベルの値が、MELASをもたらす2つの突然変異体、A3243GおよびA8344Gに対して提示されている。全血、血漿、および脳脊髄液乳酸レベルは、市販の装置、例えば、YSI 2300 STAT Plus Glucose & Lactate Analyzer (YSI Life Sciences, Ohio)により測定することができる。10

【0080】

NAD、NADP、NADHおよびNADPHレベル：NAD、NADP、NADH (NADH + H⁺)またはNADPH (NADPH + H⁺)の測定は、様々な蛍光性、酵素的、または電気化学的技法、例えば、US2005/0067303に記載されている電気化学的アッセイにより測定することができる。

【0081】

GSH、GSSG、Cys、およびCysSレベル：簡単に説明すると、GSH、GSSG、Cys、およびCysSの血漿レベルは、インビボでのE_h値を計算するために使用される。Jonesら(2009年、Free Radical Biology &

Medicine、47巻(10号)1329～1338頁)の手順を使用して試料を収集し、プロモビマンを使用して、遊離チオールをアルキル化し、HPLCおよび電気化学的質量分析計またはMSMSのいずれかを使用して、分子を分離、検出、および定量化する。2012年9月7日に出願した米国仮特許出願第61/698,431号、および代理人整理番号526303005501で2013年3月15日に出願した米国仮特許出願においてさらに詳細に記載されているように、ヒト血漿中に存在する最も一般的なモノチオールおよびジスルフィド(シスチン、システイン、還元型グルタチオン(GSH)および酸化型グルタチオン(GSSG))を分析するために、および内部標準(IS)としてバソフェナントロリンジスルホン酸を使用して、異なる実験パラメーターに対する方法が開発された。検出器電位1475mVで、DCモードで電気化学的検出器を使用して、0.6ml/分の速度で、ポンプで送り込まれる移動相として0.2%TFA：アセトニトリルを使用して、35での、C18 RPカラム(250mm × 4.6mm、3ミクロン)上でのすべてのターゲット分析物およびISの完全な分離を達成した。2030

【0082】

酸素消費量(VO₂またはV_O2)、二酸化炭素排出量(VCO₂またはV_CO₂)、および呼吸商(VCO₂/VO₂)：VO₂は通常、安静時(安静時VO₂)または最大運動強度(VO₂最大量)のいずれかで測定される。最適には、両方の値を測定する。しかし、重篤な障害をもつ患者については、VO₂最大量の測定は非現実的であり得る。両方の形態のVO₂の測定は、様々な販売元、例えばKorff Medical Technologies, Inc. (Salt Lake City, Utah)からの標準装置を使用して容易に達成される。VCO₂もまた、容易に測定することができ、同一条件下でのVCO₂とVO₂の比(VCO₂/VO₂、安静時または最大運動強度のいずれか)により、呼吸商(RQ)が得られる。40

【0083】

酸化型シトクロムC、還元型シトクロムC、および酸化型シトクロムCと還元型シトクロムCの比：シトクロムCパラメーター、例えば、酸化型シトクロムCレベル(Cyt C_x)、還元型シトクロムCレベル(Cyt C_{red})、および酸化型シトクロムC/還元型シトクロムCの比(Cyt C_x) / (Cyt C_{red})は、インビボで近赤外分光法により測定することができる。例えば、Rolefie, P., 「In vivo near-infrared spectroscopy」、Annu. Rev. Biomed. Eng., 2巻：715～54頁(2000年)およびStrangmanら、

50

50

50

50

50

「Non-invasive neuroimaging using near-infrared light」、Biol. Psychiatry、52巻：679～93頁（2002年）を参照されたい。

【0084】

運動耐容能 / 運動耐容能低下：運動耐容能低下は、「呼吸困難または疲労の症状による、大きな骨格筋の動的運動に関与している活動を実施する能力の減少」と定義される（Pinnaら、Circulation、107巻：1210頁（2003年））。運動耐容能低下は、多くの場合、筋肉組織の分解、およびそれに続く尿中への筋肉ミオグロビンの排出により、ミオグロビン尿症を伴う。消耗するまでトレッドミルを歩行または走行するのに費やした時間、消耗するまでエクササイズバイク（固定された自転車）に費やした時間など、運動耐容能低下の様々な尺度を使用することができる。本発明の化合物または方法を用いた処置は、運動耐容能の約10%またはそれ超の改善（例えば、消耗までの時間の約10%またはそれ超、例えば、10分間～11分間の増加）、運動耐容能の約20%またはそれ超の改善、運動耐容能の約30%またはそれ超の改善、運動耐容能の約40%またはそれ超の改善、運動耐容能の約50%またはそれ超の改善、運動耐容能の約75%またはそれ超の改善、または運動耐容能の約100%またはそれ超の改善をもたらすことができる。運動耐容能は、厳密に言うと、本発明の目的のためのエネルギーバイオマーカーではないが、エネルギーバイオマーカーのモジュレーション、正常化、または強化には、運動耐容能のモジュレーション、正常化、または強化が含まれる。

【0085】

同様に、ビルビン酸（ピルベート）レベルの正常値および異常値、乳酸 / ピルビン酸比、ATPレベル、嫌気性閾値、還元型補酵素Q（CoQ_{red}）レベル、酸化型補酵素Q（CoQ_x）レベル、総補酵素Q（CoQ_{tot}）レベル、酸化型シトクロムCレベル、還元型シトクロムCレベル、酸化型シトクロムC / 還元型シトクロムC比、GSHおよびシステインの還元型、酸化型、総レベルおよび比、アセトアセテートレベル、リドロキシブチレートレベル、アセトアセテート / リドロキシブチレート比、8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン（8-OHdG）レベル、および反応性酸素種のレベルに対する試験は当技術分野で公知であり、本発明の化合物および方法の有効性を評価するために使用することができる。（本発明の目的のため、エネルギーバイオマーカーのモジュレーション、正常化、または強化は、嫌気性閾値のモジュレーション、正常化、または強化を含む。）

【0086】

以下の表1は、様々な機能不全が生化学およびエネルギーバイオマーカーに対して生じる可能性がある作用を例示している。表1はまた、所与の機能不全に通常伴う物理的作用（例えば、疾患症状または機能不全の他の作用）も示している。他の箇所で列挙されたエネルギーバイオマーカーに加えて、表の中で列挙されたエネルギーバイオマーカーのいずれもまた、本発明の化合物および方法により、モジュレート、強化、または正常化することができることに注目されたい。RQ = 呼吸商；BMR = 基礎代謝率；HR (CO) = 心拍数（心拍出量）；T = 体温（好ましくは核心温として測定）；AT = 嫌気性閾値；pH = 血液pH（静脈および / または動脈）。

10

20

30

40

【表1】

表1

機能不全部位	生化学的事象	測定可能なエネルギーバイオマーカー	生理的作用
呼吸鎖	↑ NADH	△乳酸、△乳酸:ピルビン酸比; および△アセトアセテート:β-ヒドロキシブチレート比	代謝性悪液質 & 疲労
呼吸鎖	↓ H+勾配	△ ATP	器官依存性機能不全
呼吸鎖	↓ 電束	△ VO ₂ 、RQ、BMR、△T、AT、pH	代謝性悪液質 & 疲労
ミトコンドリア&サイトゾル	↓ ATP, ↓ VO ₂	△仕事、△HR(CO)	運動耐容能低下
ミトコンドリア&サイトゾル	↓ ATP	△ PCr	運動耐容能低下
呼吸鎖	↓ Cyt C _{Ox} / _{Red}	△λ約700~900nm(近赤外分光法)	運動耐容能低下
中間代謝	↓ 異化	△C14-標識された基質	代謝性悪液質 & 疲労
呼吸鎖	↓ 電束	△混合された静脈のVO ₂	代謝性悪液質 & 疲労
ミトコンドリア&サイトゾル	↑ 酸化ストレス	△トコフェロール&トコトリエノール、CoQ10、ドコサヘキサエン酸	不明
ミトコンドリア&サイトゾル	↑ 酸化ストレス	△グルタチオン _{red}	不明
ミトコンドリア&サイトゾル	核酸酸化	△8-ヒドロキシ2-デオキシグアノシン	不明
ミトコンドリア&サイトゾル	脂質酸化	△イソプラスタン(複数可)、エイコサノイド	不明
細胞膜	脂質酸化	△エタン(呼気)	不明
細胞膜	脂質酸化	△マロンジアルデヒド	不明

【0087】

本発明の方法に従い、酸化ストレス障害に罹った対象を処置することにより、対象における症状の減少または軽減を誘発する、例えば、障害のさらなる進行を停止させることができる。

【0088】

酸化ストレス障害の部分的または完全な抑制により、対象がさもなければ経験することになる症状のうちの1種または複数の重症度を和らげることができる。例えば、MELASの部分的な抑制は、罹患した脳卒中様症状または発作発症の回数の減少をもたらすことができる。

【0089】

本明細書に記載されているエネルギーバイオマーカーの任意の1つまたは任意の組合せは、処置または抑制的治療の有効性を測るために便利に測定可能な基準を提供する。加えて、他のエネルギーバイオマーカーが当業者に公知であり、処置または抑制的治療の有効性を評価するためにモニターすることができる。

エネルギーバイオマーカーのモジュレーションのための化合物の使用

【0090】

酸化ストレス疾患の処置または抑制の状態を査定するために、エネルギーバイオマーカー

10

20

30

40

50

ーをモニタリングすることに加えて、本発明の化合物は、1種または複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートするために、対象または患者に使用することができる。エネルギーバイオマーカーのモジュレーションは、対象内でエネルギーバイオマーカーを正常化するために、または対象内でエネルギーバイオマーカーを強化するために行うことができる。

【0091】

1種または複数のエネルギーバイオマーカーの正常化とは、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーのレベルが正常レベル（すなわち、健常な対象におけるレベル）から病的な差異を示している対象において、1種もしくは複数のこののようなエネルギーバイオマーカーのレベルを、正常またはほぼ正常なレベルに修復すること、または対象内の病的症状を軽減するために1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーのレベルを変化させることのいずれかであると定義される。エネルギーバイオマーカーの性質に応じて、このようなレベルは、正常値の上または下のいずれかの測定値を示すことができる。例えば、病的乳酸レベルは通常、正常な（すなわち、健常な）人間の乳酸レベルよりも高く、このレベルを低減させることが望ましいこともある。病的ATPレベルは通常、正常な（すなわち、健常な）人間のATPレベルより低く、ATPレベルを増加させることが望ましいこともある。したがって、エネルギーバイオマーカーの正常化は、エネルギーバイオマーカーのレベルを、対象の正常値の少なくとも約2の標準偏差の範囲内に、より好ましくは対象の正常値の少なくとも約1の標準偏差の範囲内に、正常値の少なくとも約2分の1の標準偏差の範囲内に、または正常値の少なくとも約4分の1の標準偏差の範囲内に修復することを含み得る。
10

【0092】

1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルの強化は、対象の1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの現存のレベルを、対象にとって有利なまたは所望の作用を提供するレベルに変化させることと定義される。例えば、激しい作業または長期の激しい肉体的活動、例えば、登山などを行っている人間であれば、ATPレベルの増加または乳酸レベルの低減は有利となり得る。上に記載のように、エネルギーバイオマーカーの正常化は、酸化ストレス疾患有する対象にとって最適の状態を達成することはできないこともあり、このような対象は、エネルギーバイオマーカーの強化が有利となり得る。1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルの強化が有利となり得る対象の例として、これらに限定されないが、激しいまたは長期の肉体的活動を行っている対象、慢性のエネルギー問題を持つ対象、または慢性的な呼吸器の問題を持つ対象が挙げられる。このような対象として、これらに限定されないが、妊婦、特に分娩時の妊婦；新生児、特に早産児；極限環境、例えば、高温環境（日常的に華氏約85～86度または摂氏約30度を上回る温度に、1日約4時間またはそれ超）、低温環境（日常的に、華氏約32度または摂氏約0度未満の温度に、1日約4時間またはそれ超）、または酸素含有量が平均より低い環境、二酸化炭素含有量が平均より高い環境、または大気汚染のレベルが平均より高い環境に曝露される対象（航空機旅行客、客室乗務員、高い高度にいる対象、大気質が平均より低い都市で生活する対象、大気質が低下した密閉環境で働く対象）；肺疾患有するまたは肺気量が平均より低い対象、例えば、結核患者、肺がん患者、肺気腫患者、および囊胞性線維症患者など；手術または病気から回復しつつある対象；エネルギー低下を経験しつつある高齢の対象を含めた高齢の対象；慢性疲労症候群を含めた、慢性疲労に罹患した対象；急性外傷を受けた対象；ショック状態の対象；急性の酸素投与を必要とする対象；慢性の酸素投与を必要とする対象；またはエネルギーバイオマーカーの強化が有利となり得る、急性的、慢性的、もしくは現時点でエネルギーを必要とする他の対象が挙げられる。
20

【0093】

したがって、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルの増加が対象に有利である場合、1種または複数のエネルギーバイオマーカーの強化は、それぞれのエネルギーバイオマーカー（複数可）のレベルを、正常値よりも少なくとも約4分の1の標準偏差
30

10

20

30

40

50

だけ上に、正常値よりも少なくとも約2分の1の標準偏差だけ上に、正常値よりも少なくとも約1の標準偏差だけ上に、または正常値よりも少なくとも約2の標準偏差だけ上に増加させることを含むことができる。代わりに、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルは、強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約10%上に、強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約20%上に、強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約30%上に、強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約40%上に、強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約50%上に、強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約75%上に、または強化以前のそれぞれの1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも約少なくとも100%上に増加させることができる。

【0094】

1種または複数のエネルギーバイオマーカーを強化するために、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルの低減が所望される場合、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーのレベルは、対象における正常値の少なくとも約4分の1の標準偏差の量だけ低減させる、対象における正常値の少なくとも約2分の1の標準偏差だけ低減させる、対象における正常値の少なくとも約1の標準偏差だけ低減させる、または対象における正常値の少なくとも約2の標準偏差だけ低減させることができる。代わりに、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのレベルは、強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約10%、強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約20%、強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約30%、強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約40%、強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約50%、強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約75%、または強化以前のそれぞれの1種または複数のエネルギーバイオマーカーの対象のレベルよりも少なくとも約90%低減させることができる。

研究用途、実験系、およびアッセイにおける化合物の使用

【0095】

本発明の化合物はまた研究用途に使用することもできる。本発明の化合物は、実験系における1種または複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートするためのインピトロの、インピボで、またはエクスピボ実験で使用することができる。このような実験系は、細胞試料、組織試料、細胞成分または細胞成分の混合物、部分的器官、全器官、または生物体であることができる。式Iの化合物のいずれか1つまたは複数を、実験系または研究用途に使用することができる。このような研究用途は、これらに限定されないが、アッセイ試薬としての使用、生化学的経路の解明、または本発明の1種もしくは複数の化合物の存在下／不在下での実験系の代謝状態についての他の薬剤の作用の評価を含むことができる。

【0096】

加えて、本発明の化合物は、生化学的試験またはアッセイに使用することができる。このような試験として、本発明の1種もしくは複数の化合物を、対象由来の組織または細胞試料と共にインキュベートすることによって、前記1種もしくは複数の化合物の投与に対する対象の潜在的応答（または対象の特定のサブセットの応答）を評価する、または本発明のどの化合物が特定の対象もしくは対象のサブセットにおいて最適作用を生じるかを決定することを挙げることができる。1つのこのような試験またはアッセイは、以下を含む：1) 対象から細胞試料または組織試料を得ること（対象内の1種または複数のエネルギーバイオマーカーのモジュレーションをアッセイすることができる）；2) 1種もしくは

10

20

30

40

50

複数の本発明の化合物を、細胞試料または組織試料に投与すること；および3) 1種または複数の化合物の投与後、1種または複数の化合物の投与前のエネルギーバイオマーカーの状態と比較して、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのモジュレーションの量を求める。別のことの試験またはアッセイは、以下を含む：1) 対象から細胞試料または組織試料を得ること（対象内の1種または複数のエネルギーバイオマーカーのモジュレーションをアッセイすることができる）；2) 少なくとも2種の本発明の化合物を細胞試料または組織試料に投与すること；3) 少なくとも2種の化合物の投与後、少なくとも2種の化合物の投与以前のエネルギーバイオマーカーの状態と比較して、1種または複数のエネルギーバイオマーカーのモジュレーションの量を求める。および4) ステップ3で求めたモジュレーションの量に基づいて、処置、抑制、またはモジュレーションに使用するための化合物（複数可）を選択すること。

10

医薬製剤

【0097】

本明細書に記載されている化合物は、添加物、例えば、薬学的に許容される添加剤、薬学的に許容される担体、および薬学的に許容されるビヒクルなどを用いて、製剤化により医薬組成物として製剤化することができる。適切な薬学的に許容される添加剤、担体およびビヒクルとして、加工剤およびドラッグデリバリー改質剤および強化剤、例えば、リン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、タルク、単糖、二糖、デンプン、ゼラチン、セルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、デキストロース、ヒドロキシプロピル-β-シクロデキストリン、ポリビニルピロリジノン、低融点ワックス、イオン交換樹脂など、ならびにこれらのいずれか2種またはそれ超の組合せが挙げられる。他の適切な薬学的に許容される添加剤は、本明細書に参照により組み込まれる「Remington's Pharmaceutical Sciences」、Mack Pub. Co.、New Jersey、(1991年)および「Remington: The Science and Practice of Pharmacy」、Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia、第20版、(2003年)および第21版(2005年)に記載されている。

20

【0098】

医薬組成物は、単位用量製剤を含むことができ、ここで、単位用量とは、治療もしくは抑制作用を有するのに十分な用量であるか、またはエネルギーバイオマーカーをモジュレート、正常化、もしくは強化するのに有効な量である。単位用量は、単回投薬として治療的もしくは抑制作用を有するのに十分であっても、またはエネルギーバイオマーカーをモジュレート、正常化、もしくは強化するのに有効な量であってもよい。代わりに、単位用量は、障害の処置または抑制の過程において定期的に投与する用量、またはエネルギーバイオマーカーをモジュレート、正常化、もしくは強化するために投与する用量であってよい。

30

【0099】

本発明の化合物を含有する医薬組成物は、例えば、液剤、懸濁剤、または乳剤を含めて、意図する投与方法に対して適切な任意の形態であってよい。液体担体は通常、液剤、懸濁剤、および乳剤を調製する上で使用される。本発明の実施における使用に対して想定される液体担体として、例えば、水、生理食塩水、薬学的に許容される有機溶媒（複数可）、薬学的に許容される油または脂肪など、ならびにこれらの2種またはそれ超の混合物が挙げられる。液体担体は、他の適切な薬学的に許容される添加物、例えば、可溶化剤、乳化剤、栄養物、緩衝剤、保存剤、懸濁剤、粘稠化剤、粘性調節剤、安定剤などを含有し得る。適切な有機溶媒として、例えば、一価アルコール、例えば、エタノールなど、および多価アルコール、例えば、グリコールなどが挙げられる。適切な油として、例えば、ダイズ油、ヤシ油、オリーブ油、ベニバナ油、綿実油などが挙げられる。非経口投与に対しては、担体はまた、油性エステル、例えば、オレイン酸エチル、ミリスチン酸イソプロピルなどであることもできる。本発明の組成物はまた微小粒子、マイクロカプセル、リポソ-

40

50

ム封入物などの形態、およびこれらの任意の2種またはそれ超の組合せの形態であってよい。

【0100】

時間放出または制御放出デリバリーシステム、例えば、拡散制御されたマトリクスシステムまたは浸食可能なシステム、例えば：Lee、「Diffusion-Controlled Matrix Systems」、155～198頁ならびにRonおよびLanger、「Erodible Systems」、199～224頁、「Treatise on Controlled Drug Delivery」、A. Kydonieus編、Marcel Dekker, Inc.、New York、1992年に記載されているようなものなどを使用することができる。マトリクスは、例えば、自然にインサイトおよびインビボで、例えば、加水分解または酵素的切断、例えば、タンパク質分解酵素により分解することができる生分解性物質であってよい。デリバリーシステムは、例えば、自然発生のまたは合成のポリマーまたはコポリマー、例えば、ヒドロゲルの形態であってよい。切断可能な結合を有する例示的ポリマーとして、ポリエステル、ポリオルトエステル、ポリ酸無水物、多糖、ポリ(ホスホエステル)、ポリアミド、ポリウレタン、ポリ(イミド炭酸塩)およびポリ(ホスファゼン)が挙げられる。

【0101】

本発明の化合物は、経腸、経口、非経口、舌下、吸入により(例えば、ミストまたはスプレーとして)、直腸、または局所的に、所望する場合、従来の非毒性の薬学的に許容される担体、アジュバント、およびビヒクルを含有する単位製剤で投与することができる。例えば、適切な投与モードとして、経口、皮下、経皮、経粘膜、イオン導入、静脈内、動脈内、筋肉内、腹腔内、鼻腔内(例えば鼻粘膜を介して)、硬膜下、直腸、消化器など、および特定のまたは病気に冒されている器官または組織に直接的に投与することができる。中枢神経系への送達のため、脊髄および硬膜外投与、または脳室への投与を使用することができる。局所的投与はまた、経皮的投与、例えば、経皮的パッチまたはイオントホーリッシュ装置などの使用を含むことができる。非経口という用語は、本明細書で使用する場合、皮下注射、静脈内注射、筋肉注射、胸骨内注射、または点滴技法が挙げられる。化合物は、所望の投与経路に対して適切な薬学的に許容される担体、アジュバント、およびビヒクルと混合される。経口投与が好ましい投与経路であり、経口投与に対して適切な製剤が好ましい製剤である。使用のために本明細書に記載されている化合物は、固体、液体形態、エアゾール剤形態、または錠剤、丸剤、散剤混合物、カプセル剤、顆粒、注射用、クリーム剤、液剤、坐剤、浣腸剤、腸内洗浄、乳剤、分散剤、食品プレミックスの形態、および他の適切な形態で投与することができる。化合物はまた、リポソーム製剤の形で投与することができる。化合物はまたプロドラッグとして投与することができ、このプロドラッグは、処置した対象内で治療的に有効である形態への変換が行われる。追加の投与方法は当技術分野で公知である。

【0102】

本発明の一部の実施形態では、特に、本明細書で列挙された経路を含むばかりでなく、経口、胃、消化器、または腸内投与のために使用される実施形態も含めて、製剤が注射または他の非経口投与のために使用されるような実施形態では、本発明の方法において使用される製剤および調製物は無菌である。無菌の医薬製剤は、当業者には公知の医薬等級の殺菌規格に従い混合または製造される(米国薬局方797章、1072章、および1211章; カリフォルニア州企業職業法4127.7; 16、カリフォルニア州法1751、21連邦規則集211)。

【0103】

注射用調製物、例えば、無菌の注射用の水性または油性懸濁剤を、適切な分散剤または湿润剤および懸濁剤を使用して公知の技術により製剤化することができる。無菌の注射用調製物はまた、例えば、プロピレングリコール中の液剤として、非毒性の非経口的に許容される賦形剤または溶媒中の無菌注射液剤または懸濁剤であってよい。許容されるビヒクルおよび溶媒の中でも、利用することができるのは、水、リンガー液、および等張性塩化

10

20

30

40

50

ナトリウム溶液である。加えて、無菌の、不揮発性油が溶媒または懸濁化媒体として慣例的に利用されている。この目的のために、合成モノ- またはジグリセリドを含めた任意の無菌性の不揮発性油を利用してもよい。加えて、オレイン酸などの脂肪酸は、注射用調製物中の使用が見出されている。

【0104】

経口投与のための固体剤形として、カプセル剤、錠剤、丸剤、散剤、および顆粒を挙げることができる。このような固体剤形において、活性化合物は、少なくとも1種の不活性賦形剤、例えば、スクロース、ラクトース、またはデンプンなどと混和することができる。このような剤形はまた、不活性賦形剤以外の追加の物質、例えば、ステアリン酸マグネシウムなどの滑沢剤を含んでもよい。カプセル剤、錠剤、および丸剤の場合、剤形はまた緩衝剤も含み得る。錠剤および丸剤は、腸溶コーティングを用いて追加的に調製することができる。

【0105】

経口投与のための液体剤形は、当技術分野で一般的に使用されている不活性賦形剤、例えば、水などを含有する、薬学的に許容される乳剤、液剤、懸濁剤、シロップ剤、およびエリキシル剤を含むことができる。このような組成物はまた、アジュvant、例えば、湿潤剤、乳化剤および懸濁剤、シクロデキストリン、および甘味剤、香味剤、ならびに芳香剤を含み得る。

【0106】

本発明の化合物はまた、リポソームの形態で投与することができる。当技術分野で公知の通り、リポソームは一般的にリン脂質または他の脂質物質由来のものである。リポソームは、水性媒体中に分散した一重膜または多重膜の水和した液晶により形成される。リポソームを形成することが可能な、任意の無毒性の、生理学的に許容されるおよび代謝可能な脂質を使用することができる。リポソーム形態での本発明の組成物は、本発明の化合物に加えて、安定剤、保存剤、添加剤などを含有することができる。好ましい脂質は、天然と合成の両方の、リン脂質およびホスファチジルコリン(レシチン)である。リポソームを形成する方法は、当技術分野で公知である。例えば、Prescott編、Methods in Cell Biology、XIV巻、Academic Press、New York、N.W.、33頁以下参照、(1976年)を参照されたい。

【0107】

本発明はまた、酸化ストレス障害を処置または抑制するのに有用な物質を含有する製造品およびキットを提供する。本発明はまた、式Iの化合物のいずれか1種または複数を含むキットを提供する。一部の実施形態では、本発明のキットは、上に記載されている容器を含む。

【0108】

他の態様では、このキットは、例えば、ミトコンドリア障害を有する個体を処置すること、または個体内のミトコンドリア障害を抑制することを含めた、本明細書に記載されている方法のいずれかのために使用することができる。

【0109】

担体材料と組み合わせて単回の剤形を生成することができる活性成分の量は、活性成分が投与される宿主および特定の投与モードに応じて異なることになる。しかし、任意の特定の患者に対する特定の用量レベルは、利用する特定の化合物の活性、年齢、体重、身体の領域、ボディマス指数(BMI)、全般的な健康状態、性別、食生活、投与の回数、投与経路、排せつ速度、合剤、ならびに治療を受ける特定の疾患の種類、進行度、および重症度を含めた様々な要素に依存することになることを理解されたい。選ばれた薬学的単位用量は通常、血液、組織、器官、または身体の他のターゲット領域の中で薬物の定義された最終濃度を得られるよう製造され、投与される。与えられた状況に対する治療有効量または有効量は、慣例的試験で容易に求めることができ、普通の臨床医のスキルおよび判断の範囲内である。

【0110】

10

20

30

40

50

使用することができる用量の例は、約 0.1 mg / kg ~ 約 300 mg / kg 体重以内の、または約 1.0 mg / kg ~ 約 100 mg / kg 体重以内の、または約 1.0 mg / kg ~ 約 50 mg / kg 体重以内の、または約 1.0 mg / kg ~ 約 30 mg / kg 体重以内の、または約 1.0 mg / kg ~ 約 10 mg / kg 体重以内の、または約 1.0 mg / kg ~ 約 100 mg / kg 体重以内の、または約 50 mg / kg ~ 約 150 mg / kg 体重以内の、または約 100 mg / kg ~ 約 200 mg / kg 体重以内の、または約 150 mg / kg ~ 約 250 mg / kg 体重以内の、または約 200 mg / kg ~ 約 300 mg / kg 体重以内の、または約 250 mg / kg ~ 約 300 mg / kg 体重以内の用量範囲の治療有効量または有効量である。本発明の化合物は、単回の一日量が投与されてもよいし、または総一日量が毎日 2、3 または 4 回の分割された用量で投与されてもよい。

10

【0111】

本発明の化合物は、唯一活性のある医薬品として投与することができるが、これらの化合物はまた、障害の処置または抑制において使用される 1 種または複数の他の薬剤と組み合わせて使用することもできる。本発明の化合物と組み合わせることで、ミトコンドリア病の処置または抑制に対して有用な代表的薬剤として、これらに限定されないが、補酵素 Q、ビタミン E、イデベノン、MitoQ、ビタミン、NAC、および抗酸化剤化合物が挙げられる。

【0112】

追加の活性物質を本発明の化合物と組み合わせて使用する場合、追加の活性物質は、Physicians' Desk Reference (PDR)、53 版、(1999 年) に示されている治療量、または当業者には公知であるような治療的に有用な量で一般的に利用することができる。

20

【0113】

本発明の化合物および他の治療活性剤は、推奨される最大臨床用量で、またはより低い用量で投与することができる。本発明の組成物中の活性化合物の用量レベルは、投与経路、疾患の重症度および患者の応答に応じて、所望の治療反応を得るために変動させることができる。他の治療剤と組み合わせて投与する場合、治療剤は、同時にまたは異なる時間に与えられる別個の組成物として製剤化することもできるし、または治療剤を単一の組成物として与えることもできる。

30

【0114】

本発明は、以下の非限定的な実施例によりさらに理解されることになる。

本発明の化合物の調製

【0115】

本発明の化合物は、以下の一般的な方法および手順を使用して、容易に入手できる出発物質から調製することができる。典型的または好ましい処理条件（すなわち、反応温度、時間、反応物質のモル比、溶媒、圧力など）が与えられている場合、他に述べられていない限り、他の処理条件も使用することができますことを理解されたい。最適反応条件は、使用する特定の反応物質または溶媒によって異なり得るが、このような条件は、慣例的最適化手順により当業者によって決定することができる。

40

合成反応パラメーター

【0116】

「溶媒」、「不活性有機溶媒」または「不活性溶媒」という用語は、これらと共に記載されている反応条件下で不活性である溶媒を意味する。本発明の化合物の合成に利用されている溶媒として、例えば、メタノール（「MeOH」）、アセトン、水、アセトニトリル、1,4-ジオキサン、ジメチルホルムアミド（「DMF」）、ベンゼン、トルエン、キシレン、テトラヒドロフラン（「THF」）、クロロホルム、塩化メチレン（またはジクロロメタン、（「DCM」））、ジエチルエーテル、ピリジンなど、およびこれらの混合物が挙げられる。反対の意味であると特定されていない限り、本発明の反応に使用される溶媒は、不活性有機溶媒である。

50

【0117】

「q.s.（適量）」という用語は、規定の機能を達成するのに十分な量を添加すること、例えば、溶液を所望の容量（すなわち、100%）にすることを意味する。

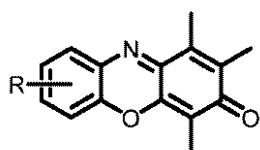
【0118】

本明細書中の化合物は、一般的に周知の合成法の適切な組合せにより合成される。本明細書中の化合物を合成するのに有用な技法は、本明細書に記載されている教示を考慮すれば、当業者にとって容易に明らかでもあり、容易に利用できる。以下の考察は、本明細書中の化合物の構築に使用するために利用可能な多様な方法のいくつかを例示するために提供されている。しかし、この考察は、本明細書中の化合物を調製するのに有用である反応または反応順序の範囲を定義することを意図していない。

【0119】

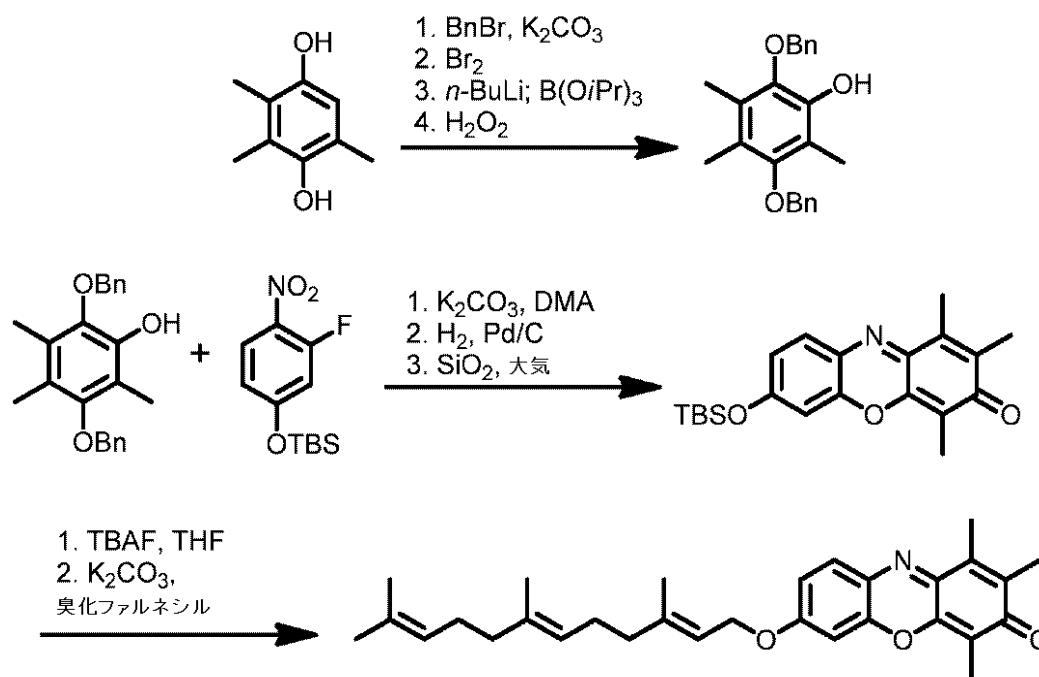
一般式：

【化76】



の化合物の合成の非限定的な、例示的な例は以下の通りである：

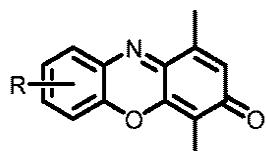
【化77】



【0120】

一般式：

【化78】



の化合物の合成の非限定的な、例示的な例は以下の通りである：

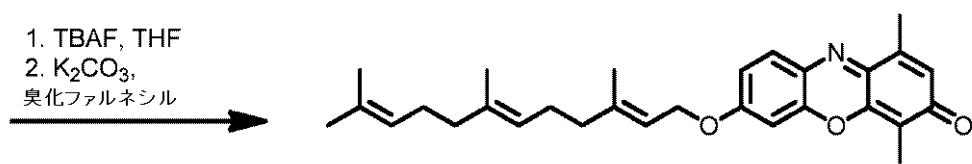
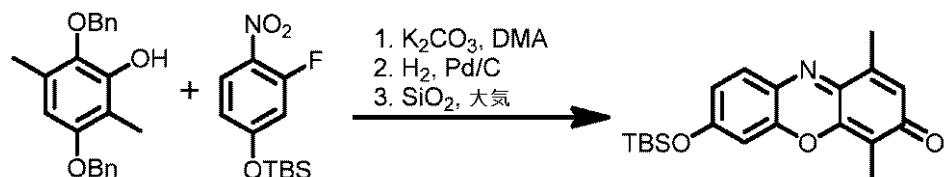
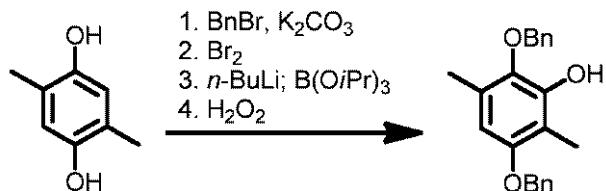
10

20

30

40

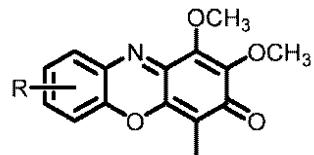
【化79】



【0121】

一般式：

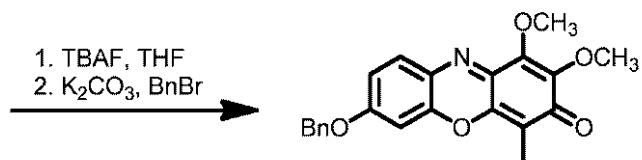
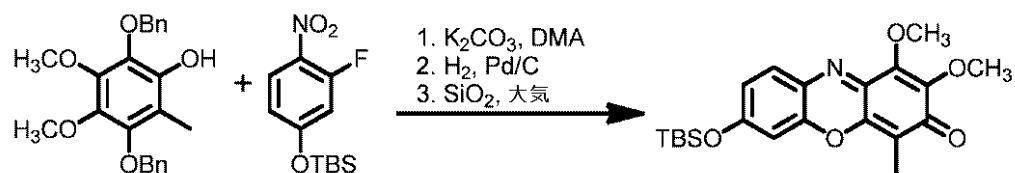
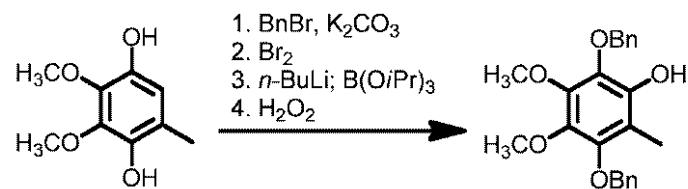
【化80】



の化合物の合成の非限定的な、例示的な例は以下の通りである：

【化81】

30

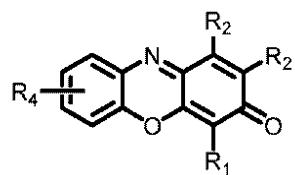


【0122】

一般式：

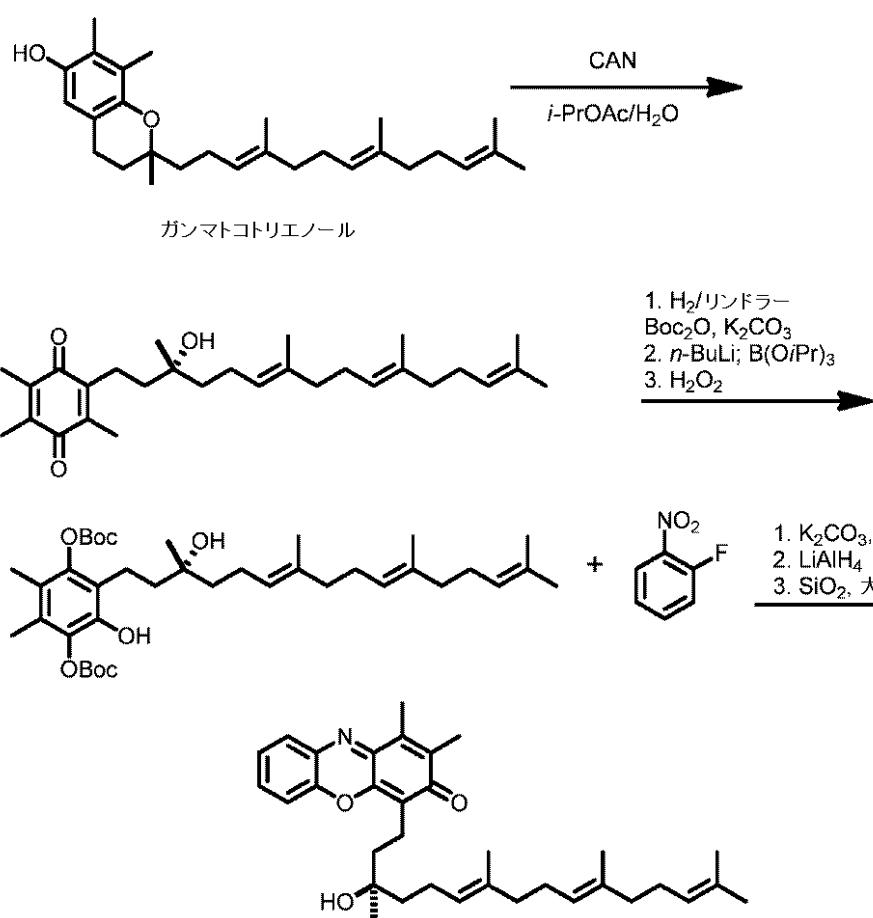
50

【化82】



の化合物の合成の非限定的な、例示的な例は以下の通りである：

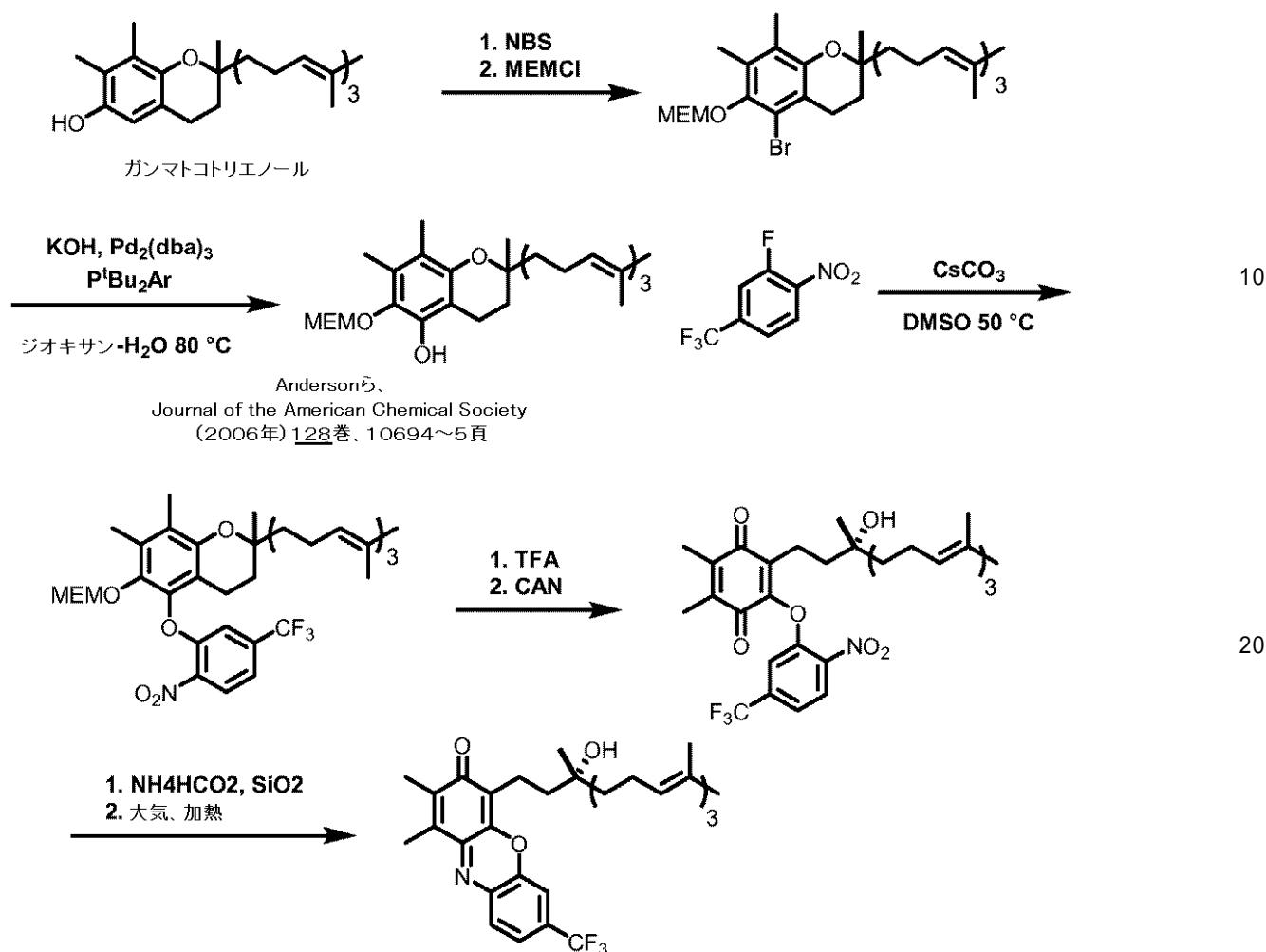
【化83】



【0123】

本発明のある特定の化合物の合成の非限定的な例示的な例は以下の通りである：

【化 8 4】



【0 1 2 4】

30

他の本発明の他の化合物に対する合成法は、上の例示的な例および以下の例を考慮すると当業者には明らかである。

【実施例】

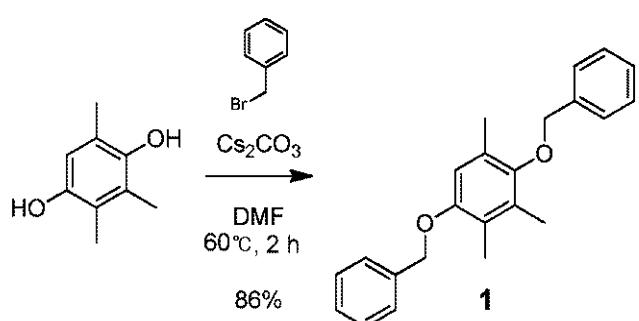
【0 1 2 5】

(実施例 A)

メチル 1 , 2 , 4 - トリメチル - 3 - オキソ - 3 H - フェノキサジン - 7 - カルボキシレートの合成

【化 8 5】

40



ステップ 1 : 1 , 4 - ビス (ベンジルオキシ) - 2 , 3 , 5 - トリメチルベンゼン (1)

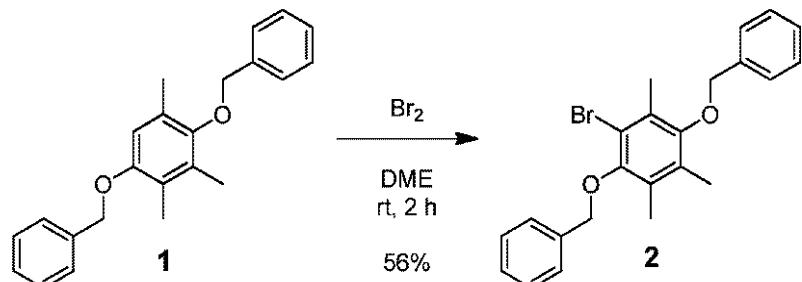
。

50

【0126】

15.32 g [101 mmole] の 2,3,5 - トリメチルヒドロキノンを秤量して、攪拌棒、セプタム、および窒素入口を備えた1000 mL 丸底フラスコに入れた。窒素雰囲気を確立し、これを維持した。100 mL の無水DMEを添加し、これを攪拌して、透明な淡褐色の溶液を得た。溶液を窒素で10分間スパージした。103.23 g [317 mmole] の炭酸セシウムを添加した。混合物が暗色になった。36 mL [300 mmole] の臭化ベンジルを添加した。白色の固体を懸濁して、混合物が淡黄色となった。窒素下、60°で2時間攪拌した。LC-MS分析は、所望の生成物を主要の構成要素として有し、出発物質の消費が完了したことを示した。反応混合物を2000 mL の水に注入した。懸濁した塊の黒色固体を攪拌し、攪拌しながら90°に温めた。固体を約75°に溶融した。混合物を室温まで冷却させた。淡褐色固体を濾過で収集し、水で洗浄した。固体を500 mL のMTBE中に溶解し、200 mL の1.0 M 水性水酸化ナトリウム、200 mL の水、および200 mL のブラインで洗浄した。Na₂SO₄で脱水し、ロータバップ上で溶媒を除去して、38.23 g の高粘度の暗琥珀色の油を得た。400 mL の高温のMeOHから生成物を結晶化した。濃い紫色の油の小さな水滴を除いて、すべての油が溶解するまで加熱し、これらの油をピペットで除去した。溶液に種結晶をまき、室温まで冷却させておいた。結晶性の固体が形成された。一晩5°に冷却した。結晶性の固体を濾過で収集し、冷たいMeOHで洗浄した。結晶を乾燥させて、オフホワイト色の固体として、28.74 g [86.5 mmole] の表題化合物(1)を得た。収率86%。

【化86】



ステップ2：2 - ブロモ - 1 , 4 - ビス (ベンジルオキシ) - 3 , 5 , 6 - トリメチルベンゼン (2)。

【0127】

13.90 g [41.8 mmole] の 1 , 4 - ビス (ベンジルオキシ) - 2 , 3 , 5 - トリメチルベンゼン (1)を秤量して、攪拌棒およびセプタムを備えた1000 mL 丸底フラスコに入れた。200 mL の無水1,2 - ジメトキシエタンを添加し、攪拌することによって、透明な黄色の溶液を得た。2.3 mL [4.5 mmole] の臭素を60分間にわたりシリングポンプで添加した。室温で2時間攪拌した。LC-MS分析は、所望の生成物を主要の構成要素として有し、出発物質の消費が完了したことを示した。200 mL の1.0 M チオ硫酸ナトリウムを用いて反応混合物をクエンチした。沈殿物が形成された。50°で15分間攪拌した。反応混合物が約10分後に黒色になった。混合物を、400 mL、次いで200 mL の、50°に温めた25% MTBE / ヘプタンで抽出した。合わせて抽出物を、2×250 mL の50°の水および250 mL のブラインで洗浄した。抽出物を保温して有機層からの生成物の結晶化を阻止した。ブラインで洗浄後、有機相を乾燥させなかった。ロータバップ上の溶媒を除去して14.17 g の淡褐色固体を得た。粗材料を200 mL のCH₂Cl₂に溶解し、45のシリカゲル上で乾燥させた。粉末をISCO(商標)固体試料カートリッジに充填し、3:1ヘプタン:CH₂Cl₂定組成溶出を有する385 g のSupelco Versapak(商標)シリカゲルカラムを用いたクロマトグラフィーにかけた。純粋な画分をプールし、溶媒を除去することによって、白色の固体として、5.82 g の生成物を得た。混合画分をプールし、2:1ヘプ

10

20

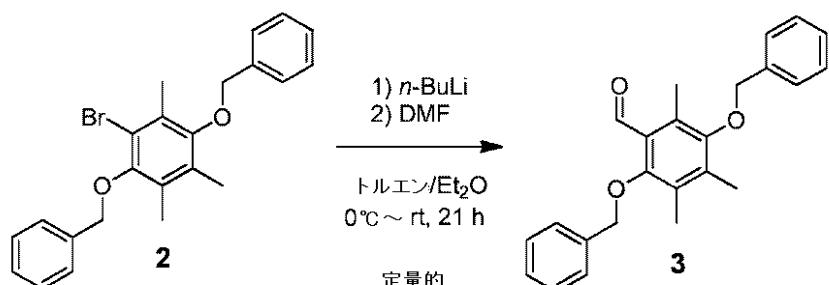
30

40

50

タン : C H₂ Cl₂ 定組成溶出を使用してシリカゲル上でクロマトグラフィーにかけることによって、白色の固体として、3.81 g の追加の生成物を得た。表題化合物(2)の総重量は 9.63 g [23.4 mmole] であった。収率 56%。

【化 8 7】

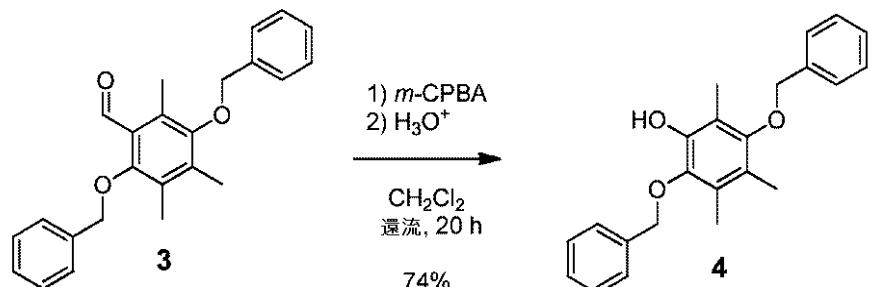


ステップ 3 : 2,5 - ビス (ベンジルオキシ) - 3,4,6 - トリメチルベンズアルデヒド (3)。

【0128】

5.67 g [13.8 mmole] の 2 - ブロモ - 1,4 - ビス (ベンジルオキシ) - 3,5,6 - トリメチルベンゼン (2) を秤量して、攪拌棒、セプタム、および窒素バブラーを備えた、オープン乾燥した 500 mL 丸底フラスコに入れた。窒素雰囲気を確立し、これを維持した。100 mL の無水 Et₂O および 100 mL の無水トルエンを添加した。すべての固体が溶解して透明無色の溶液になるまでこれを攪拌し、35°に温めた。反応物を氷 / 水浴槽内で 30 分間冷却した。少量の飛散性の白色固体が溶液から沈殿した。シリングポンプを使用して、9.1 mL [15 mmole] の n - プチルリチウム 1.6 M 溶液を 10 分間にわたり滴下添加した。すべての固体を溶解することによって、透明な薄黄色の溶液を得た。氷浴内で 10 分間攪拌した。3.2 mL [41 mmole] の無水ジメチルホルムアミドを添加した。室温で 21 時間攪拌した。100 mL の飽和水性酢酸アンモニウムでクエンチした。100 mL の水および 100 mL の EtOAc を添加した。相を分離し、100 mL の EtOAc で水相を抽出した。合わせた有機抽出物を 2 × 100 mL の水、100 mL のブラインで洗浄し、Na₂SO₄ で脱水した。ロータバッブ上の溶媒を除去することによって、白色の固体として 4.99 g [13.8 mmole] の表題化合物 (3) を得た。粗材料はさらに精製しなかった。定量的収率。

【化 8 8】



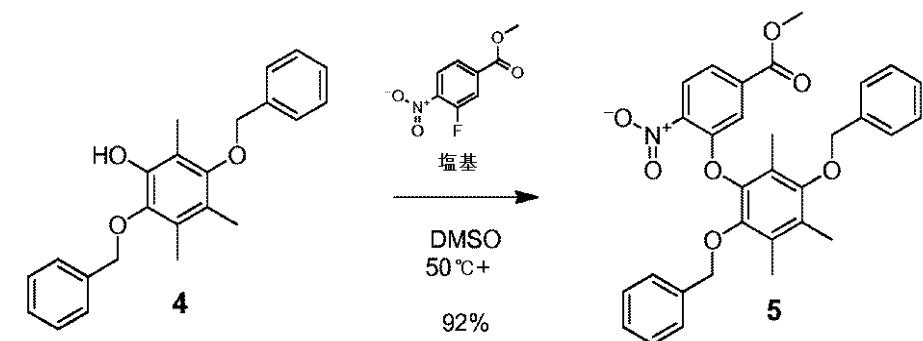
ステップ 4 : 2,5 - ビス (ベンジルオキシ) - 3,4,6 - トリメチルフェノール (4)。

【0129】

3.42 g [9.49 mmole] 2,5 - ビス (ベンジルオキシ) - 3,4,6 - トリメチルベンズアルデヒド (3) および 4.51 g [20 mmole] の 3 - クロロ過安息香酸 [77% 最大純度として標識] を秤量して、攪拌棒、還流冷却器、および窒素の入口を備えた 250 mL 丸底フラスコに入れた。150 mL の CH₂Cl₂ を添加した。窒素下で 20 時間還流させた。LC - MS 分析は出発物質が残存しないことを示した。反応

混合物を分液ロートに注入し、100mLの10%の水性NaHSO₃、3×100mLの0.5Mの水性NaHCO₃、100mLの1.0MのpH5.5リン酸緩衝液、および100mLのブラインで洗浄した。Na₂SO₄で脱水し、ロータバップ上で溶媒を除去することによって、オフホワイト色の固体として、3.59gの中間体ホルメートエステルを得た。100mLのMeOH、5mLの水、および1mLの濃塩酸を、エステルを含有するフラスコに添加した。固体は溶解しなかった。20mLのTHFを添加し、すべての固体が溶解するまで穏やかに温めた。溶液を室温で一晩攪拌した。LC-MS分析は、中間体ホルメートの生成物フェノールへの変換が完了したことを示した。3gの固体NaHCO₃を添加し、一晩攪拌した。反応液の色が一晩で黄色から紫色に変化した。固体を濾別し、溶媒を濾液から除去した。残基を100mLのEtOAc中に溶解し、50mLの1.0M pH5.5リン酸緩衝液で洗浄した。溶液の色が紫色から黄色に変化した。50mLのブラインで洗浄し、Na₂SO₄で脱水した。ロータバップ上の溶媒を除去することによって、3.25gのオレンジ色の油を得、これを静置で固化することによって、結晶性のオレンジ色の固体を得た。固体を18mLの1:2ヘプタン:CH₂Cl₂に溶解し、12カラム容量に対して勾配溶出0-100%CH₂Cl₂/ヘプタンを使用する330gのSupelco VersaPak(商標)シリカゲルカラム上でクロマトグラフィーにかけることによって、結晶性の黄色の固体として、2.46g[7.06mmole]の表題化合物(4)を得た。収率74%。

【化89】

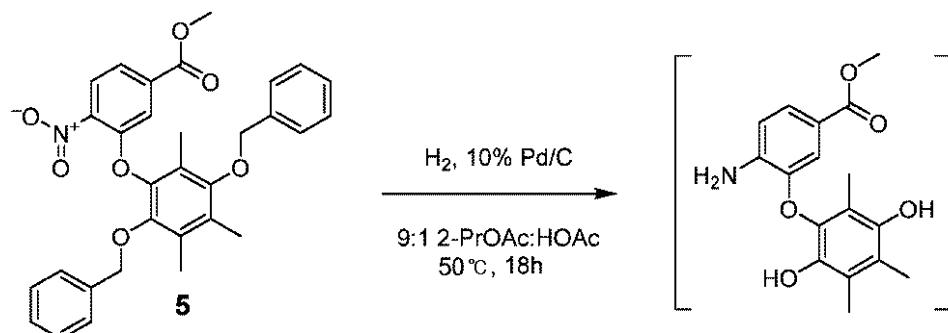


ステップ5：メチル3-(2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4,6-トリメチルフェノキシ)-4-ニトロベンゾエート(5)。

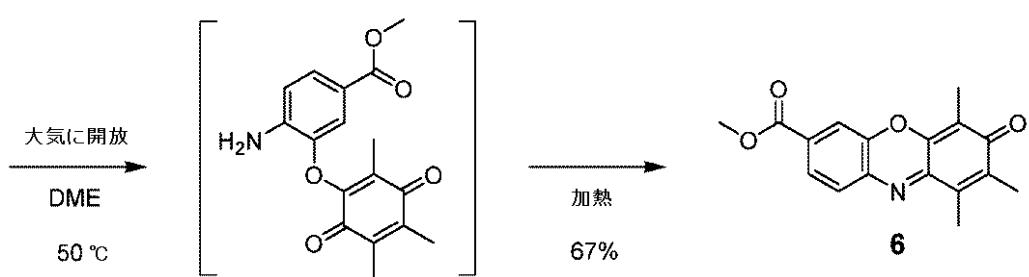
【0130】

1.40g[4.02mmole]の2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4,6-トリメチルフェノール(4)および1.58g[4.85mmole]の炭酸セシウムを秤量して、攪拌棒およびキャップを備えた40mLの反応バイアルに入れた。10mLのジメチルスルホキシドを添加し、20分間攪拌した。いくらかの白色の固体が暗色の溶液中に残存した。1.04g[5.22mmole]のメチル3-フルオロ-4-ニトロベンゼンカルボキシレートを添加し、50°で攪拌した。約15分後に混合物が固化した。最初の溶液中に観察された少量の白色の固体を除いて、すべての固体が溶解するまで熱線銃で加熱した。50°に冷却すると、固体が沈殿した。20分でのLC-MS分析は、反応が完了したことを示した。100mLのCH₂Cl₂と100mLの水との間で反応混合物を分配した。有機相を100mLの水、100mLのブラインで洗浄し、Na₂SO₄で脱水した。ロータバップ上の溶媒を除去することによって、2.31gの黄色の固体を得た。固体を15mLのCH₂Cl₂に溶解し、13カラム容量に対してCH₂Cl₂/ヘプタンの0-100%勾配で溶出する100g Supelco VersaPak(商標)シリカゲルカラム上でクロマトグラフィーにより精製することによって、オフホワイト色の固体として、1.95g[3.70mmole]の表題化合物(5)を得た。収率92%。

【化90】



10



20

ステップ6：メチル1,2,4-トリメチル-3-オキソ-3H-フェノキサジン-7-カルボキシレート(6)。

【0131】

266 mg [0.504 mmole] のメチル3-(2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4,6-トリメチルフェノキシ)-4-ニトロベンゾエート(5)を秤量して、攪拌棒およびセプタムキャップを備えた20 mL反応バイアルに入れた。5 mLの9:1 i-PrOAc:HOAcを添加した。混合物を窒素で2分間スパージした。22 mgの10重量%パラジウム担持炭素を添加した。バイアルを窒素でバージし、セプタムキャップで密閉した。水素で満たされたバルーンを使用して、反応混合物上に水素雰囲気を確立し、これを維持した。50°で24時間攪拌した。LC-MSによる分析は脱保護および還元の完了を示した。10 mLの2-メトキシエチルエーテルを添加し、反応混合物を大気に18時間開放して、50°で攪拌した。LC-MS分析は約10%の環化を示した。1.0 mLのHOAcを添加し、反応混合物を大気に4時間開放して110°で攪拌した。LC-MS分析は約20%の環化を示した。反応混合物を1時間大気に開放して、150°で攪拌した。LC-MS分析は環化が完了したことを示した。溶媒の大部分が蒸発した。10 mLのCH₂Cl₂を添加し、0.2 μM PTFEシリングジフィルターを介して濾過し、反応バイアルおよびフィルターを2×5 mLのCH₂Cl₂で洗浄することによって、触媒を除去した。濾液を15 mLの0.5 Mの水性NaHCO₃および15 mLの水で洗浄した。オレンジ色の溶液をNa₂SO₄上で脱水し、ロータバップ上で溶媒を除去した。粗製のオレンジ色の固体をCH₂Cl₂に溶解し、乾燥した23 gのSupelco Versapak(商標)シリカゲルカラム上に注入した。窒素流を用いてカラムから溶媒を除去した。CH₂Cl₂でカラムを溶出した。画分をプールすることによって、オレンジ色の固体として、101 mg [0.340 mmole] の表題化合物(6)を得た。収率67%。

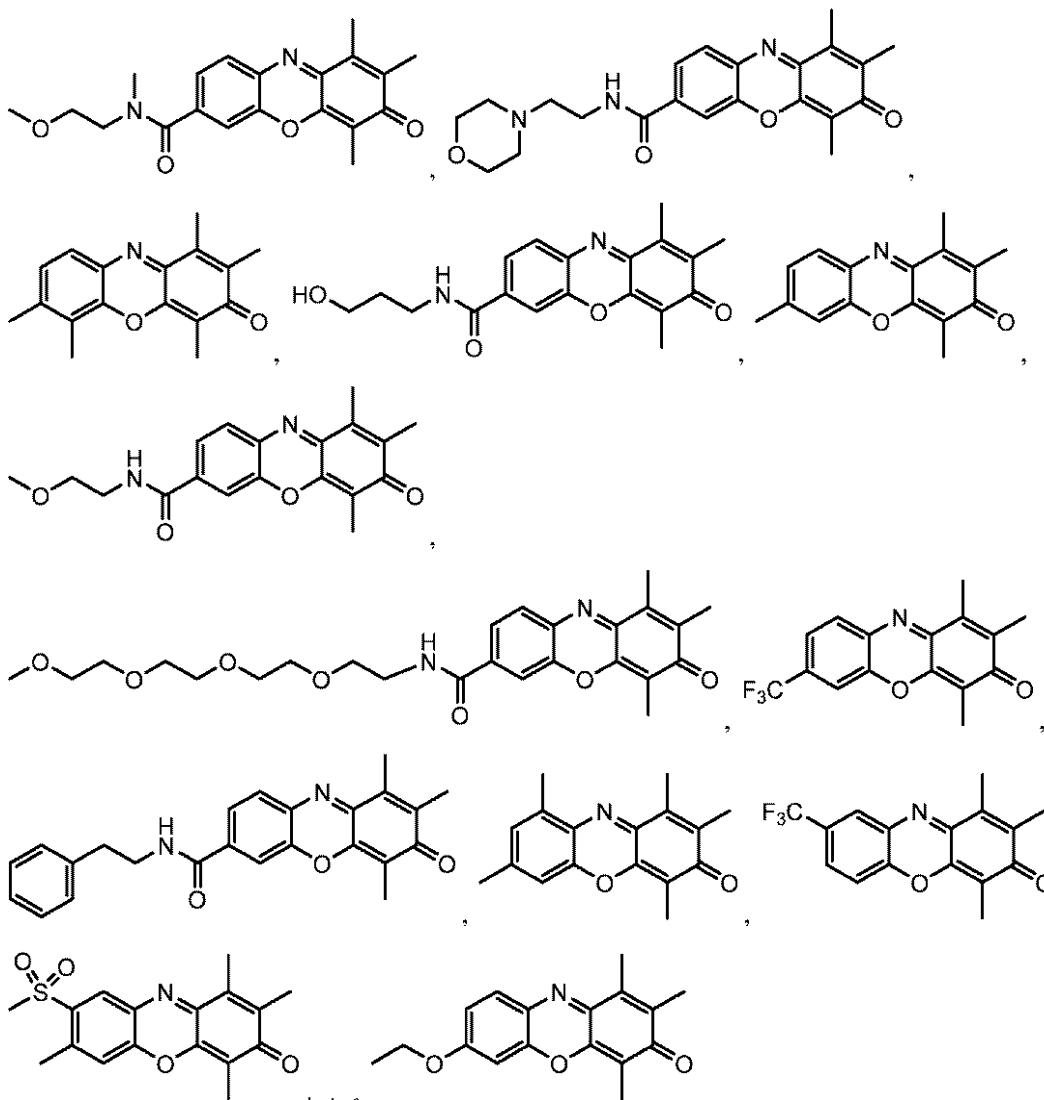
30

40

【0132】

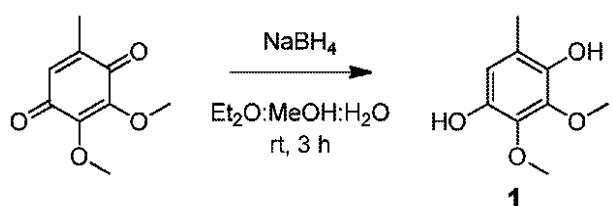
以下の化合物を類似の方式で合成した：

【化 9 1】



(実施例B) 2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシ-6-メチルフェノールの合成

【化 9 2】



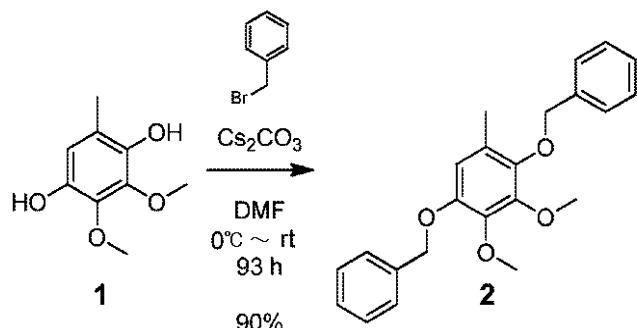
2, 3-ジメトキシ-5-メチルベンゼン-1, 4-ジオール(1).

[0 1 3 3]

5.29 g [14.0 mmol e] の水素化ホウ素ナトリウムを秤量して、滴下ロートおよび攪拌棒を備えた500 mL 丸底フラスコに入れた。150 mL の水を添加した。75 mL の Et₂O および 35 mL の MeOH の混合物中に溶解した、5.03 g [27.6 mmol e] の 2,3-ジメトキシ-5-メチル-p-ベンゾキノンを滴下ロートへ充填した。反応フラスコ内で攪拌棒の作動を開始し、周囲条件下で 90 分間にわたり、キノンの赤色の溶液を滴下添加した。赤色の小滴が反応混合物に入ると色が黄色に変化し、ガス発生と共に軽度の発熱が生じた。添加が完了した後、2つの相の黄色の溶液を室温で 3 時間攪拌した。濃縮 HCl で反応物を約 pH 2 にクエンチした。反応混合物を 3 × 150 mL

L の M T B E で抽出した。合わせた有機相を 150 mL の 1.0 M pH 5.5 リン酸緩衝液、150 mL のブラインで洗浄し、MgSO₄ で脱水した。50 mL のヘプタンを添加して、低沸点溶媒および水を取り除き、ロータバップ上で溶媒を 50 °/10 Torr で除去することによって、琥珀色の油として 5.43 g の粗生成物(1)を得た。さらなる精製なしでこの粗材料を使用した。

【化93】

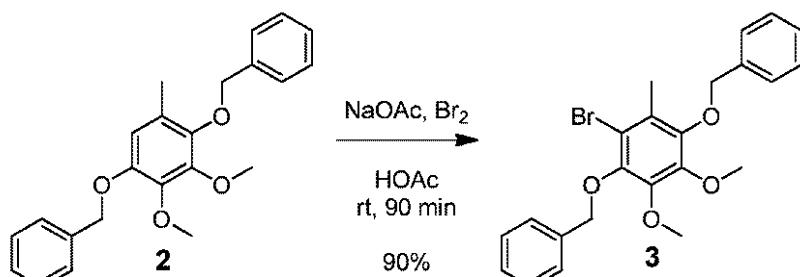


2,5 - ピス (ベンジルオキシ) - 3,4 - ジメトキシトルエン (2)。

【0134】

粗製の 2,3 - ジメトキシ - 5 - メチルベンゼン - 1,4 - ジオール (1) [計算量 27.6 mmol] および 28.9 g [88.7 mmole] の炭酸セシウムのすべてを、攪拌棒、セブタム、および窒素入口を備えた 250 mL 丸底フラスコに充填した。窒素雰囲気を確立し、これを維持した。80 mL の無水 DMF を添加した。8.2 mL [71.5 mmole] の臭化ベンジルを添加した。窒素下、室温で、反応混合物を週末にかけて攪拌した [93 時間]。300 mL の水と 300 mL の M T B E との間で反応混合物を分配した。有機相を 2 × 300 mL の水、150 mL のブラインで洗浄し、MgSO₄ で脱水した。ロータバップ上で溶媒を除去することによって、11.09 g の黄色の油を得た。油を 30 mL の CH₂Cl₂ で希釈し、7 カラム容量に対して 0.40% EtOAc / ヘプタン勾配で溶出する 330 g の Isco RediSep (商標) シリカゲルカラム上でのクロマトグラフィーにより精製することによって、透明無色の油として、9.05 g [24.8 mmole] の表題化合物 (2)を得た。2ステップにわたる収率 90%。

【化94】



2 - ブロモ - 3 , 6 - ピス (ベンジルオキシ) - 4 , 5 - ジメトキシトルエン (3)。

【0135】

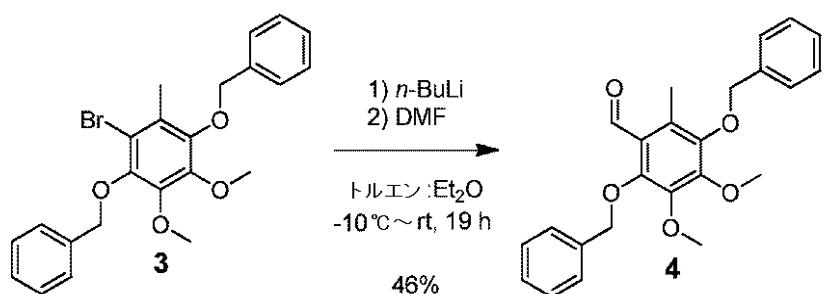
8.53 g [23.4 mmole] の 2,5 - ジベンジルオキシ - 3,4 - ジメトキシトルエン (2) を秤量して、攪拌棒および滴下ロートを備えた 500 mL 丸底フラスコに入れた。100 mL の酢酸および 3.32 g [40.5 mmole] の酢酸ナトリウムを添加した。すべての固体が溶解するまで超音波処理した。溶液を室温で素早く攪拌し、40 mL の酢酸中に溶解した、4.92 g [30.8 mmole] の臭素溶液に、10 分間にわたり滴下添加した。反応物を室温で 90 分間攪拌した。固体を濾過で除去した。ロータバップ上で濾液から溶媒を除去した。250 mL の M T B E と 100 mL の 1.0 M 塩

40

50

酸との間で残基を分配した。相を分離し、有機相を 100 mL の水、100 mL の 0.5 M の水性 NaHCO₃ および 100 mL のブラインで洗浄した。MgSO₄ で脱水し、ロータバップ上で溶媒を除去することによって、琥珀色の油を得、これを静置して固化した。固体を CH₂Cl₂ 中で溶解し、10 カラム容量に対して 100% CH₂Cl₂ / ヘプタン勾配を使用する 330 g の Isco RediSep (商標) シリカゲルカラム上でクロマトグラフィーにかけることによって、透明な薄黄色の油として 9.34 g [21.1 mmole] の表題化合物 (3) を得、これを静置で結晶化することによって、白色の固体を得た。収率 90%。

【化 9 5】



2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシ-6-メチルベンズアルデヒド (4)。

20

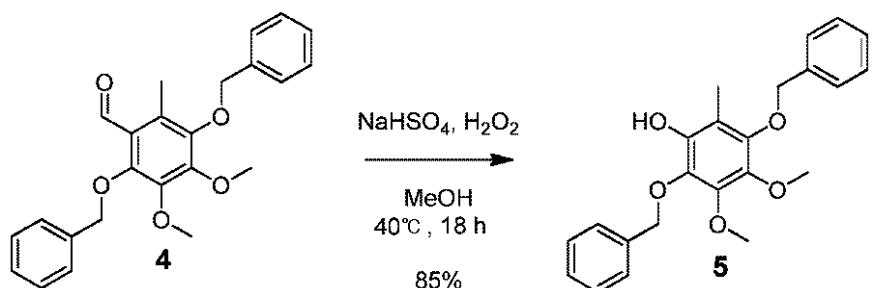
【0136】

4.44 g [10.0 mmole] の 2-ブロモ-3,6-ビス(ベンジルオキシ)-4,5-ジメトキシ-トルエン (3) を秤量して、攪拌棒、セプタム、および窒素バブラーを備えた、オープン乾燥した 500 mL 丸底フラスコに入れた。窒素雰囲気を確立し、これを維持した。100 mL の無水 Et₂O を添加し、攪拌することによって、透明無色の溶液を得た。100 mL の無水トルエンを添加した。反応物を、アセトン / 水の氷浴内で 30 分間 -10° に冷却した。シリングポンプを使用して、n-ブチルリチウムのヘキサン中 1.6 M 溶液 (6.8 mL) を 7 分間にわたり滴下添加した。-10° で 2 分間攪拌した。溶液が臭素の暗い赤色になった。4.0 mL の無水 N,N-ジメチルホルムアミドを添加した。溶液が透明な黄色になった。約 5 分後、溶液は緑がかかった色合いを生み出し、この緑がかかった色合いはゆっくりと消失して、中黄色の溶液を生じた。一晩 [19 時間] 攪拌することで、氷浴が融解し、反応物が室温まで温まった。100 mL の飽和水性 NH₄OAc でクエンチした。100 mL の水および 100 mL の Et₂OAc を添加した。相を分離し、水相を 100 mL の Et₂OAc で抽出した。合わせた有機抽出物を 2 × 100 mL の水、100 mL のブラインで洗浄し、Na₂SO₄ で脱水した。ロータバップ上の溶媒を除去することによって、3.89 g の琥珀色の固体を得た。10 カラム容量に対して 100% CH₂Cl₂ / ヘプタンの線型勾配で溶出する 330 g の Isco RediSep (商標) シリカゲルカラム上でクロマトグラフィーにより精製することによって、2.55 g のオフホワイト色の固体を得た。¹H-NMR は、この材料は 71 モル% の表題化合物 (4) および 29 モル% の 2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシトルエンを含有することを示した。この混合物をさらなる精製なしで使用した。46% 収率 (不純物に対して修正)。

30

40

【化96】



10

2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシ-6-メチルフェノール(5)。

【0137】

1.97 g [3.56 mmole] の 2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシ-6-メチルベンズアルデヒド(4、71%純度)および0.585 g [4.87 mmole] の硫酸水素ナトリウムを秤量して、攪拌棒およびキャップを備えた250 mL丸底フラスコに入れた。50 mLのメタノールを添加し、40°で攪拌した。濁った無色の溶液は、溶解されていないいくらかの白色の固体を含んだ。5.0 mL [20 mmole] の30重量%の過酸化水素を添加した。混合物を40°で一晩[18時間]攪拌した。50 mLの水を添加し、ロータバップ上でメタノールを除去した。残存する水性混合物を3×50 mLのCH₂Cl₂で抽出した。合わせた有機相を2×50 mLの水、50 mLのブラインで洗浄し、Na₂SO₄で脱水した。ロータバップ上で溶媒を除去することによって、1.93 g の琥珀色の油を得た。油をCH₂Cl₂で希釈し、5カラム容量に対して0.10% EtOAc/ヘプタンの勾配で溶出する100 gのSupelco Versapak(商標)シリカゲルカラム上でのクロマトグラフィーにより精製し、これに続いて、5カラム容量の10%EtOAc/ヘプタンで溶出して、無色透明の樹脂として1.28 gの表題化合物(5)を得た。¹H-NMRは、この材料は過去の反応物から引き継がれた10モル%の2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシトルエン不純物を含有することを示した。収率85%(不純物に対して修正)。

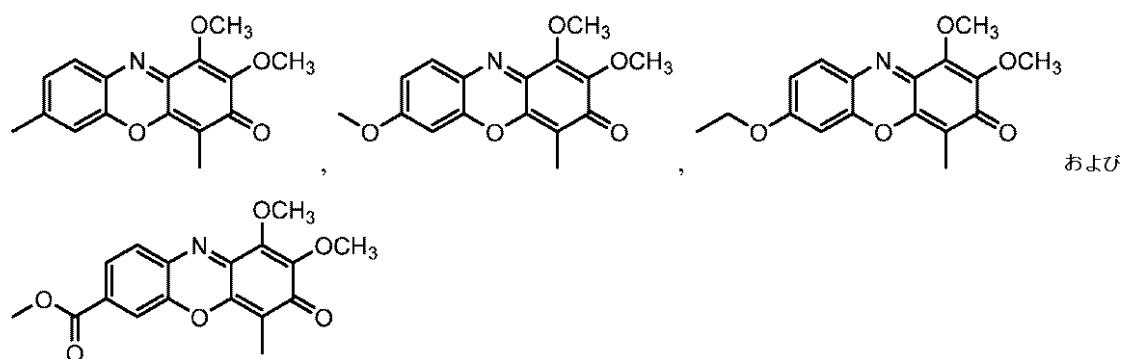
20

【0138】

中間体化合物2,5-ビス(ベンジルオキシ)-3,4-ジメトキシ-6-メチルフェノール(5)から、実施例Aにおいて上に記載されているようなステップ5~6と類似のステップを利用して、以下の化合物を類似の方式で作製した:

30

【化97】



40

(実施例1)

フリー-ドライヒ運動失調症患者由来のヒト表皮線維芽細胞における本発明の化合物のスクリーニング

【0139】

最初のスクリーニングを実施して、レドックス障害の回復に対して有効な化合物を同定

50

した。試験試料、4種の対照化合物（イデベノン、デシリュビキノン、トロロックスおよびトコフェロール）、および溶媒対照を、Jauslinら、Hum. Mol. Genet.、11巻（24号）：3055頁（2002年）、Jauslinら、FAS EBJ.、17巻：1972～4頁（2003年）、および国際特許出願WO2004/003565に記載されているように、L-ブチオニン-（S,R）-スルホキシミン（BSO）の添加によりストレスをかけられたFRDA線維芽細胞を救済するこれらの能力について試験した。フリードライヒ運動失調症患者由来のヒト表皮線維芽細胞は、L-ブチオニン-（S,R）-スルホキシミン（BSO）（グルタチオン（GSH）合成酵素の特定の阻害剤）による、GSHの新規合成の阻害に過敏であることが示されている（Jauslinら、Hum. Mol. Genet.、11巻（24号）：3055頁（2002年））。この特定のBSO媒介性細胞死は、抗酸化剤経路に関する抗酸化剤または分子、例えばトコフェロール、セレン、または小分子グルタチオンペルオキシダーゼ模倣剤などの投与により阻止することができる。しかし、抗酸化剤はこれらの効力、すなわち、これらが、BSOによってストレスをかけられたFRDA線維芽細胞を救済できる濃度が異なる。

10

【0140】

MEM（アミノ酸およびビタミンを豊富に含む媒体、カタログ番号1-31F24-I）およびEarle's Balanced Saltを有するが、フェノールレッドを有さない媒体199（M199、カタログ番号1-21F22-I）をBioconceptから購入した。Fetal Calf SerumをPAA Laboratoriesから得た。塩基性線維芽細胞成長因子および上皮成長因子をPeptechから購入した。ペニシリン-ストレプトマイシン-グルタミンミックス、L-ブチオニン（S,R）-スルホキシミン、（+）-トコフェロール、デシリュビキノン、およびウシ臍臓由来のインスリンをSigmaから購入した。トロロックス（6-ヒドロキシ-2,5,7,8-テトラメチルクロマン-2-カルボン酸）をFlukaから入手した。イデベノンをChemo Ibericaから入手した。Calcein AMをAnaspecから購入した。125mlのM199 EBS、50mlのFetal Calf Serum、100U/mlのペニシリン、100マイクログラム/mlのストレプトマイシン、2mMのグルタミン、10マイクログラム/mlのインスリン、10ng/mlのEGF、および10ng/mlのbFGFを合わせることによって、細胞培養物培地を作製した。MEM EBSを添加して、容量を500mlまでにした。444mgのBSOを200mlの培地（Invitrogen、Carlsbad、Ca.）に溶解することによって、10mMのBSO溶液を調製し、これに続いて濾過殺菌した。実験の過程において、この溶液を+4で保存した。細胞をCoriell Cell Repositories（Camden、NJ；貯蔵番号GM04078）から得て、10cmの組織培養物プレート内で増殖させた。3日ごとに、これらを1:3比で分割した。

20

30

【0141】

試験試料は、1.5mlガラスバイアル内に供給された。化合物をDMSO、エタノールまたはPBSで希釈すると、5mM保存液が生じた。溶解させてから、これらを-20で保存した。対照の抗酸化剤（イデベノン、デシリュビキノン、トコフェロールおよびトロロックス）をDMSOに溶解した。

40

【0142】

以下のプロトコルに従い試験試料をスクリーニングした：

【0143】

FRDA線維芽細胞を含む培養物は、およそ500,000個の細胞が液体窒素に保存されている1mlバイアルから始まった。3日おきに1:3の比で分割することによって、細胞を10cm細胞培養物シャーレ内に広げ、9個のプレートが使用可能となるまでこれを続けた。コンフルエントになったら、線維芽細胞を収集した。54マイクロタイヤープレート（96ウェル-MTP）に対して、全部で1430万個の細胞（8継代）を480ml培地内に再懸濁させ、これは、3,000細胞/ウェルを有する100マイクロリ

50

ツトルの培地に相当した。残りの細胞は、増殖のため、10cm細胞培養物プレート(500,000細胞/プレート)に分配した。プレートを、湿度95%および5%CO₂の雰囲気で、37℃で終夜インキュベートすることによって、細胞の培養物プレートへの結合を可能にした。

【0144】

10%DMSO(242.5マイクロリットル)をマイクロタイタープレートのウェルに添加した。試験化合物は未凍結であり、7.5マイクロリットルの5mM保存液を、242.5マイクロリットルの10%DMSOを含有するウェルに溶解すると、150マイクロモルのマスター溶液が生じた。マスター溶液からの段階希釈を作製した。1つの希釈ステップ間の期間はできるだけ短くした(全般的に30秒未満)。次いで、MTPへの結合の少なくとも4時間後、細胞を様々な化合物の希釈物で処置した。

【0145】

プレートを細胞培養物インキュベーター内に終夜保存した。翌日、10マイクロリットルの10mMのBSO溶液をウェルに添加すると、1mMの最終BSO濃度になった。48時間後、位相差顕微鏡下で3つのプレートを検査して、陰性対照(ウェルE1~H1)における細胞は明らかに死んでいたことを検証した。すべてのプレートから培地を廃棄し、ペーパータオルの上でさかさまにしたプレートを軽くたたくことによって、残りの液体を除去した。カルシウムおよびマグネシウムを含有する100μLのPBSでプレートを2回洗浄した。

【0146】

次いで、1.2マイクロモルのCalcein AMを含有する100マイクロリットルのPBS+Ca+Mgを各ウェルに添加した。プレートを37℃で30分間インキュベートした。その後、蛍光(それぞれ、485nmおよび525nmの励起/発光波長)をGemini蛍光リーダーで読み取った。データをMicrosoft Excel(Excelは、表計算プログラムに対するMicrosoft社の登録商標)に取り込み、ExcelFitを使用して、各化合物に対するEC50濃度を計算した。

【0147】

化合物を3回試験した。すなわち、実験を3回実施し、細胞の継代番号は毎回繰返す毎に1つ增加了。

【0148】

溶媒(DMSO、エタノール、PBS)は、BSO処置していない細胞の生存率に有害な影響も与えなければ、BSO処置した線維芽細胞に対しても有利な影響も与えることはなく、試験した最も高い濃度(1%)においても影響はなかった。自家蛍光を示した化合物はなかった。BSO処置していない線維芽細胞の生存率を100%に設定し、この値に対してBSO処理および化合物処理した細胞の生存率を計算した。

【0149】

以下の表は、4種の対照化合物に対するEC50を要約している。

【表A】

化合物	EC50 [μM]				
	値1	値2	値3	平均	標準偏差
デシルユビキノン	0.05	0.035	0.03	0.038	0.010
αトコフェロール	0.4	0.15	0.35	0.30	0.13
イデベノン	1.5	1	1	1.2	0.3
トロロックス	9	9	8	8.7	0.6

【0150】

以下の表は、本発明のある特定の化合物に対するEC50を要約している。化合物番号1~5、14、16、および18(以下の表において番号付けされた通り)はSigmaから購入した。

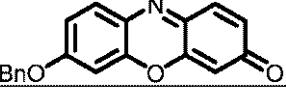
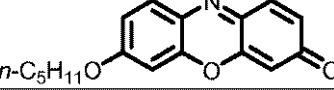
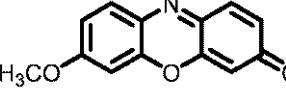
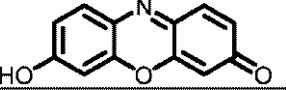
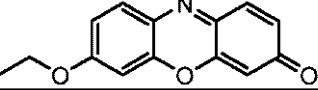
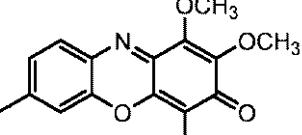
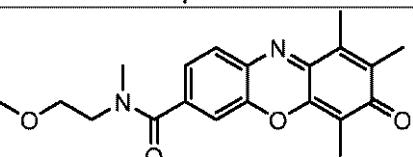
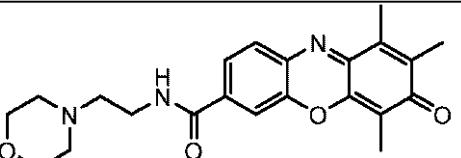
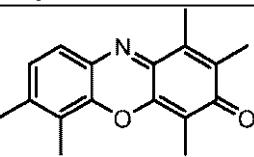
10

20

30

40

【表 B - 1】

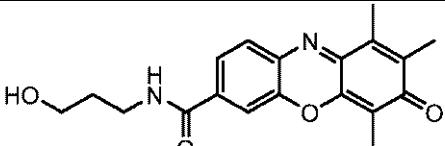
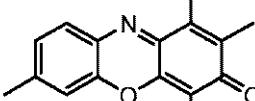
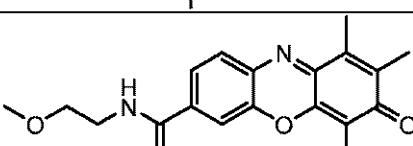
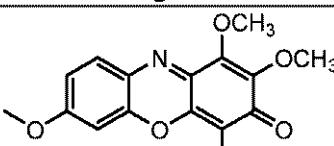
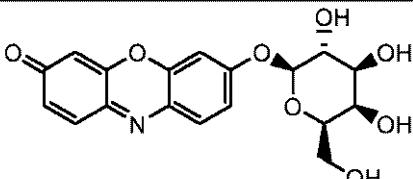
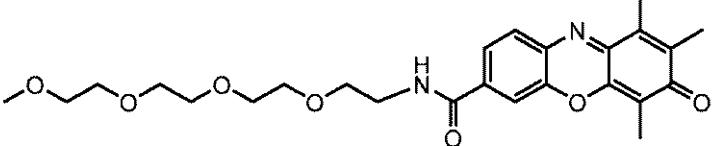
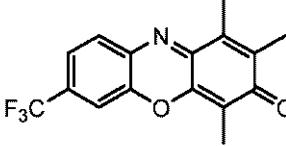
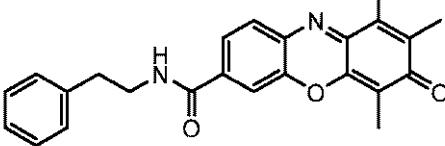
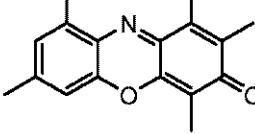
化合物番号	化合物	EC50 [μM]	
		平均	標準偏差
1		0.001	0.0002
2		0.002	0.002
3		0.001	0.00004
4		0.084	0.010
5		0.0008	0.0001
6		0.002	0.0001
7		0.002	0.0001
8		0.003	0.0003
9		0.004	0.001

10

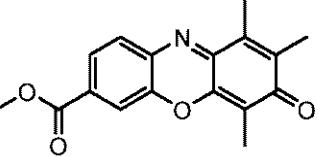
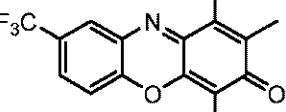
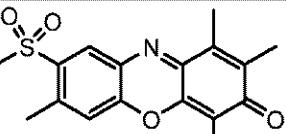
20

30

【表 B - 2】

10		0.005	0.001	
11		0.005	0.001	10
12		0.006	0.002	
13		0.012	0.001	
14		0.016	0.001	20
15		0.017	0.0004	
17		0.023	0.001	30
19		0.025	0.001	
20		0.026	0.003	40

【表 B - 3】

21		0.050	0.002	
22		0.054	0.001	10
23		0.234	0.045	

(実施例 2)

ハンチントン病患者由来の線維芽細胞における本発明の化合物のスクリーニング

【0151】

実施例 1 に記載されているものと同様のスクリーニングを使用して、ただし、F R D A 細胞を、Coriell Cell Repositories (Camden, NJ; 貯蔵番号 GM04281) から得たハンチントン病細胞に置換して、本発明の化合物を試験した。ハンチントン病患者由来のヒト皮膚の線維芽細胞を酸化ストレスから救済するこれらの能力について化合物を試験した。

(実施例 3)

レーベル遺伝性視神経萎縮症患者由来の線維芽細胞における本発明の化合物スクリーニング

【0152】

実施例 1 に記載されているものと同様のスクリーニングを使用して、ただし、F R D A 細胞を Coriell Cell Repositories (Camden, NJ; 貯蔵番号 GM03858) から得たレーベル遺伝性視神経萎縮症 (LHON) 細胞に置き換えて、本発明の化合物を試験した。LHON 患者由来のヒト表皮線維芽細胞を酸化ストレスから救済するその能力について化合物を試験した。

(実施例 4)

パーキンソン病患者由来の線維芽細胞における本発明の化合物のスクリーニング

【0153】

実施例 1 に記載されているものと同様のスクリーニングを使用して、ただし、F R D A 細胞を Coriell Cell Repositories (Camden, NJ; 貯蔵番号 AG20439) から得たパーキンソン病 (PD) 細胞と置き換えて、本発明の化合物を試験した。パーキンソン病患者由来のヒト表皮の線維芽細胞を酸化ストレスから救済するその能力について化合物を試験した。

(実施例 5)

CoQ10 不足の患者由来の線維芽細胞における本発明の化合物のスクリーニング

【0154】

実施例 1 に記載されているものと同様のスクリーニングを使用して、ただし、F R D A 細胞を、CoQ2 突然変異体を持つ CoQ10 不足の患者から得た細胞と置き換えて、本発明の化合物を試験した。CoQ10 不足の患者由来のヒト表皮線維芽細胞を酸化ストレスから救済するこれらの能力について化合物を試験した。

(実施例 6)

患者からの線維芽細胞における本発明の化合物のスクリーニング

【0155】

10

20

30

40

50

実施例 1 に記載されているものと同様のスクリーニングを使用して、ただし、F R D A 細胞を、本明細書に記載されている酸化ストレス障害（例えばM E R R F、M E L A S、リー病、K S S、アルツハイマー病、A L S、広汎性発達障害（例えば、自閉症、レット症候群）、脳卒中）を有する患者から得た細胞と置き換えて、本発明の化合物を試験した。これらの患者由来のヒト表皮線維芽細胞を酸化ストレスから救済するこれらの能力について、化合物を試験した。

（実施例 7）

本発明の化合物の投与

【0 1 5 6】

本発明の化合物は、薬学的に許容される担体中に 3 0 0 m g の化合物を含有するカプセル剤で提示される。カプセル剤は、1 日 1 回、好ましくは朝食または昼食中に経口的に服用する。極めて幼い小児の場合、カプセル剤を破壊し、その内容物を食品と混合する。

10

【0 1 5 7】

引用を特定することによって本明細書で言及されたすべての公開、特許、特許出願および公開特許出願の開示が、ここに、これらの全体において本明細書に参照により組み込まれる。

20

【0 1 5 8】

前述の発明は、理解しやすいように、例示および実施例として、一部詳細に記載されているが、特定の些細な変更および修正が実施されることは当業者に明らかである。したがって、記載および実施例は、本発明の範囲を限定するものと解釈されるべきではない。

20

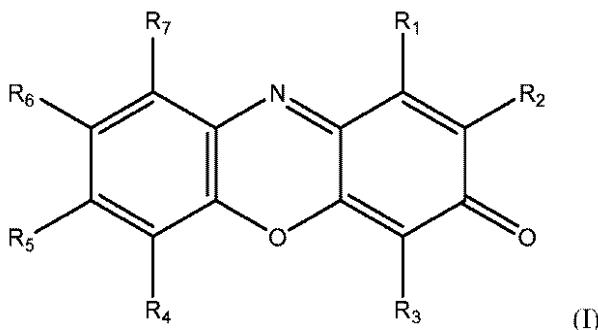
【0 1 5 9】

本発明の非限定的な実施形態として以下が挙げられる：

【0 1 6 0】

1. 式 (I) の化合物：

【化 9 8】



30

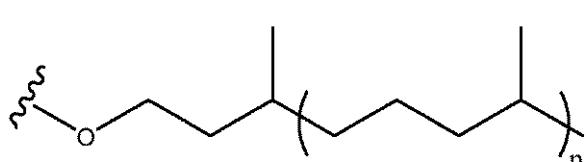
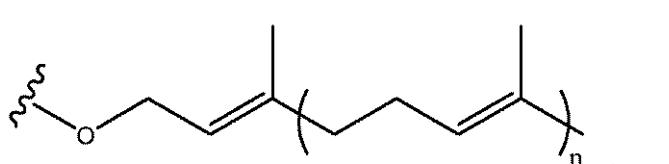
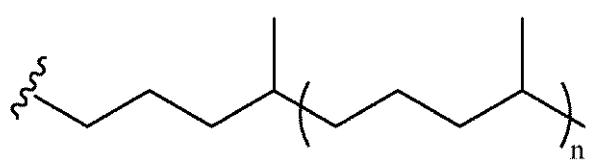
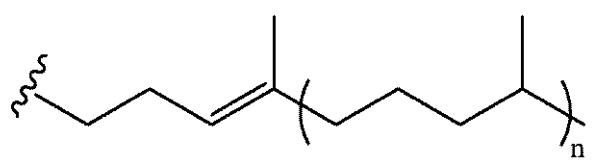
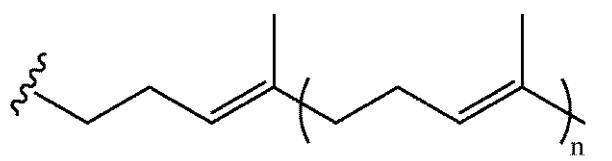
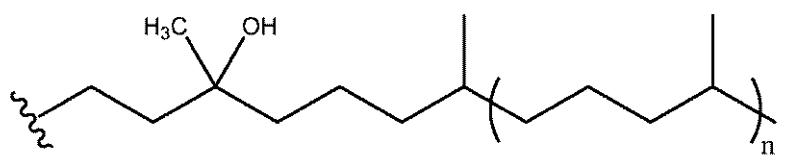
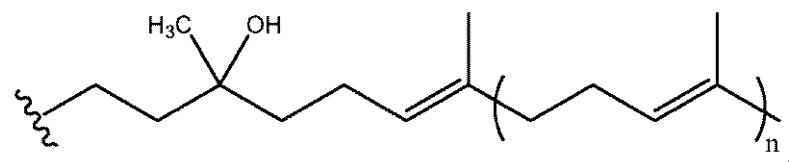
[式中、

R₁ および R₂ は、独立して、- H、- C₁ ~ C₄ アルキル、- O - C₁ ~ C₄ アルキル、および - C₁ ~ C₄ ハロアルキルからなる群から選択され、R₃ は、- H、- C₁ ~ C₁₂ アルキル、- O - C₁ ~ C₁₂ アルキル、および - C₁ ~ C₁₂ ハロアルキルからなる群から選択されるか、または

40

R₁ および R₂ は両方とも - C H₃ であるか、もしくは R₁ および R₂ は両方とも - O C H₃ であり、R₃ は、

【化 9 9】



(nは0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、

R₄、R₅、R₆、およびR₇は、独立して、-H、-OH、-C₁~C₁₂アルキル、-C₂~C₁₂アルケニル、-C₁~C₁₂ハロアルキル、-O-C₁~C₁₂アルキル、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C₆~C₁₀アリール、-O-C₆~C₁₀アリール、-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-O-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、-C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、

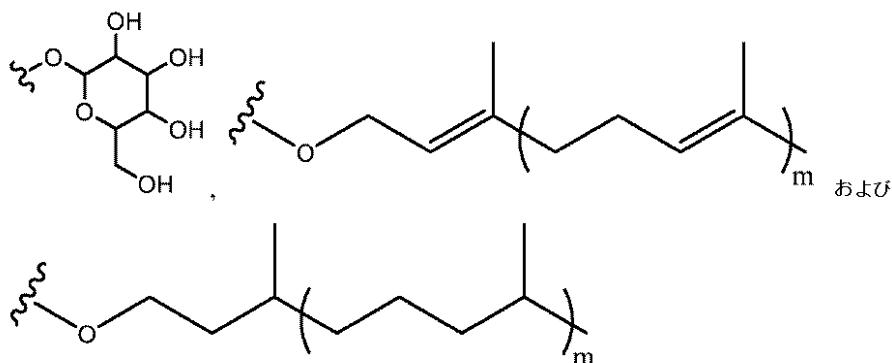
10

20

30

40

【化100】



10

20

30

40

からなる群から選択され、ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択され、

R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、

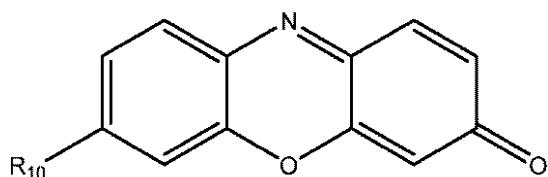
R₁₃は-Hまたは-C₁～C₄アルキルであり、

R₁₄は、ヒドロキシ、-O-C₁～C₄、ヘテロシクリル、アリール、もしくはヘテロアリールで任意選択で置換されている-C₁～C₁₂アルキルであるか、またはR₁₄は-C₁～C₁₅アルキルであり、該アルキル基中の炭素の2個もしくはそれ超は酸素で置き換えられており、

mは、0、1、2、または3である】

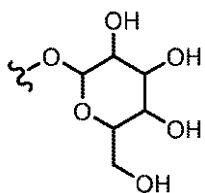
またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩であって、ただし、

【化101】



(式中、R₁₀は、-H、-OH、-O-アルキル、-O-ベンジル、-O-C(O)-アルキル、-O-C(O)-アリール、または

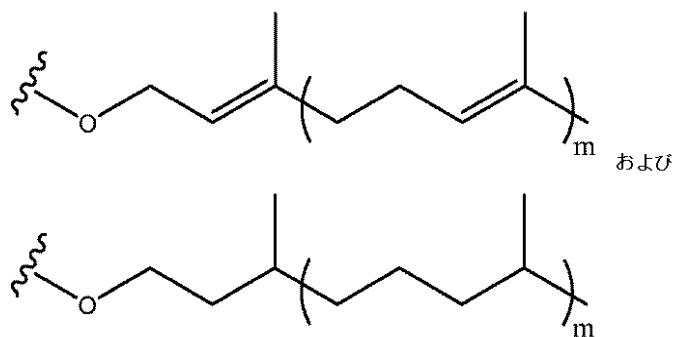
【化102】



である)でも、その立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩でもない化合物。

2.R₄、R₅、R₆、およびR₇が、独立して、-H、-C₁～C₁₂アルキル、-C₂～C₁₂アルケニル、-C₁～C₁₂ハロアルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₁₂ハロアルキル、-C₆～C₁₀アリール、-O-C₆～C₁₀アリール、-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-O-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、

【化103】



10

からなる群から選択され、ただし、R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも2つが、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択される、実施形態1に記載の化合物。

【0161】

3. R₁、R₂、およびR₃の1つが-Hではない、実施形態1または2に記載の化合物。

【0162】

4. R₁、R₂、およびR₃の2つが-Hではない、実施形態1または2に記載の化合物。

【0163】

5. R₁、R₂、およびR₃が-Hではない、実施形態1または2に記載の化合物。

【0164】

6. R₁、R₂、およびR₃の1つが-CH₃である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0165】

7. R₁、R₂、およびR₃の2つが-CH₃である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0166】

8. R₁、R₂、およびR₃が-CH₃である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0167】

9. R₁、R₂、およびR₃の2つが-CH₃であり、R₁、R₂、およびR₃の1つが-Hである、実施形態1または2に記載の化合物。

【0168】

10. R₁およびR₃が-CH₃であり、R₂が-Hである、実施形態1または2に記載の化合物。

【0169】

11. R₁およびR₂が-CH₃である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0170】

12. R₁およびR₂が-OCH₃である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0171】

13. R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が-CH₃である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0172】

14. R₁およびR₂が-CH₃であり、R₃が-n-C₁~C₁₂アルキルである、実施形態1または2に記載の化合物。

【0173】

15. R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が-n-C₁~C₁₂アルキルである、実施形態1または2に記載の化合物。

【0174】

16. R₁およびR₂が-CH₃であり、R₃が、

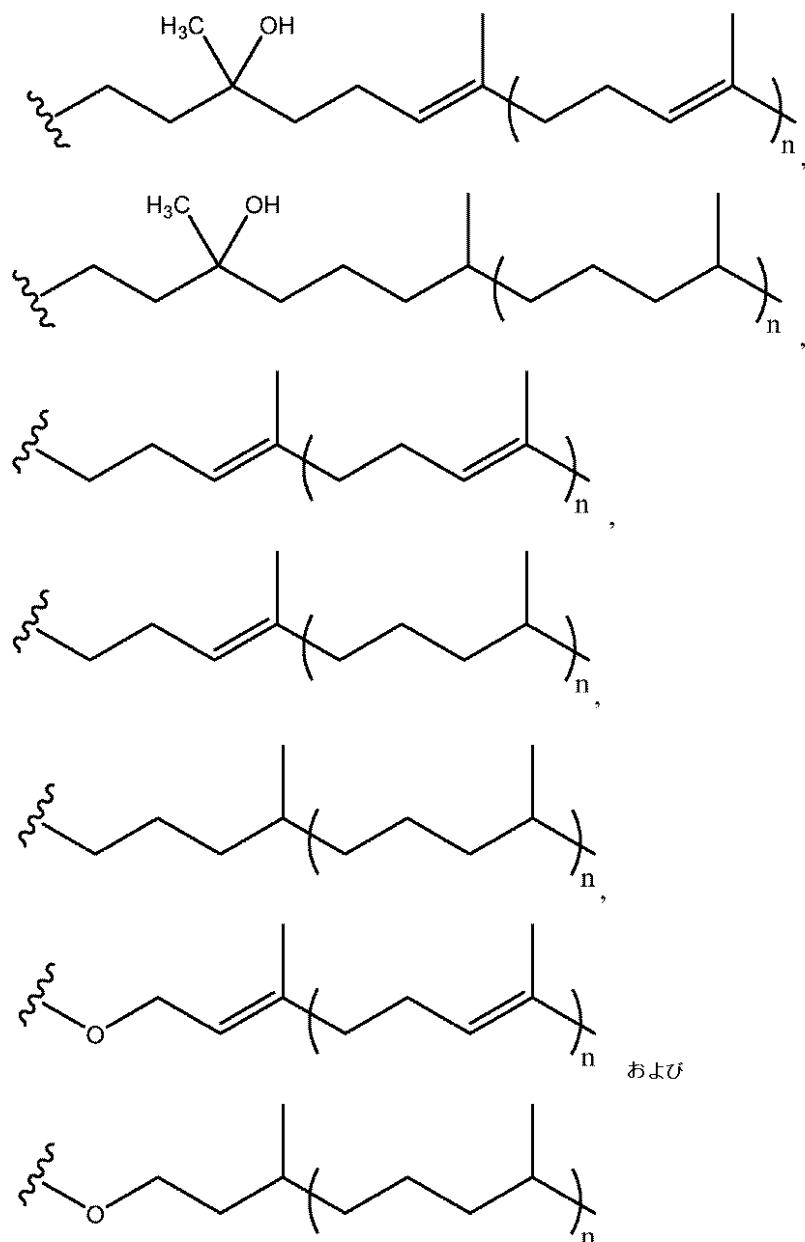
20

30

40

50

【化104】

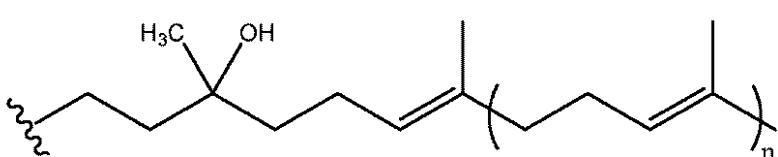


からなる群から選択される、実施形態1または2に記載の化合物。

【0175】

17. R_1 および R_2 が $-CH_3$ であり、 R_3 が、

【化105】



である、実施形態1または2に記載の化合物。

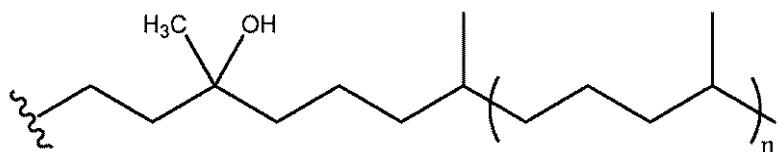
【0176】

18. n が2である、実施形態17に記載の化合物。

【0177】

19. R_1 および R_2 が $-CH_3$ であり、 R_3 が、

【化106】



である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0178】

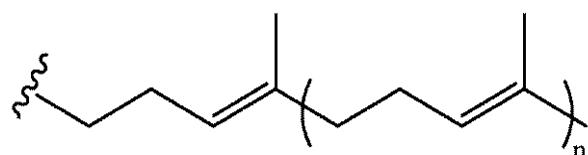
20. n が2である、実施形態19に記載の化合物。

【0179】

21. R_1 および R_2 が $-\text{C}_2\text{H}_5$ であり、 R_3 が

10

【化107】



である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0180】

22. n が1である、実施形態21に記載の化合物。

20

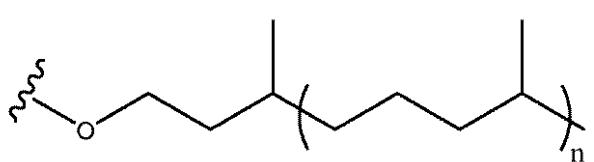
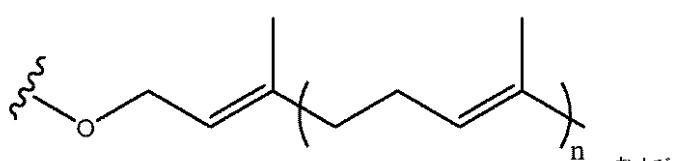
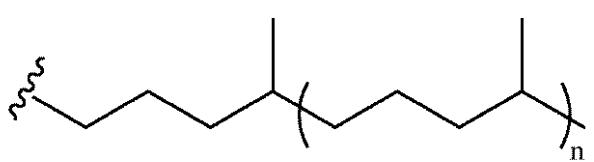
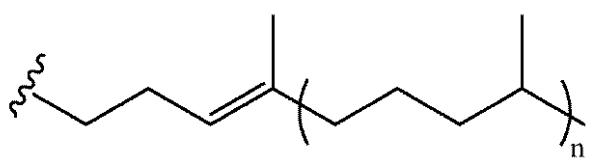
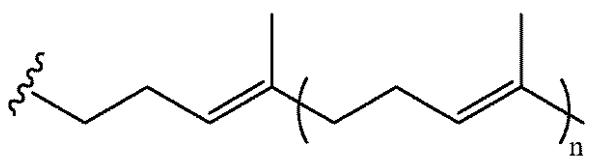
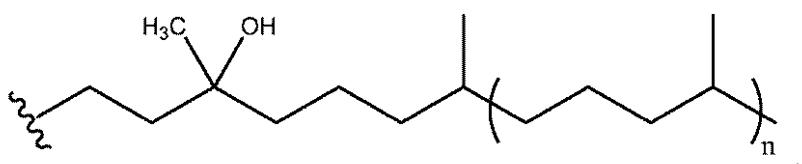
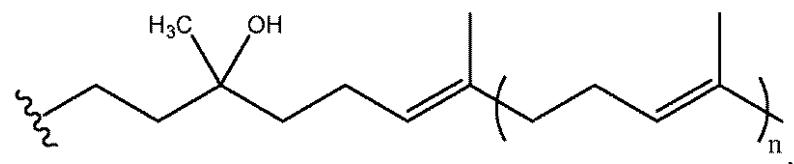
【0181】

23. n が2である、実施形態21に記載の化合物。

【0182】

24. R_1 および R_2 が $-\text{OC}_2\text{H}_5$ であり、 R_3 が

【化108】

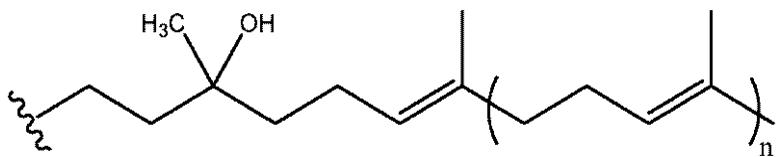


からなる群から選択される、実施形態1または2に記載の化合物。

【0183】

25. R_1 および R_2 が $-OCH_3$ であり、 R_3 が、

【化109】



である、実施形態1または2に記載の化合物。

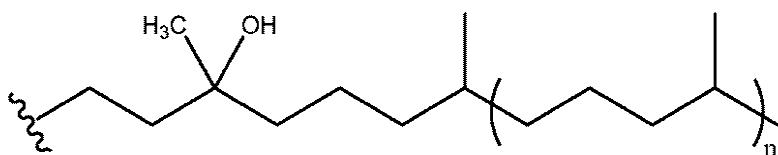
【0184】

26. n が2である、実施形態25に記載の化合物。

【0185】

27. R_1 および R_2 が $-OCH_3$ であり、 R_3 が、

【化110】



である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0186】

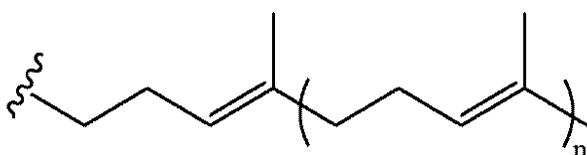
28. nが2である、実施形態27に記載の化合物。

【0187】

29. R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が、

10

【化111】



である、実施形態1または2に記載の化合物。

【0188】

30. nが1である、実施形態29に記載の化合物。

20

【0189】

31. nが2である、実施形態29に記載の化合物。

【0190】

32. R₁およびR₂が、独立して、-Hまたは-C₁～C₄アルキルである、実施形態1または2に記載の化合物。

【0191】

33. R₁、R₂、およびR₃が-Hである、実施形態1または2に記載の化合物。

【0192】

34. R₄、R₅、R₆、およびR₇の2つが-Hである、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

30

【0193】

35. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hである、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

【0194】

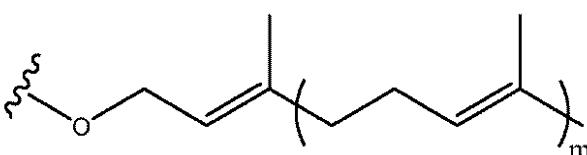
36. R₄、R₅、R₆、およびR₇が-Hである、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

【0195】

37. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが、独立して、-C₁～C₁₂アルキル、-C₁～C₁₂ハロアルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、および

40

【化112】



からなる群から選択される、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

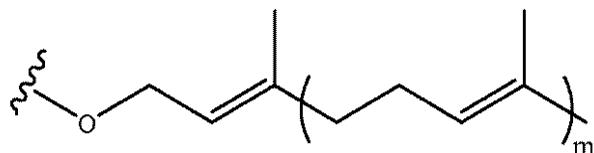
【0196】

38. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが、独立して、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N-(R₈)(R₉)（式中、R₈およびR₉は、

50

独立して、-H または -C₁ ~ C₄ アルキルである)、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化113】



(式中、mは1または2である)からなる群から選択される、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

10

【0197】

39. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-N(CH₃)₂である、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

【0198】

40. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-O-ベンジルである、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

【0199】

41. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-O-CH₃である、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

20

【0200】

42. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-O-n-C₂~C₅アルキルである、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

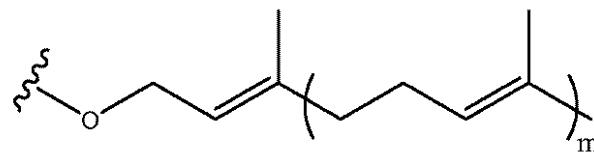
【0201】

43. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-CF₃である、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

【0202】

44. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が、

【化114】



(式中、mは1または2である)である、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

30

【0203】

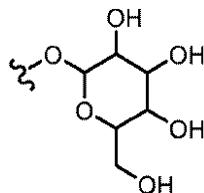
45. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-CH₃である、実施形態1から33のいずれか1つに記載の化合物。

【0204】

46. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが、-OH、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、および

40

【化115】



からなる群から選択される、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

50

【0205】

47. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが-OHである、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

【0206】

48. R₄、R₅、R₆、およびR₇の1つが、-O-C(O)-C₁~C_{1~2}アルキル、-C(O)-O-C₁~C_{1~2}アルキル、または-S(O)₂-C₁~C_{1~2}アルキルである、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

【0207】

49. R₄、R₅、R₆、およびR₇の1つが-C(O)-N(R_{1~3})(R_{1~4})である、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。 10

【0208】

50. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが-C_{1~2}ハロアルキルである、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

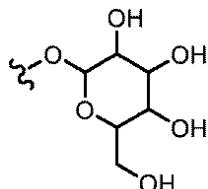
【0209】

51. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが-C_{1~2}アルキルである、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

【0210】

52. R₄、R₅、R₆、およびR₇の1つが、

【化116】



である、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

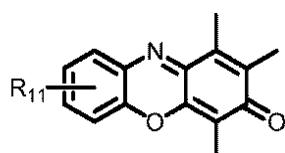
【0211】

53. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが-O-C_{1~2}アルキルである、実施形態1から35のいずれか1つに記載の化合物。

【0212】

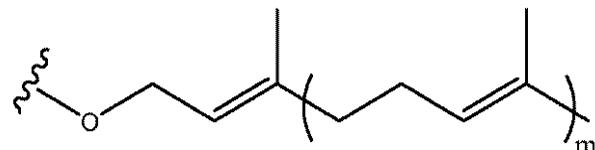
54. 式：

【化117】



[式中、R_{1~1}は、-C_{1~2}アルキル、-O-C_{1~2}アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化118】



(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態1に記載の化合物。 40

【0213】

55. 式：

10

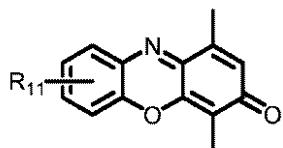
20

30

40

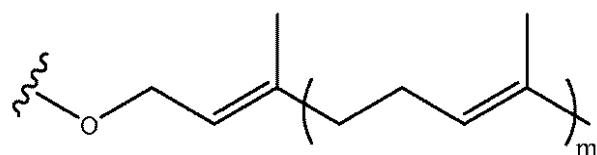
50

【化119】



[式中、R₁₁は、-C₁~C₆アルキル、-O-C₁~C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化120】



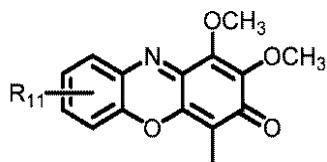
10

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態1に記載の化合物。

【0214】

56.式:

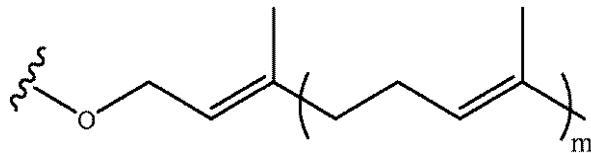
【化121】



20

[式中、R₁₁は、-C₁~C₆アルキル、-O-C₁~C₆アルキル、-N(CH₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化122】



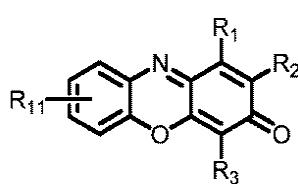
30

(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態1に記載の化合物。

【0215】

57.式:

【化123】

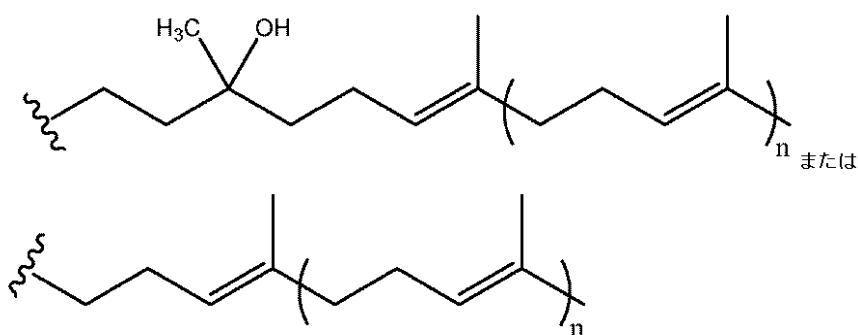


40

[式中、R₁およびR₂は-CH₃であるか、またはR₁およびR₂は-OCH₃であり

、R₃は、

【化124】

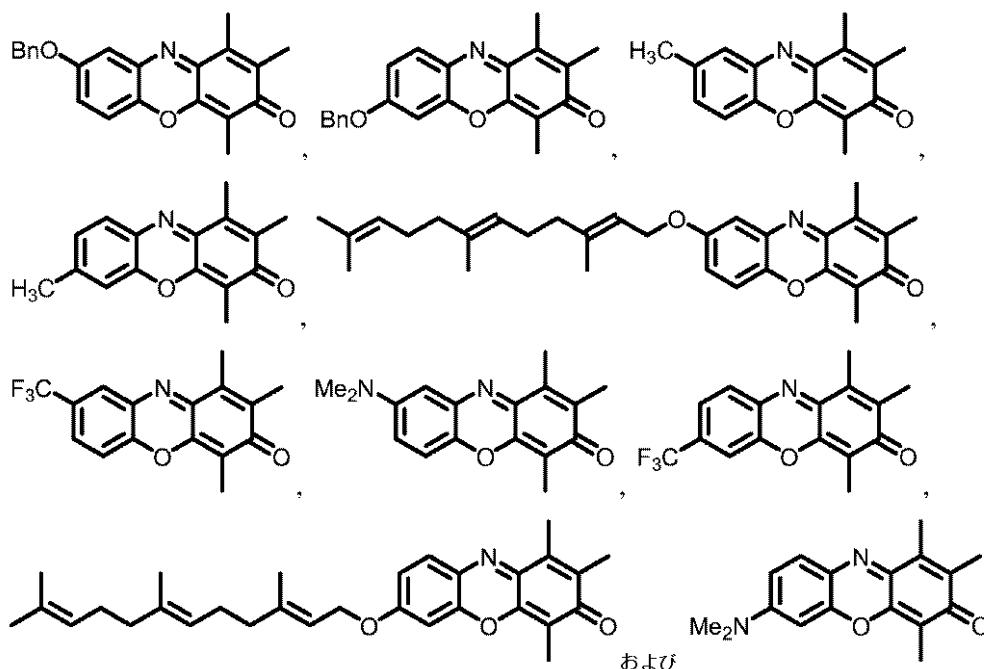


(式中、nは1または2である)であり、R_{1~1}は、R₄、R₅、R₆、またはR₇に対して定義された通りの基である]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態1に記載の化合物。

【0216】

58.

【化125】



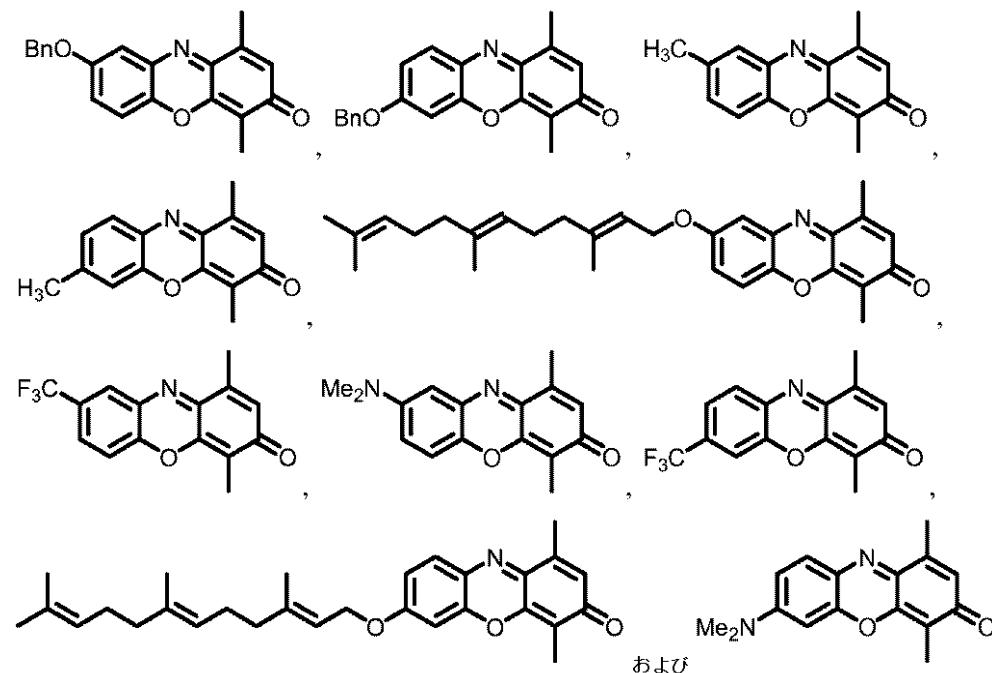
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態1に記載の化合物。

【0217】

59.

40

【化126】



10

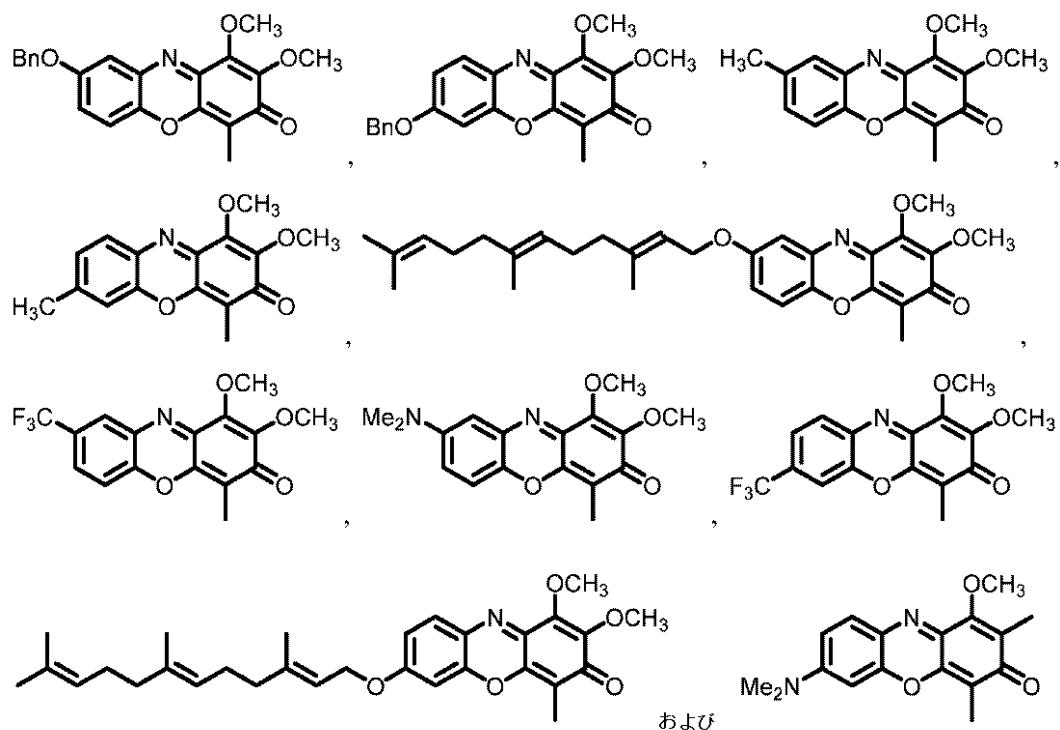
20

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態1に記載の化合物。

【0218】

60.

【化127】



30

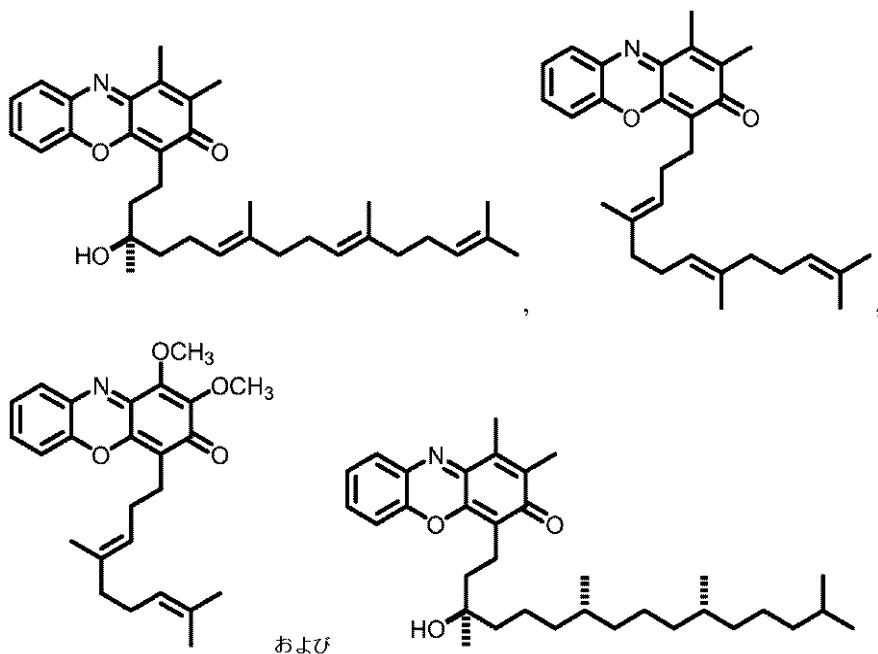
40

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態1に記載の化合物。

【0219】

61.

【化128】



10

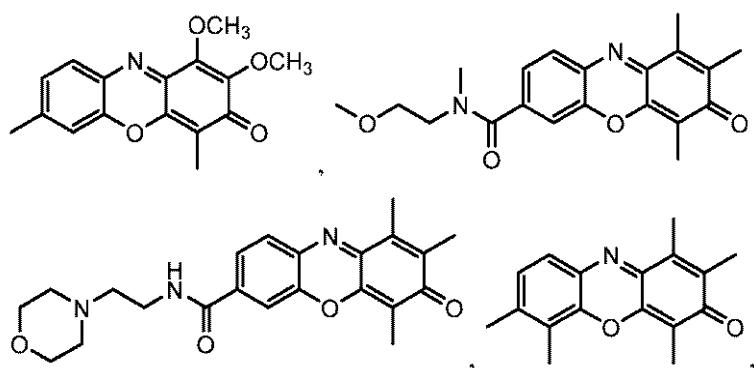
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態1に記載の化合物。

20

【0220】

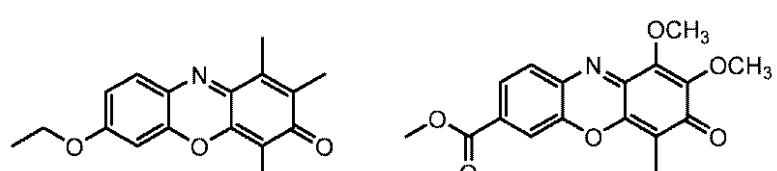
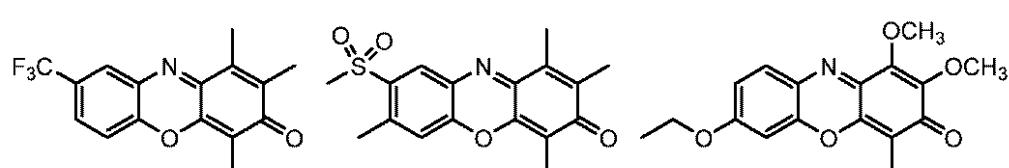
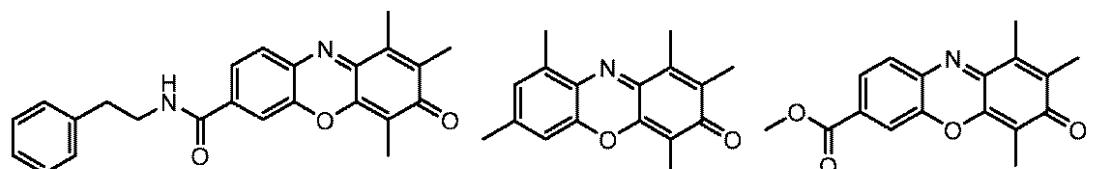
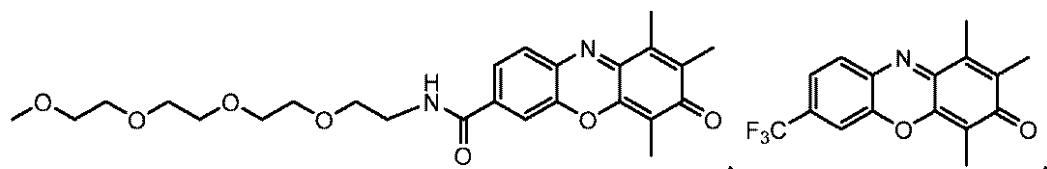
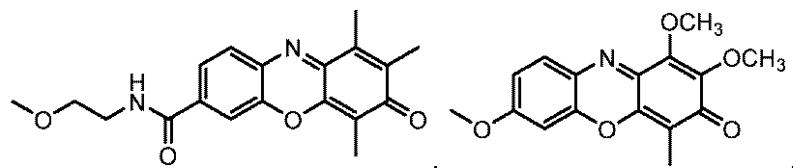
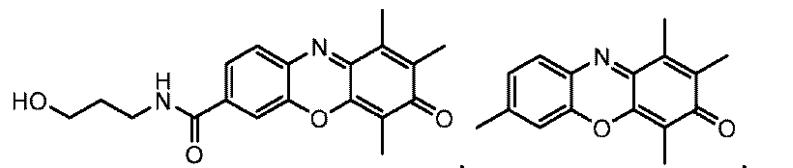
62.

【化129-1】



30

【化 1 2 9 - 2】

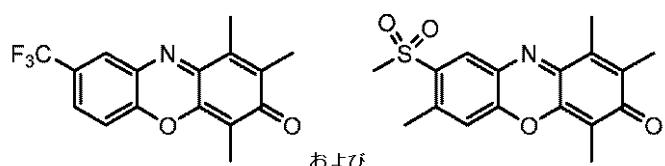
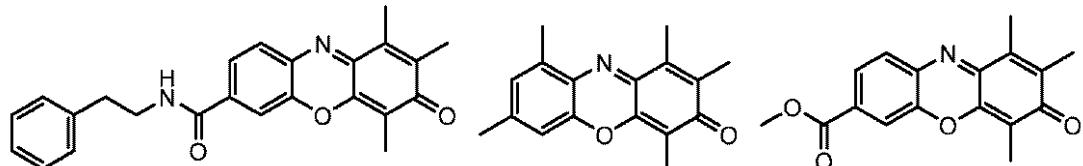
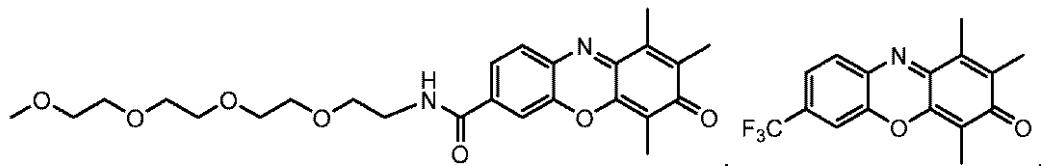
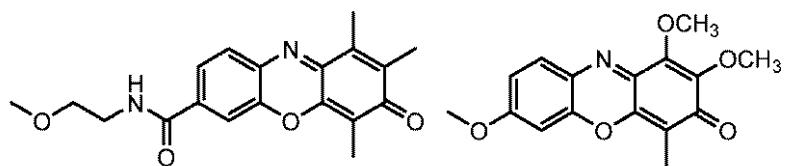
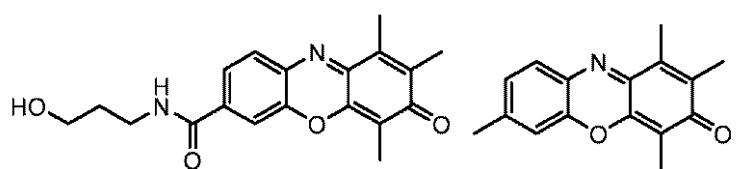
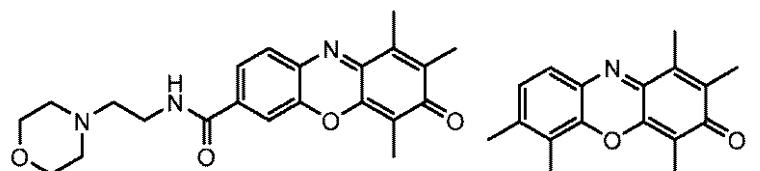
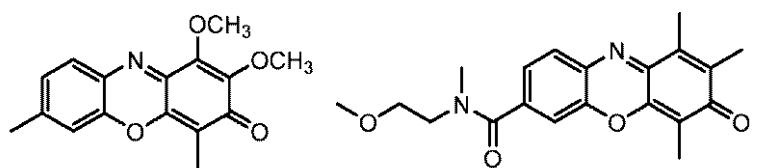


からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態 1 に記載の化合物。

【0 2 2 1】

6 3 .

【化 1 3 0】



10

20

30

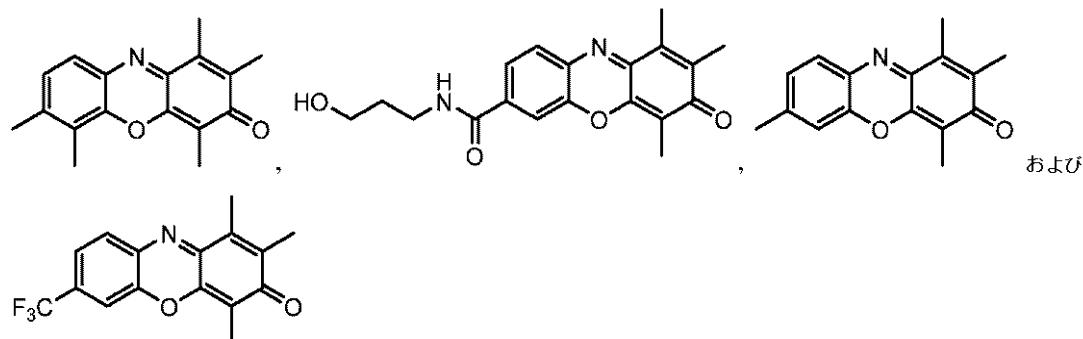
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態 1 に記載の化合物。

【0 2 2 2】

6 4 .

40

【化131】



からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態1に記載の化合物。

【0223】

65. 実施例1～6のいずれか1つに記載されているアッセイで測定した場合、約1マイクロモル未満のEC50を有する、実施形態1から64のいずれか1つに記載の化合物。

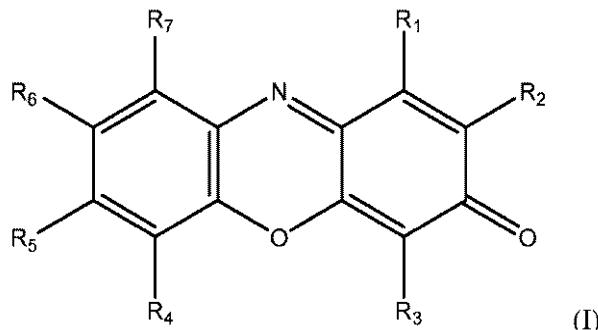
【0224】

66. 実施形態1から65のいずれ1つに記載の化合物と、薬学的に許容される添加剤とを含む医薬製剤。

【0225】

67. 酸化ストレス障害を処置もしくは抑制する方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする方法、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを正常化する方法、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを強化する方法であって、治療有効量もしくは有効量の式(I)の化合物：

【化132】



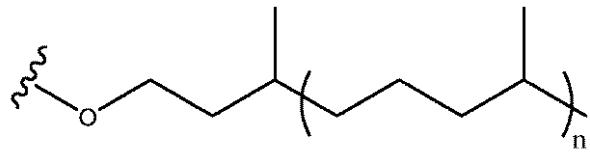
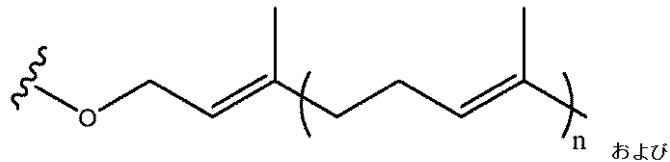
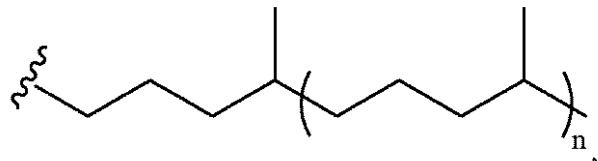
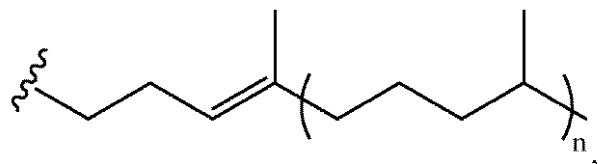
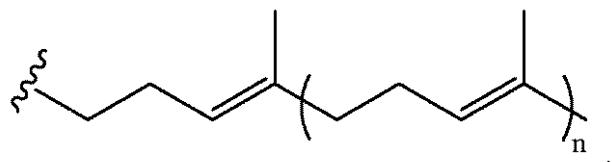
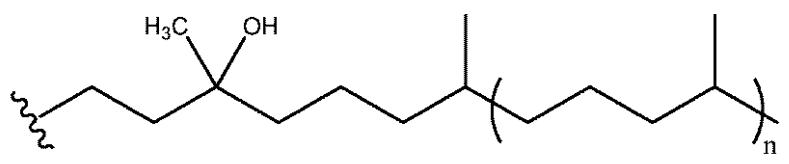
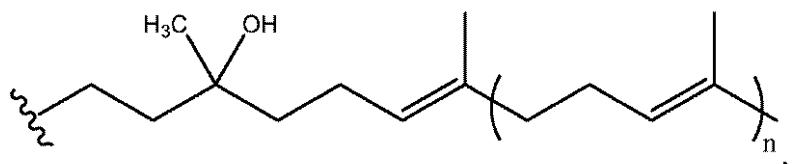
[式中、R₁およびR₂は、独立して、-H、-C₁～C₄アルキル、-O-C₁～C₄アルキル、および-C₁～C₄ハロアルキルからなる群から選択され、R₃は、-H、-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、および-C₁～C₁₂ハロアルキルからなる群から選択されるか、またはR₁およびR₂は両方とも-C₁H₃であるか、もしくはR₁およびR₂は両方とも-OCH₃であり、R₃は、

20

30

40

【化133】



(n は0、1、2、3、または4である)からなる群から選択され、R₄、R₅、R₆、およびR₇は、独立して、-H、-OH、-C₁~C₁₂アルキル、-C₂~C₁₂アルケニル、-C₁~C₁₂ハロアルキル、-O-C₁~C₁₂アルキル、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂ハロアルキル、-C₆~C₁₀アリール、-O-C₆~C₁₀アリール、-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-O-C₁~C₆アルキル-C₆~C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、-C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、

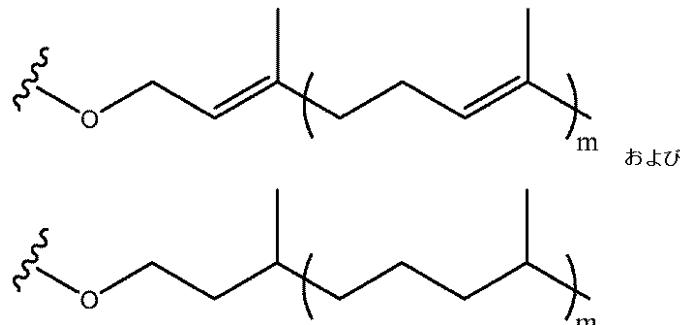
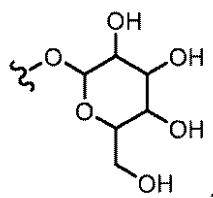
10

20

30

40

【化134】



10

20

30

30

40

からなる群から選択され、

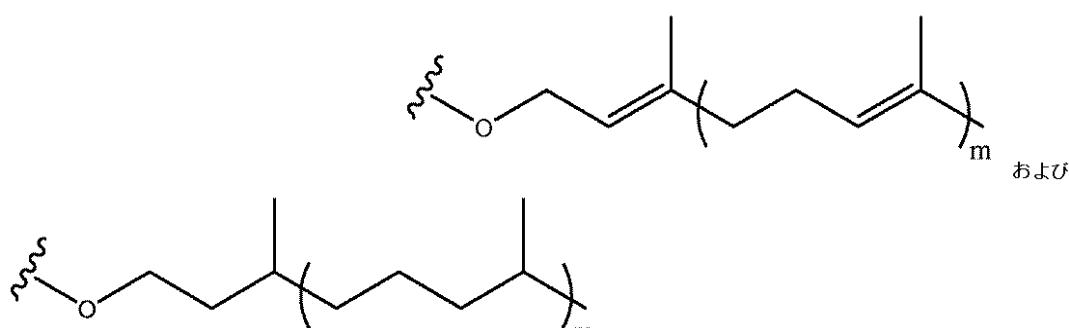
ただし、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の少なくとも2つは、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択され、 R_8 および R_9 は、独立して、-Hまたは-C₁～C₁₂アルキルであり、 R_{13} は-Hまたは-C₁～C₄アルキルであり、 R_{14} はヒドロキシ、-O-C₁～C₄、ヘテロシクリル、アリール、もしくはヘテロアリールで任意選択で置換されている-C₁～C₁₂アルキルであるか、または R_{14} は-C₁～C₁₅アルキルであり、このアルキル基中の炭素の2個もしくはそれ超は酸素で置き換えられおり、 m は0、1、2、または3である]

またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩を対象に投与することを含む、方法。

【0226】

68. R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 が、独立して、-H、-C₁～C₁₂アルキル、-C₂-C₁₂アルケニル、-C₁～C₁₂ハロアルキル、-O-C₁～C₁₂アルキル、-O-C₁～C₁₂ハロアルキル、-C₆～C₁₀アリール、-O-C₆～C₁₀アリール、-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-O-C₁～C₆アルキル-C₆～C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、

【化135】



からなる群から選択され、ただし、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 の少なくとも2つが、独立して、-Hおよび-CH₃からなる群から選択される、実施形態67に記載の方法。

【0227】

69. R_1 、 R_2 、および R_3 の1つが-Hではない、実施形態67または68に記載の方法。

【0228】

70. R_1 、 R_2 、および R_3 の2つが-Hではない、実施形態67または68に記載の

50

方法。

【0229】

71. R_1 、 R_2 、および R_3 が- H ではない、実施形態67または68に記載の方法。

【0230】

72. R_1 、 R_2 、および R_3 の1つが- CH_3 である、実施形態67または68に記載の方法。

【0231】

73. R_1 、 R_2 、および R_3 の2つが- CH_3 である、実施形態67または68に記載の方法。

【0232】

74. R_1 、 R_2 、および R_3 が- CH_3 である、実施形態67または68に記載の方法。
。

【0233】

75. R_1 、 R_2 、および R_3 の2つが- CH_3 であり、 R_1 、 R_2 、および R_3 の1つが- H である、実施形態67または68に記載の方法。

【0234】

76. R_1 および R_3 が- CH_3 であり、 R_2 が- H である、実施形態67または68に記載の方法。

【0235】

77. R_1 および R_2 が- CH_3 である、実施形態67または68に記載の方法。 20

【0236】

78. R_1 および R_2 が- OCH_3 である、実施形態67または68に記載の方法。

【0237】

79. R_1 および R_2 が- OCH_3 であり、 R_3 が- CH_3 である、実施形態67または68に記載の方法。

【0238】

80. R_1 および R_2 が- CH_3 であり、 R_3 が- $n-C_1 \sim C_{12}$ アルキルである、実施形態67または68に記載の方法。

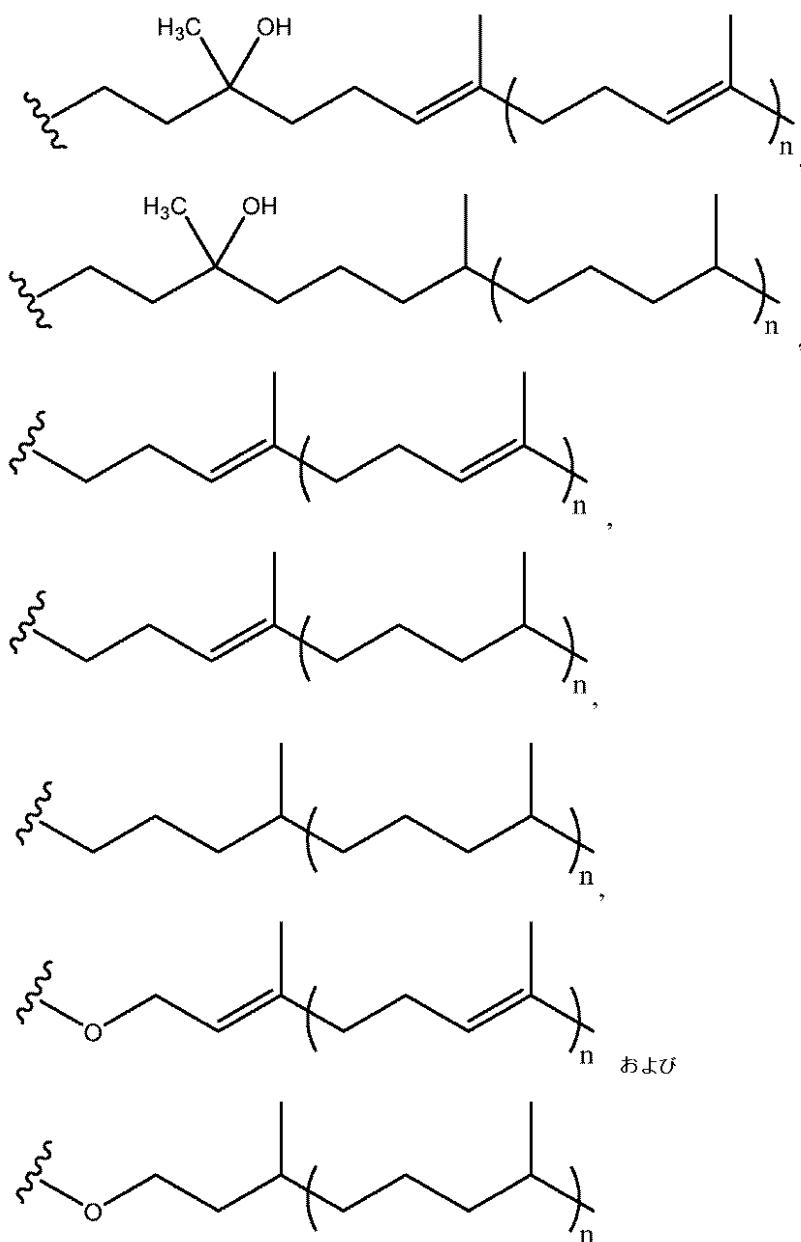
【0239】

81. R_1 および R_2 が- OCH_3 であり、 R_3 が- $n-C_1 \sim C_{12}$ アルキルである、実施形態67または68に記載の方法。 30

【0240】

82. R_1 および R_2 が- CH_3 であり、 R_3 が、

【化136】

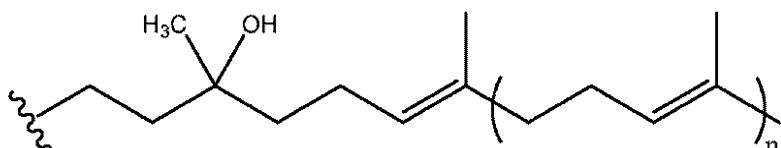


からなる群から選択される、実施形態67または68に記載の方法。

【0241】

83. R_1 および R_2 が $-CH_3$ であり、 R_3 が、

【化137】



である、実施形態67または68に記載の方法。

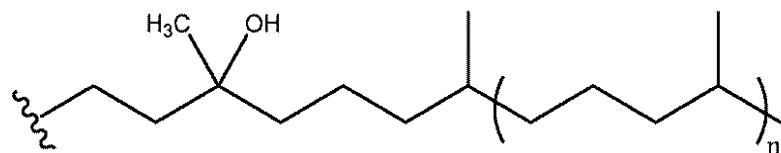
【0242】

84. n が2である、実施形態83に記載の方法。

【0243】

85. R_1 および R_2 が $-CH_3$ であり、 R_3 が、

【化138】



である、実施形態67または68に記載の方法。

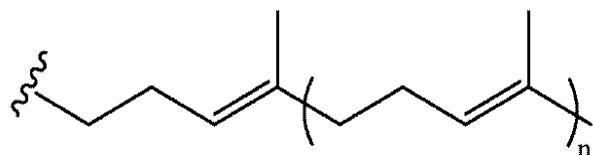
【0244】

86. nが2である、実施形態85に記載の方法。

【0245】

87. R₁およびR₂が-C₂H₅であり、R₃が

【化139】



である、実施形態67または68に記載の方法。

【0246】

88. nが1である、実施形態87に記載の方法。

【0247】

89. nが2である、実施形態87に記載の方法。

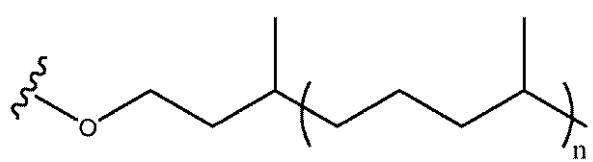
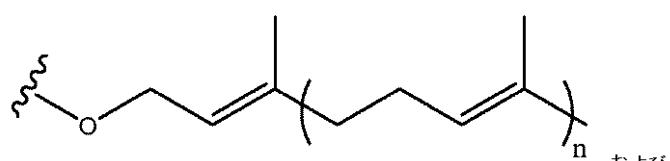
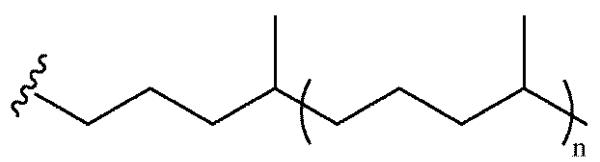
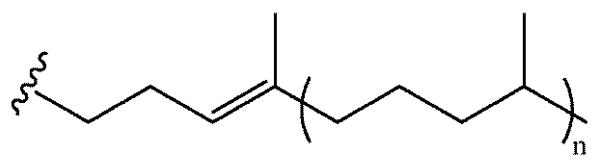
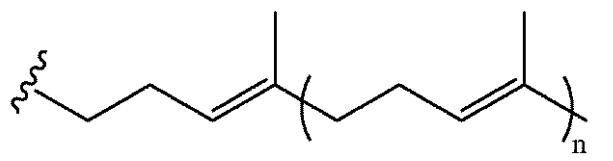
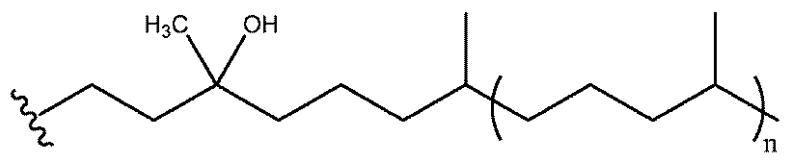
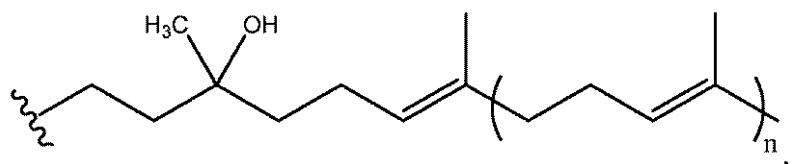
【0248】

90. R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が、

10

20

【化140】

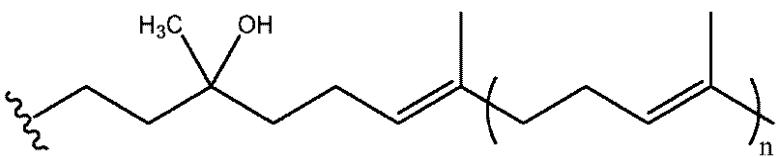


からなる群から選択される、実施形態67または68に記載の方法。

【0249】

91. R₁ および R₂ が -OCH₃ であり、R₃ が、

【化141】



である、実施形態67または68に記載の方法。

【0250】

92. n が2である、実施形態91に記載の方法。

【0251】

93. R₁ および R₂ が -OCH₃ であり、R₃ が、

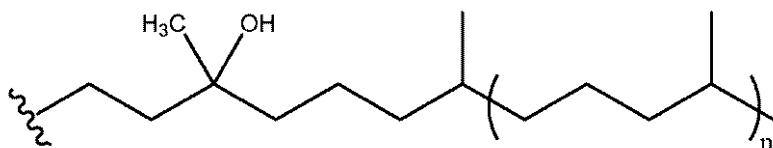
10

20

30

40

【化142】



である、実施形態67または68に記載の方法。

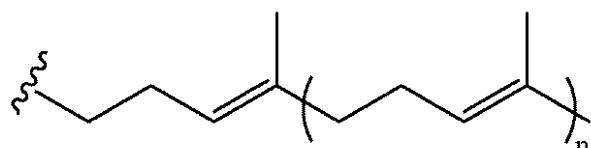
【0252】

94. nが2である、実施形態93に記載の方法。

【0253】

95. R₁およびR₂が-OCH₃であり、R₃が、

【化143】



である、実施形態67または68に記載の方法。

【0254】

96. nが1である、実施形態95に記載の方法。

【0255】

97. nが2である、実施形態95に記載の方法。

【0256】

98. R₁およびR₂が、独立して、-Hまたは-C₁~C₄アルキルである、実施形態67または68に記載の方法。

【0257】

99. R₁、R₂、およびR₃が-Hである、実施形態67または68に記載の方法。

【0258】

100. R₄、R₅、R₆、およびR₇の2つが-Hである、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0259】

101. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hである、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

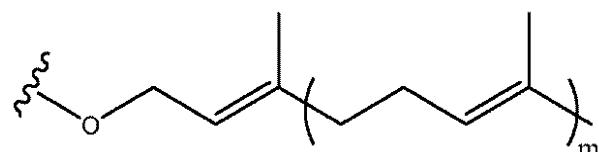
【0260】

102. R₄、R₅、R₆、およびR₇が-Hである、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0261】

103. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが、独立して、-C₁~C₁₂アルキル、-C₁~C₁₂ハロアルキル、-O-C₁~C₁₂アルキル、-O-C₁~C₁₂アルキル-C₆~C₁₀アリール、-N-(R₈)(R₉)、および

【化144】



からなる群から選択される、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0262】

104. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが、独立して、-C₁~C₆ア

10

20

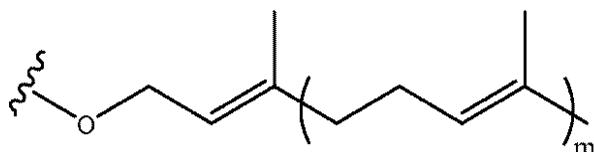
30

40

50

ルキル、-O-C₁~C₆アルキル、-N-(R₈)(R₉)（式中、R₈およびR₉は、独立して、-Hまたは-C₁~C₄アルキルである）、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化145】



（式中、mは1または2である）からなる群から選択される、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。 10

【0263】

105. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-N(CH₃)₂である、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0264】

106. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-O-ベンジルである、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0265】

107. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-O-CH₃である、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。 20

【0266】

108. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-O-n-C₂~C₅アルキルである、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

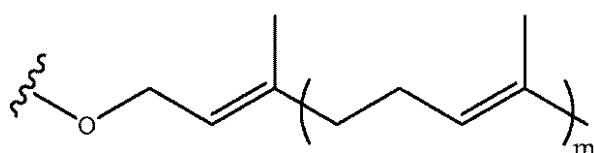
【0267】

109. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-CF₃である、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0268】

110. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が、

【化146】



（式中、mは1または2である）である、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。 30

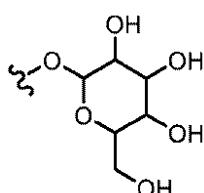
【0269】

111. R₄、R₅、R₆、およびR₇の3つが-Hであり、その他が-CH₃である、実施形態67から99のいずれか1つに記載の方法。

【0270】

112. R₄、R₅、R₆、およびR₇の少なくとも1つが、-OH、-O-C(O)-C₁~C₁₂アルキル、-C(O)-N(R₁₃)(R₁₄)、-C(O)-O-C₁~C₁₂アルキル、-S(O)₂-C₁~C₁₂アルキル、および

【化147】



からなる群から選択される、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。

【0 2 7 1】

1 1 3 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが - OH である、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。

【0 2 7 2】

1 1 4 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の 1 つが、- O - C (O) - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、- C (O) - O - C₁ ~ C_{1~2} アルキル、または - S (O)₂ - C₁ ~ C_{1~2} アルキルである、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。

【0 2 7 3】

1 1 5 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の 1 つが - C (O) - N (R_{1~3}) (R_{1~4}) である、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。 10

【0 2 7 4】

1 1 6 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが - C₁ ~ C_{1~2} ハロアルキルである、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。

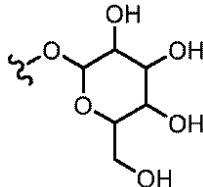
【0 2 7 5】

1 1 7 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが - C₁ ~ C_{1~2} アルキルである、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。

【0 2 7 6】

1 1 8 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の 1 つが、

【化 1 4 8】



である、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。

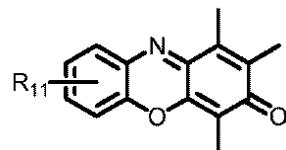
【0 2 7 7】

1 1 9 . R₄、R₅、R₆、および R₇ の少なくとも 1 つが - O - C₁ ~ C_{1~2} アルキルである、実施形態 6 7 から 1 0 1 のいずれか 1 つに記載の方法。 30

【0 2 7 8】

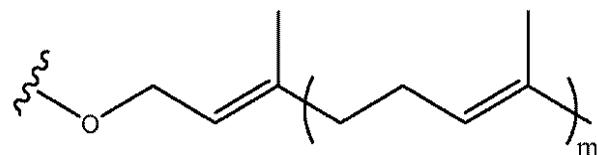
1 2 0 . 化合物が、式 :

【化 1 4 9】



[式中、R_{1~1} は、- C₁ ~ C₆ アルキル、- O - C₁ ~ C₆ アルキル、- N (C_H₃)₂、- C_F₃、- O - ベンジル、および

【化 1 5 0】



(式中、m は 1 または 2 である) からなる群から選択される] を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態 6 7 に記載の方法。

【0 2 7 9】

10

20

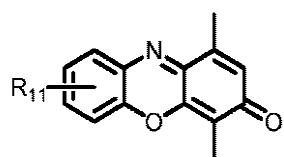
30

40

50

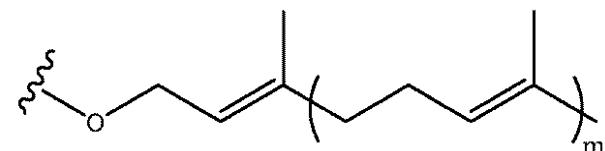
1 2 1 . 化合物が、式：

【化 1 5 1】



[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(C₁H₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化 1 5 2】

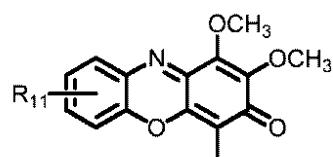


(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0 2 8 0】

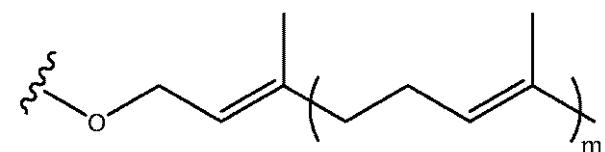
1 2 2 . 化合物が、式：

【化 1 5 3】



[式中、R₁₁は、-C₁～C₆アルキル、-O-C₁～C₆アルキル、-N(C₁H₃)₂、-CF₃、-O-ベンジル、および

【化 1 5 4】

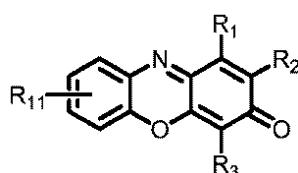


(式中、mは1または2である)からなる群から選択される]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0 2 8 1】

1 2 3 . 化合物が、式：

【化 1 5 5】



[式中、R₁およびR₂は-C₁H₃であるか、またはR₁およびR₂は-OCH₃であり

、R₃は、

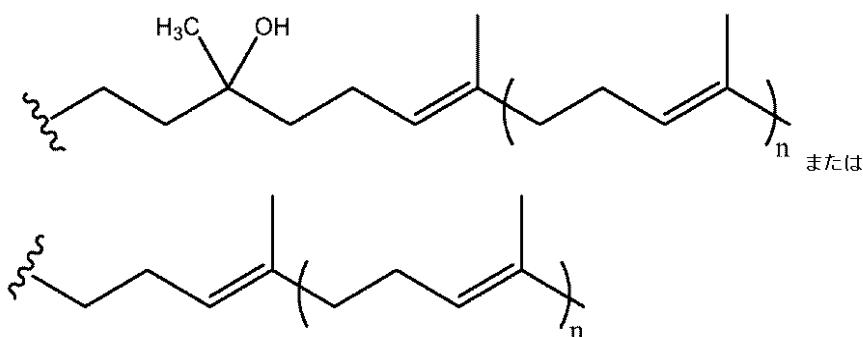
10

20

30

40

【化156】

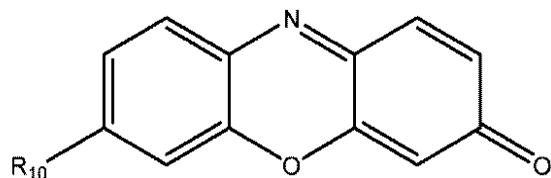


(式中、 n は1または2である)であり、 R_{11} は、 R_4 、 R_5 、 R_6 、または R_7 に対して定義された通りの基である]を有するか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である実施形態67に記載の方法。

【0282】

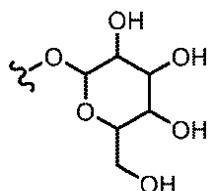
124. 化合物が、

【化157】



(式中、 R_{10} は、-H、-OH、-O-アルキル、-O-ベンジル、-O-C(=O)-アルキル、-O-C(=O)-アリール、または

【化158】

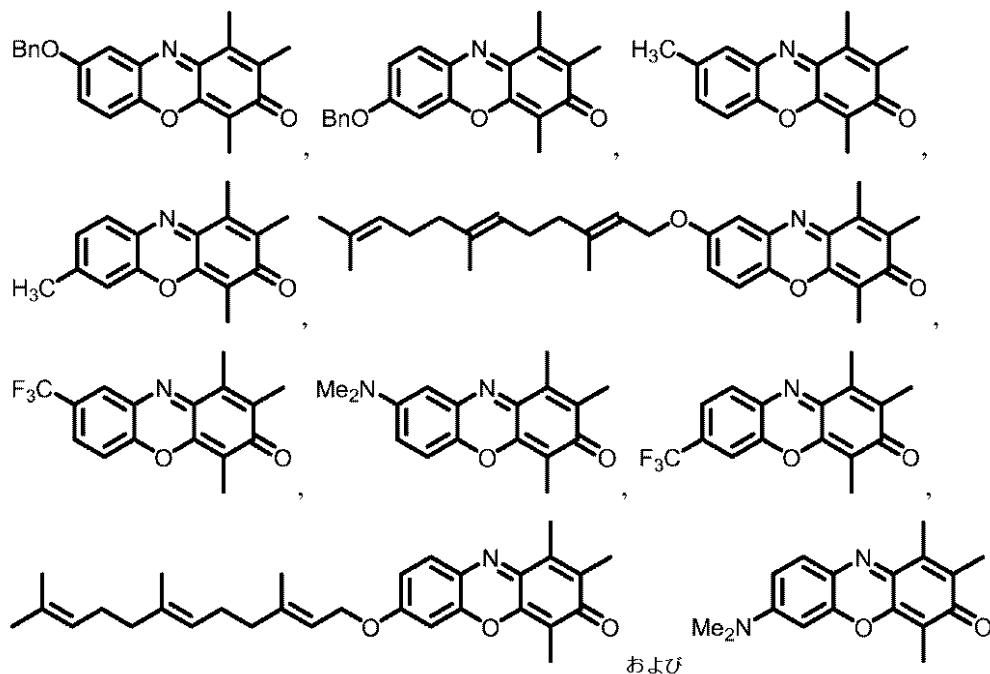


である)でも、その立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩でもない、実施形態57から119のいずれか1つに記載の方法。

【0283】

125. 化合物が、

【化159】



10

20

30

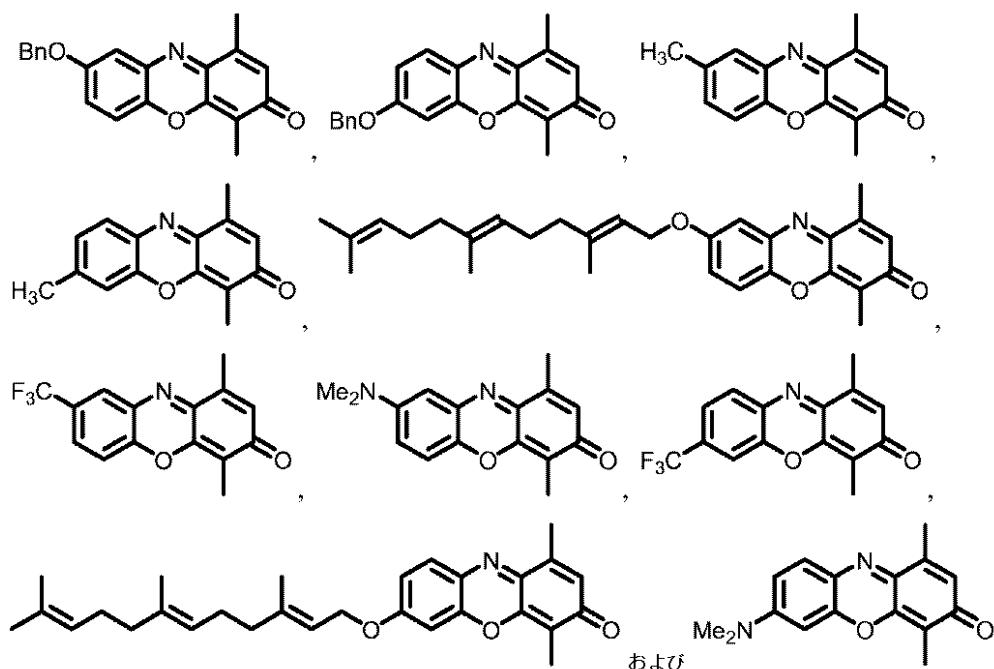
40

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0284】

126. 化合物が、

【化160】

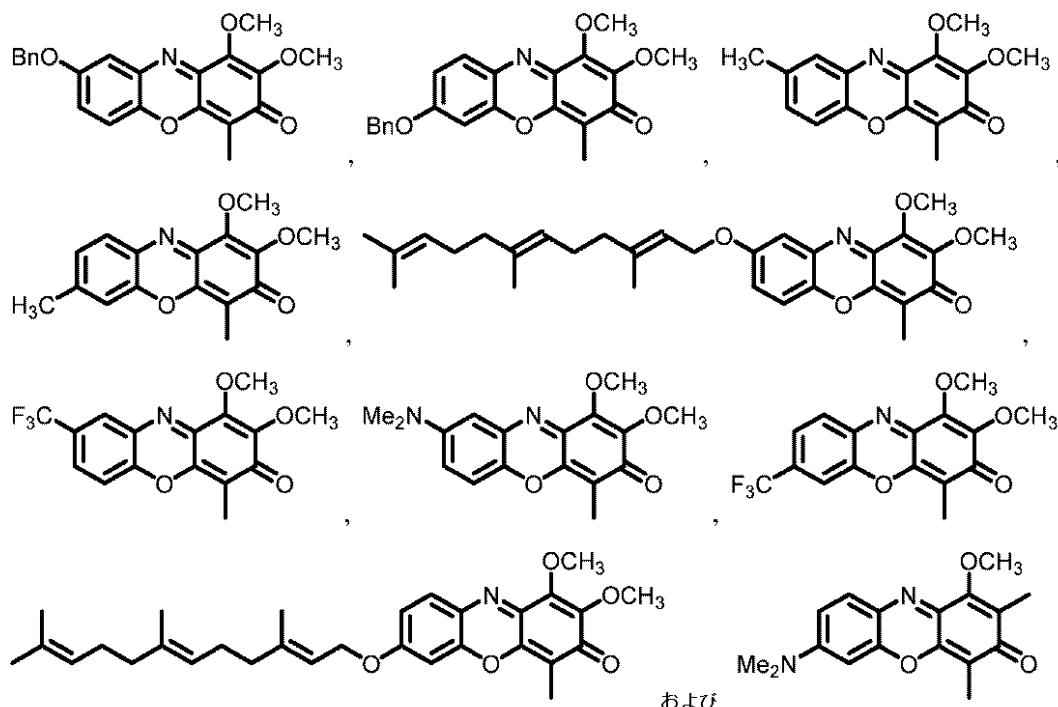


からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0285】

127. 化合物が、

【化161】



10

20

30

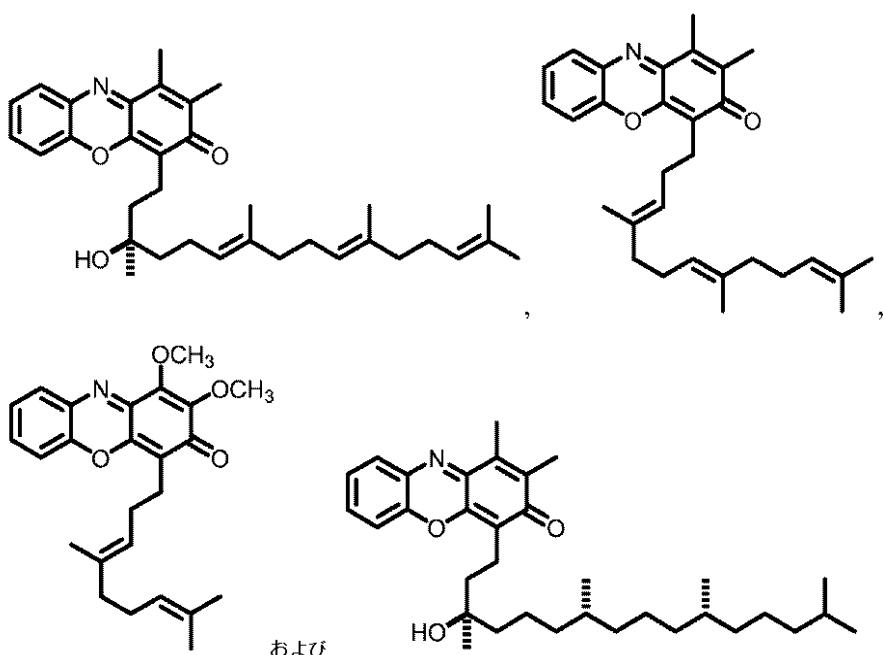
40

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0286】

128. 化合物が、

【化162】

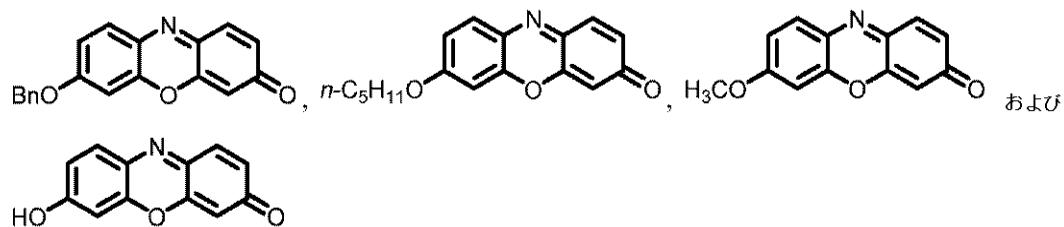


からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0287】

129. 化合物が、

【化163】



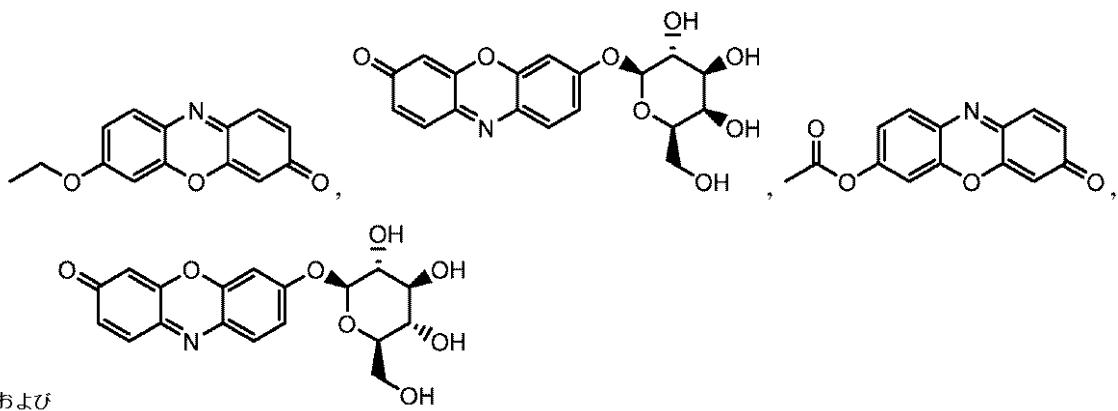
からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

10

【0288】

130. 化合物が、

【化164】



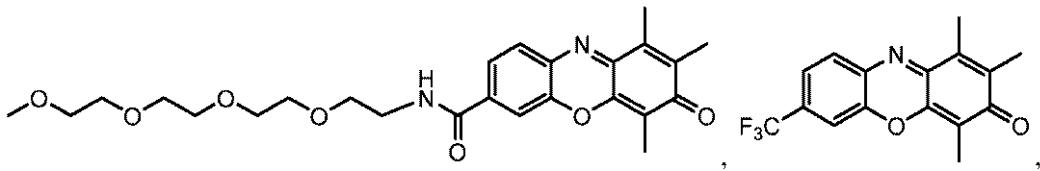
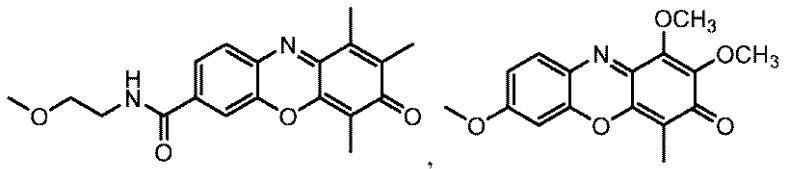
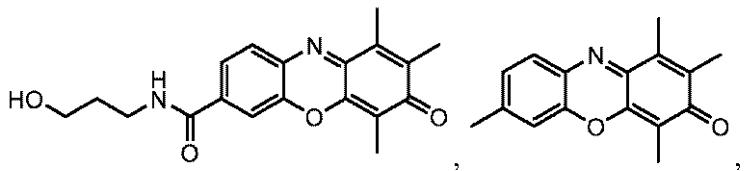
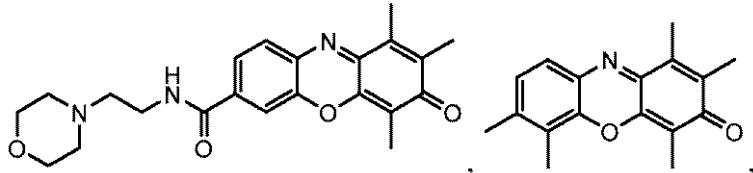
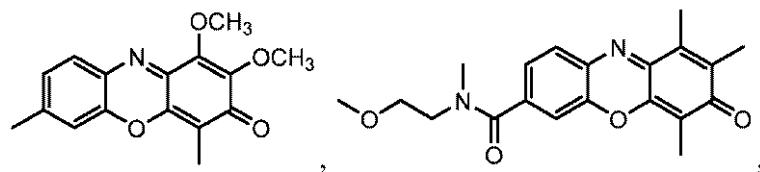
20

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0289】

131. 化合物が、

【化 1 6 5 - 1】



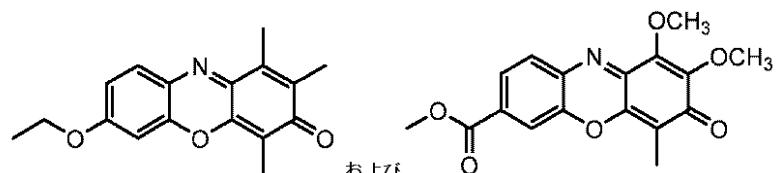
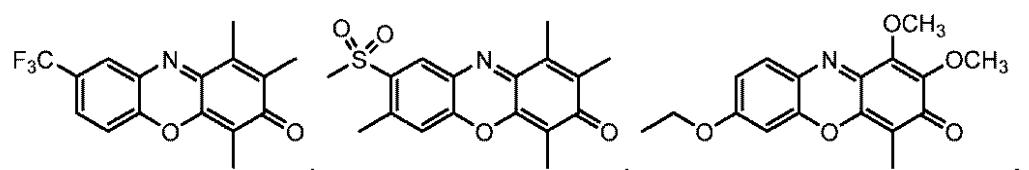
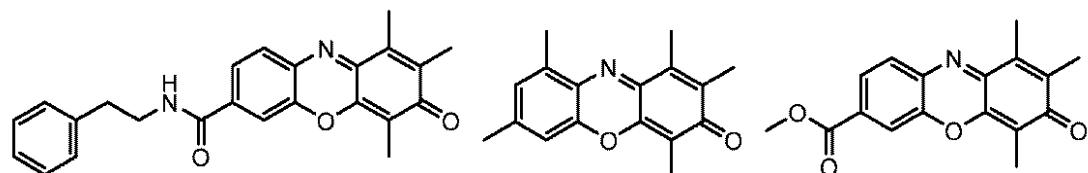
10

20

30

40

【化 1 6 5 - 2】

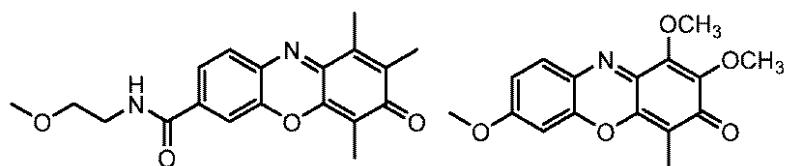
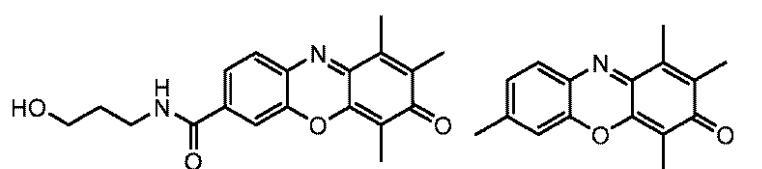
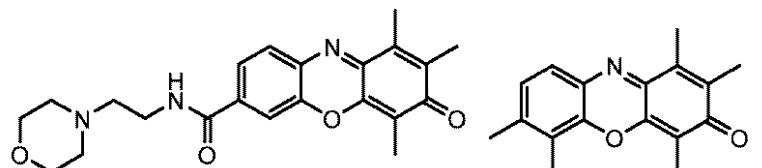
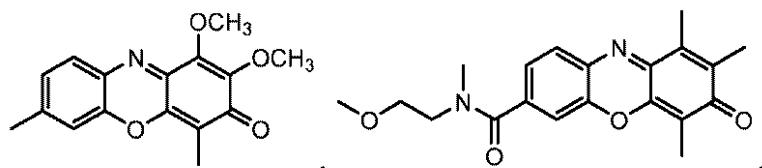


からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態 6 7 に記載の方法。

【 0 2 9 0 】

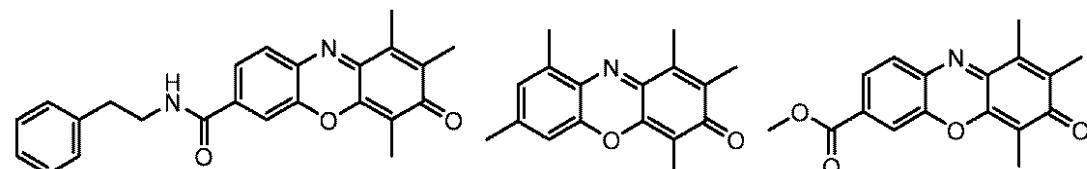
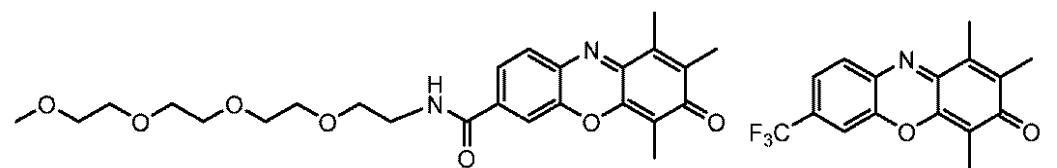
1 3 2 . 化合物が、

【化 1 6 6 - 1】

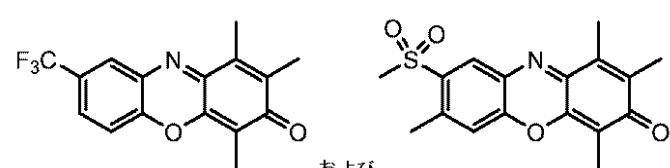


10

【化 1 6 6 - 2】



30



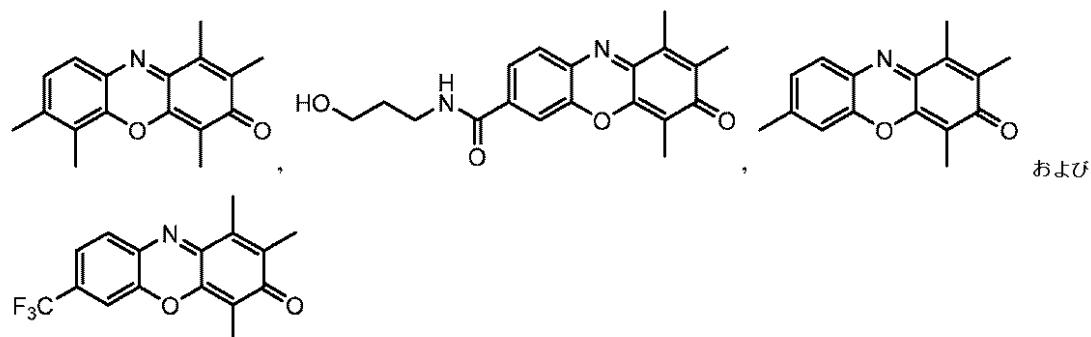
40

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態 6 7 に記載の方法。

【 0 2 9 1 】

1 3 3 . 化合物が、

【化167】



10

からなる群から選択されるか、またはその立体異性体、立体異性体の混合物、溶媒和物、水和物、もしくは薬学的に許容される塩である、実施形態67に記載の方法。

【0292】

134. 化合物が、この化合物と薬学的に許容される添加剤とを含む医薬製剤として投与される、実施形態67から133のいずれか1つに記載の方法。

【0293】

135. ミトコンドリア障害；遺伝性ミトコンドリア病；アルパース病；バース症候群；酸化欠陥；カルニチン - アシル - カルニチン欠損症；カルニチン欠損症；クレアチニン欠損症症候群；コエンザイムQ10欠損症；複合体I欠損症；複合体II欠損症；複合体III欠損症；複合体IV欠損症；複合体V欠損症；COX欠損症；慢性進行性外眼筋麻痺(CPEO)；CPT I欠損症；CPT II欠損症；フリードライビ運動失調症(FA)；グルタル酸尿症II型；ケーンズセイヤー症候群(KSS)；乳酸アシドーシス；長鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(LCAD)；LCMAD；リー病；リー様症候群；レーベル遺伝性視神経萎縮症(LHON)；致命的な乳児性心筋症(LIC)；ルフト病；多種アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(MADD)；中鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(MCAD)；ミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、脳卒中症候群(MELAS)；赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌステンカん(MERRF)；ミトコンドリア劣性運動失調症候群(MIRAS)；ミトコンドリア細胞症、ミトコンドリアDNA欠失；ミトコンドリア脳症；ミトコンドリアミオパシー；ミトコンドリア神経胃腸性障害および脳症(MNGIE)；ニューロパシー、運動失調、および網膜色素変性症(NARP)；ピアソン症候群；ピルビン酸カルボキシラーゼ欠損症；ピルビン酸デヒドロゲナーゼ欠損症；POLG突然変異体；呼吸鎖障害；短鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(SCAD)；SCHAD；超長鎖アシルCoAデヒドロゲナーゼ欠損症(VLCAD)；ミオパシー；心筋症；脳筋症；神経変性疾患；パーキンソン病；アルツハイマー病；筋萎縮性側索硬化症(ALS)；運動ニューロン疾患；神経疾患；てんかん；老化に伴う疾患；黄斑変性；糖尿病；メタボリックシンドローム；がん；脳がん；遺伝性疾患；ハンチントン病；気分障害；統合失調症；双極性障害；広汎性発達障害；自閉症性障害；アスペルガー症候群；小児期崩壊性障害(CDD)；レット症候群；特定不能の広汎性発達障害(PDD-NOS)；脳血管発作；脳卒中；視力機能障害；視神経症；優性遺伝性若年性視神経萎縮症；有毒薬剤により引き起こされた視神経症；緑内障；シュタルガルト黄斑ジストロフィー；糖尿病性網膜症；糖尿病性黄斑症；未熟児網膜症；虚血再灌流関連の網膜損傷；酸素毒作用；ヘモグロビン異常症；サラセニア；鎌状赤血球性貧血；発作；虚血；尿細管性アシドーシス；注意欠陥/多動性障害(ADHD)；聴力または平衡機能障害をもたらす神経変性障害；優性視神経萎縮症(DOA)；母系遺伝性糖尿病および難聴(MIDD)；慢性疲労；造影剤誘発性腎障害；造影剤誘発性網膜症損傷；無リポタンパク質血症；網膜色素変性症；ウォフラム病；トウレット症候群；コバラミンC型欠陥；メチルマロン酸尿症；グリア芽細胞腫；ダウン症候群；急性尿細管壞死；筋ジストロフィー；白質ジストロフィー；進行性核上性麻痺；脊髄性筋萎縮症；聽覚損失；ノイズ誘発性聽覚損失；外傷性脳傷害；若年性ハンチントン病；多発性硬化症；NGLY1；多系

20

30

40

50

統萎縮症；副腎白質ジストロフィー；および副腎脊髄神経障害からなる群から選択される酸化ストレス障害を処置する、実施形態 67 から 134 のいずれか 1 つに記載の方法。

【0294】

136. 前記酸化ストレス障害がミトコンドリア障害である、実施形態 135 に記載の方法。

【0295】

137. 前記酸化ストレス障害が遺伝性ミトコンドリア病である、実施形態 135 に記載の方法。

【0296】

138. 前記酸化ストレス障害がフリードライヒ運動失調症 (F A) である、実施形態 135 に記載の方法。 10

【0297】

139. 前記酸化ストレス障害がケアーンズセイヤー症候群 (K S S) である、実施形態 135 に記載の方法。

【0298】

140. 前記酸化ストレス障害がリー病またはリー様症候群である、実施形態 135 に記載の方法。

【0299】

141. 前記酸化ストレス障害がレーベル遺伝性視神経萎縮症 (L H O N) である、実施形態 135 に記載の方法。 20

【0300】

142. 前記酸化ストレス障害がミトコンドリア脳筋症、ラクトアシドーシス、脳卒中症候群 (M E L A S) である、実施形態 135 に記載の方法。

【0301】

143. 前記酸化ストレス障害が赤色ぼろ線維を伴うミオクローヌスてんかん (M E R R F) である、実施形態 135 に記載の方法。

【0302】

144. 前記酸化ストレス障害がパーキンソン病である、実施形態 135 に記載の方法。

【0303】

145. 前記酸化ストレス障害がアルツハイマー病である、実施形態 135 に記載の方法。 30

【0304】

146. 前記酸化ストレス障害が筋萎縮性側索硬化症 (A L S) である、実施形態 135 に記載の方法。

【0305】

147. 前記酸化ストレス障害がてんかんである、実施形態 135 に記載の方法。

【0306】

148. 前記酸化ストレス障害が黄斑変性である、実施形態 135 に記載の方法。

【0307】

149. 前記酸化ストレス障害が脳がんである、実施形態 135 に記載の方法。 40

【0308】

150. 前記酸化ストレス障害がハンチントン病である、実施形態 135 に記載の方法。

【0309】

151. 前記酸化ストレス障害が自閉症性障害である、実施形態 135 に記載の方法。

【0310】

152. 前記酸化ストレス障害がレット症候群である、実施形態 135 に記載の方法。

【0311】

153. 前記酸化ストレス障害が脳卒中である、実施形態 135 に記載の方法。

【0312】

154. 前記酸化ストレス障害が母系遺伝性糖尿病および難聴 (M I D D) である、実施

50

形態 135 に記載の方法。

【0313】

155. 前記酸化ストレス障害が慢性疲労である、実施形態 135 に記載の方法。

【0314】

156. 前記酸化ストレス障害が造影剤誘発性腎障害である、実施形態 135 に記載の方法。

【0315】

157. 前記酸化ストレス障害が造影剤誘発性網膜症損傷である、実施形態 135 に記載の方法。

【0316】

158. 前記酸化ストレス障害がコバラミン C 型欠陥である、実施形態 135 に記載の方法。

【0317】

159. 1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーをモジュレートする、1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを正常化する、または1種もしくは複数のエネルギーバイオマーカーを強化するための方法であって、前記1種または複数のエネルギーバイオマーカーが、全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の乳酸（ラクテート）レベル；全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中のピルビン酸（ピルベート）レベル；全血、血漿、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の乳酸／ピルビン酸比；全血、血漿、リンパ球、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の総、還元型もしくは酸化型グルタチオンレベル、または還元型／酸化型グルタチオン比；全血、血漿、リンパ球、脳脊髄液、または脳室液のいずれかの中の総、還元型もしくは酸化型システインレベル、または還元型／酸化型システイン比；クレアチニンリシン酸レベル、NADH（NADH + H +）レベル；NADPH（NADPH + H +）レベル；NAD レベル；NADP レベル；ATP レベル；還元型補酵素 Q（CoQ_{red}）レベル；酸化型補酵素 Q（CoQ_x）レベル；総補酵素 Q（CoQ_{tot}）レベル；酸化型シトクロム C レベル；還元型シトクロム C レベル；酸化型シトクロム C / 還元型シトクロム C 比；アセトアセテートレベル、リドロキシブチレートレベル、アセトアセテート / リドロキシブチレート比、8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン（8-OHDG）レベル；反応性酸素種のレベル；酸素消費量（VO₂）レベル；二酸化炭素排出量（VCO₂）レベル；呼吸商（VCO₂ / VO₂）；運動耐容能；および嫌気性閾値からなる群から選択される、実施形態 67 から 134 のいずれか 1 つに記載の方法。

10

20

30

【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No PCT/US2014/029809									
A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER INV. C07D413/10 C07D265/38 A61K31/538 A61P3/10 A61P25/00 A61P35/00 A61P27/00 A61P9/00											
ADD. According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC											
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) C07D A61K A61P											
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched											
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) EPO-Internal											
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; padding: 2px;">Category*</th> <th style="text-align: left; padding: 2px;">Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages</th> <th style="text-align: left; padding: 2px;">Relevant to claim No.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">X</td> <td style="padding: 2px; vertical-align: top;"> ORLANDO CRESCENZI ET AL: "Observed and calculated ^1H- and ^{13}C-NMR chemical shifts of substituted 5H-pyrido[3,2-a]- and 5H-pyrido[2,3-a]phenoxazin-5-ones and of some 3H-phenoxazin-3-one derivatives Electronic supplementary information (ESI) available: ^1H and ^{13}C NMR data for compounds 1?17. See http://www.rsc.org/suppdata/ob/b/, ORGANIC & BIOMOLECULAR CHEMISTRY, vol. 2, no. 11, 1 January 2004 (2004-01-01), page 1577, XP055120771, ISSN: 1477-0520, DOI: 10.1039/b401147c compounds 2, 3 </td> <td style="padding: 2px; vertical-align: top;">1,9,10, 13-16</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px; vertical-align: top;">----- -----</td> <td style="padding: 2px; vertical-align: top;">2-8,11, 12,17-24</td> </tr> </tbody> </table>			Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.	X	ORLANDO CRESCENZI ET AL: "Observed and calculated ^1H - and ^{13}C -NMR chemical shifts of substituted 5H-pyrido[3,2-a]- and 5H-pyrido[2,3-a]phenoxazin-5-ones and of some 3H-phenoxazin-3-one derivatives Electronic supplementary information (ESI) available: ^1H and ^{13}C NMR data for compounds 1?17. See http://www.rsc.org/suppdata/ob/b/ , ORGANIC & BIOMOLECULAR CHEMISTRY, vol. 2, no. 11, 1 January 2004 (2004-01-01), page 1577, XP055120771, ISSN: 1477-0520, DOI: 10.1039/b401147c compounds 2, 3	1,9,10, 13-16	A	----- -----	2-8,11, 12,17-24
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.									
X	ORLANDO CRESCENZI ET AL: "Observed and calculated ^1H - and ^{13}C -NMR chemical shifts of substituted 5H-pyrido[3,2-a]- and 5H-pyrido[2,3-a]phenoxazin-5-ones and of some 3H-phenoxazin-3-one derivatives Electronic supplementary information (ESI) available: ^1H and ^{13}C NMR data for compounds 1?17. See http://www.rsc.org/suppdata/ob/b/ , ORGANIC & BIOMOLECULAR CHEMISTRY, vol. 2, no. 11, 1 January 2004 (2004-01-01), page 1577, XP055120771, ISSN: 1477-0520, DOI: 10.1039/b401147c compounds 2, 3	1,9,10, 13-16									
A	----- -----	2-8,11, 12,17-24									
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C.		<input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.									
* Special categories of cited documents : "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed											
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family											
Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report										
3 June 2014	16/06/2014										
Name and mailing address of the ISA/ European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel: (+31-70) 340-2040, Fax: (+31-70) 340-3016	Authorized officer Sarakinos, Georgios										

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2014/029809

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	HANS MUSSO ET AL: "Phenoxazine, IX. Synthese und Lichtabsorption von 8-Hydroxy-phenoxazonen-(3)", CHEMISCHE BERICHTE, vol. 99, no. 5, 1 May 1966 (1966-05-01), pages 1470-1478, XP055120711, ISSN: 0009-2940, DOI: 10.1002/cber.19660990508 compounds 7-11, 19, 20	1,9,13, 15
A	----- R. K. HAYNES ET AL: "Amine oxidation and the chemistry of quinone imines. Part II. 2,5-Di-methoxy-4-t-butylaniline", JOURNAL OF THE CHEMICAL SOCIETY, PERKIN TRANSACTIONS 1, 1 January 1972 (1972-01-01), page 408, XP055120706, ISSN: 0300-922X, DOI: 10.1039/p19720000408 compounds 8, 16	2-8, 10-12, 14,16-24
X	----- Hasegawa et al: "The Carbon-13 NMR Spectra and Electronic Structure of 3H-Phenoxyazin-3-ones", Bulletin of the Chemical Society of Japan, vol. 58, no. 10 1985, pages 2832-2839, XP055120689, Retrieved from the Internet: URL: http://pdf. lookchem.com/pdf/22/8db63bf6-2d9f-46e7-8945-6dd76606c169.pdf [retrieved on 2014-05-28]	1,13,15
A	----- table 1; compounds 2, 3, 11, 16, 17	2-12,14, 16-24
X	----- G W K Cavill ET AL: "THE CHEMISTRY OF MOULD -ETABOLITES-IV REDUCTIVE ACETYLATION AND REOXIDATION OF SOME PHENOXYAZIN-3-ONES", Pergamon Press. Printed in Northern Ireland, 1 January 1961 (1961-01-01), XP055120684, Retrieved from the Internet: URL: http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/0040402061801087/pdf?md5=356a3f5bd7b685aa5e1758def1b632f7&pid=1-s2.0-0040402061801087-main.pdf [retrieved on 2014-05-28]	2-13, 15-24
A	----- page 143; compounds 2-methoxyphenoxazin-3-one	1,10,14
	----- -/-	2-9, 11-13, 15-24

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2014/029809

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	HANS BROCKMANN ET AL: "Actinomycine, XVIII. Antibiotica aus Actinomyceten, XXXIX. Abbau von Actinomycin C zu Actinocinin und Desamino-actinocinyl-threonin", CHEMISCHE BERICHTE, vol. 91, no. 4, 1 April 1958 (1958-04-01), pages 773-781, XP055120681, ISSN: 0009-2940, DOI: 10.1002/cber.19580910411	1,13,15
A	The product of the second paragraph on page 1958 with formula C17H15N05 and chemical name: 3H-Phenoxyazine-9-carboxylic acid, 2-methoxy-4,6-dimethyl-3-oxo, methyl ester	2-12,14, 16-24
X	HANS MUSSO ET AL: "Über Orceinfarbstoffe, V. IR- und UV-Spektren Hydroxy- und Amino-Substituierter Phenoxyazone", CHEMISCHE BERICHTE, vol. 90, no. 9, 1 September 1957 (1957-09-01), pages 1814-1827, XP055120677, ISSN: 0009-2940, DOI: 10.1002/cber.19570900919	1,10,13, 15
A	The 8th, 9th, 10th, 11th and 16th compound on Table 1, page 1816	2-9,11, 12,14, 16-24
X	HANS MUSSO ET AL: "Über Orceinfarbstoffe, XII: Synthesen des [alpha]-Oxy-orceins", CHEMISCHE BERICHTE, vol. 94, no. 3, 1 March 1961 (1961-03-01), pages 585-600, XP055120672, ISSN: 0009-2940, DOI: 10.1002/cber.19610940305	1,10, 13-16
A	The top four compounds and the 2nd and 3rd compound in the second series in the figure of page 588 The top compound in the figure of page 589 Compound XVIII on page 590	2-9,11, 12,17-24
X	VELLAISAMY SRIDHARAN ET AL: "One-pot synthesis of symmetrically disubstituted 3 H -phenoxyazin-3-ones by selective oxidative condensation with LTA", JOURNAL OF HETEROCYCLIC CHEMISTRY, vol. 44, no. 2, 1 March 2007 (2007-03-01), pages 491-493, XP055120669, ISSN: 0022-152X, DOI: 10.1002/jhet.5570440237	1,10,13, 16
A	compounds 4a-4d	2-9,11, 12,14, 15,17-24
	-----	-/-

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2014/029809

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	E Ruzicka ET AL: Chem. Commun. Ber. dtsch. chem. Ges., 1 January 1964 (1964-01-01), page 2244, XP055120528, Retrieved from the Internet: URL: http://rd.springer.com/content/pdf/10.1007/BF00905497.pdf [retrieved on 2014-05-27]	1,9,10
A	Resorufin-beta-bromäthyläther with formula C14H10O3NBr, bottom of page 133 -----	2-8, 11-24
X	YOSHIO UENO: "The alkylation of 3 H -phenoxyazin-3-one derivatives", JOURNAL OF HETEROCYCLIC CHEMISTRY, vol. 19, no. 6, 1 November 1982 (1982-11-01), pages 1579-1580, XP055120537, ISSN: 0022-152X, DOI: 10.1002/jhet.5570190670	1,14
A	compounds 3a, 3b, 4a, 5a, 5b, 5c -----	2-13, 15-24
X	Jun-Ei Kinjo ET AL: 1 January 1987 (1987-01-01), pages 3697-3698, XP055120356, Retrieved from the Internet: http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0040403900963585/pdf?md5=c041cc6da965dbe4bce07f69bff0cdfe&pid=1-s2.0-S0040403900963585-main.pdf [retrieved on 2014-05-27]	1,10,14
A	compounds (2), (3) -----	2-9, 11-13, 15-24
X	ZAYTSEV A V ET AL: "Synthesis and testing of chromogenic phenoxyazinone substrates for [beta]-alanyl aminopeptidase", ORGANIC & BIOMOLECULAR CHEMISTRY, ROYAL SOCIETY OF CHEMISTRY, GB, vol. 6, no. 6, 1 January 2008 (2008-01-01) ; pages 682-692, XP009110143, ISSN: 1477-0520, DOI: 10.1039/B716978G	1,2,5, 10,15
A	compounds 6a, 6c, 6d -----	3,4,6-9, 11-14, 16-24
		-/-

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2014/029809

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	HANS MUSSO ET AL: "Über Orceinfarbstoffe, XVI. Die Autoxydation von Resorcinderivaten, insbesondere des 4,5-Dimethyl-resorcins", CHEMISCHE BERICHTE, vol. 95, no. 12, 1 December 1962 (1962-12-01), pages 2831-2836, XP055120350, ISSN: 0009-2940, DOI: 10.1002/cber.19620951202	1,13,15
A	Compound XX and its O-acetate on page 2836	2-12,14, 16-24
X	----- JOHN F. CORBETT: "The spectra of polycyclic oxazines and azines-III. The infrared spectra of phenoxazinones", SPECTROCHIMICA ACTA, vol. 21, no. 8, 1 August 1965 (1965-08-01), pages 1411-1417, XP055120352, ISSN: 0371-1951, DOI: 10.1016/0371-1951(65)80051-0	1,10,13, 15,16
A	Table 1, the first four mono- or dimethyl substituted phenoxazinones	2-9,11, 12,14, 17-24
X	----- HANS MUSSO ET AL: "Über Orceinfarbstoffe, XX. Die Autoxydationsprodukte des 2,5-Dimethyl-resorcins in Ammoniak und Kalilauge", CHEMISCHE BERICHTE, vol. 96, no. 6, 1 June 1963 (1963-06-01), pages 1593-1609, XP055120359, ISSN: 0009-2940, DOI: 10.1002/cber.19630960617	1,4,13, 15
A	compounds XIX, XIX-Ac (A und B), XVIII	2,3, 5-12,14, 16-24
X	----- MALCOLM R. MCLEAN ET AL: "A photophysical and structural study on dye-type organic molecules with potentially useful nonlinear optical properties", THE JOURNAL OF PHYSICAL CHEMISTRY, vol. 94, no. 11, 1 May 1990 (1990-05-01), pages 4386-4387, XP055121032, ISSN: 0022-3654, DOI: 10.1021/j100374a003	1,9,10, 15,16
A	compound [3]b	2-8, 11-14, 17-24
	----- -/-	

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2014/029809

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	F. KEHRMANN: "Ueber die Constitution der Oxzin und Thiazinfarbstoffe und ihre Beziehungen zu den Azoniumkörpern", JUSTUS LIEBIGS ANNALEN DER CHEMIE, vol. 322, no. 1, 1 January 1902 (1902-01-01), pages 1-77, XP055121037, ISSN: 0075-4617, DOI: 10.1002/jlac.19023220102 Diaminophenazon, page 30	1,9,15
A	----- C W Bird ET AL: "A NEW SYNTHESIS OF 3H-PHENOXAZIN-3-ONES", Tetrahedron, 1 January 1980 (1980-01-01), pages 529-533, XP055121040, Retrieved from the Internet: URL: http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/0040402080800305/pdf?md5=38ad289bab963d9f8e338c52794e4b82&pid=1-s2.0-0040402080800305-main.pdf [retrieved on 2014-06-02] compounds 13, 15, 16	2-8, 10-14, 16-24
A	----- ANA B. DESCALZO ET AL: "Coupling Selectivity with Sensitivity in an Integrated Chemosensor Framework: Design of a Hg 2+ -Responsive Probe, Operating above 500 nm", JOURNAL OF THE AMERICAN CHEMICAL SOCIETY, vol. 125, no. 12, 1 March 2003 (2003-03-01), pages 3418-3419, XP055121126, ISSN: 0002-7863, DOI: 10.1021/ja0290779 compound 2	1,9,10, 13-16 2-8,11, 12,17-24
A	----- HIROYUKI NAKAZAWA ET AL: "Chemical reduction of actinomycin D and phenoxazone analog to free radicals", THE JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY, vol. 46, no. 7, 1 March 1981 (1981-03-01), pages 1493-1496, XP055121294, ISSN: 0022-3263, DOI: 10.1021/jo00320a054 Scheme I the whole document	1,10,15, 16 2-9, 11-14, 17-24
A	----- WO 03/066618 A1 (GALILEO LAB INC [US]) 14 August 2003 (2003-08-14) the whole document	1-24
	----- ----- -/-	

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No PCT/US2014/029809

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 2004/087160 A1 (PRANA BIOTECHNOLOGY LTD [AU]; MASTERS COLIN LOUIS [AU]; CHERNY ROBERT) 14 October 2004 (2004-10-14) the whole document ----- WO 2010/014758 A1 (EDISON PHARMACEUTICALS INC [US]; MILLER GUY M [US]; WESSON KIERON E [U] 4 February 2010 (2010-02-04) the whole document -----	1-24
A		1-24

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No
PCT/US2014/029809

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)			Publication date
WO 03066618	A1 14-08-2003	AU 2003210904	A1	02-09-2003	
		CA 2474974	A1	14-08-2003	
		EP 1472241	A1	03-11-2004	
		JP 2005517014	A	09-06-2005	
		MX PA04007550	A	10-11-2004	
		WO 03066618	A1	14-08-2003	
WO 2004087160	A1 14-10-2004	AU 2004226876	A1	14-10-2004	
		CN 1791408	A	21-06-2006	
		EP 1617844	A1	25-01-2006	
		US 2007037848	A1	15-02-2007	
		WO 2004087160	A1	14-10-2004	
WO 2010014758	A1 04-02-2010	US 2010029706	A1	04-02-2010	
		WO 2010014758	A1	04-02-2010	

フロントページの続き

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード(参考)
A 6 1 P 3/10 (2006.01)	A 6 1 P 3/10	
A 6 1 P 9/00 (2006.01)	A 6 1 P 9/00	
A 6 1 P 25/00 (2006.01)	A 6 1 P 25/00	
A 6 1 P 21/00 (2006.01)	A 6 1 P 21/00	
A 6 1 P 9/10 (2006.01)	A 6 1 P 9/10	
A 6 1 P 25/08 (2006.01)	A 6 1 P 25/08	
A 6 1 P 25/02 (2006.01)	A 6 1 P 25/02	
A 6 1 P 27/02 (2006.01)	A 6 1 P 27/02	
A 6 1 P 9/04 (2006.01)	A 6 1 P 9/04	
A 6 1 P 25/28 (2006.01)	A 6 1 P 25/28	
A 6 1 P 25/16 (2006.01)	A 6 1 P 25/16	
A 6 1 P 25/14 (2006.01)	A 6 1 P 25/14	
A 6 1 P 25/18 (2006.01)	A 6 1 P 25/18	
A 6 1 P 39/06 (2006.01)	A 6 1 P 39/06	
A 6 1 P 35/00 (2006.01)	A 6 1 P 35/00	
A 6 1 P 3/02 (2006.01)	A 6 1 P 3/02	
A 6 1 P 27/06 (2006.01)	A 6 1 P 27/06	
A 6 1 P 27/16 (2006.01)	A 6 1 P 27/16	
A 6 1 P 7/06 (2006.01)	A 6 1 P 7/06	
A 6 1 P 13/12 (2006.01)	A 6 1 P 13/12	

(81) 指定国 AP(BW,GH,GM,KE,LR,LS,MW,MZ,NA,RW,SD,SL,SZ,TZ,UG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,RU,TJ,TM),EP(AL,AT,BE,BG,CH,CY,CZ,DE,DK,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HR,HU,IE,IS,IT,LT,LU,LV,MC,MK,MT,NL,NO,PL,PT,RO,R,S,SE,SI,SK,SM,TR),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,KM,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AO,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BH,BN,BR,BW,BY,BZ,CA,CH,CL,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DO,DZ,EC,EE,EG,ES,FI,GB,GD,GE,GH,GM,GT,HN,H,R,HU,ID,IL,IN,IR,IS,JP,KE,KG,KN,KP,KR,KZ,LA,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LY,MA,MD,ME,MG,MK,MN,MW,MX,MY,MZ,NA,NG,NI,NO,NZ,OM,PA,PE,PG,PH,PL,PT,QA,RO,RS,RU,RW,SA,SC,SD,SE,SG,SK,SL,SM,ST,SV,SY,TH,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US

(72) 発明者 ヒンマン, アンドリュー ダブリュー.

アメリカ合衆国 カリフォルニア 94043, マウンテン ビュー, ノース バーナード
アベニュー 350, エジソン ファーマシューティカルズ, インコーポレイテッド 気付

(72) 発明者 デイヴィス, ダナ

アメリカ合衆国 カリフォルニア 94043, マウンテン ビュー, ノース バーナード
アベニュー 350, エジソン ファーマシューティカルズ, インコーポレイテッド 気付

(72) 発明者 シュレイダー, ウィリアム ディー.

アメリカ合衆国 カリフォルニア 94043, マウンテン ビュー, ノース バーナード
アベニュー 350, エジソン ファーマシューティカルズ, インコーポレイテッド 気付

F ターム(参考) 4C056 AA02 AB01 AC03 AD05 AE03 AF01 AF05 EA10 EB10 EC20

ED02 ED03 ED06 ED07 ED08

4C057 BB10 DD01 KK30

4C086 AA01 AA02 AA03 BC74 EA11 MA01 MA02 MA04 MA05 NA14

ZA02 ZA06 ZA15 ZA16 ZA18 ZA22 ZA33 ZA36 ZA55 ZA81

ZA94 ZB26 ZC21 ZC35 ZC37 ZC52